

令和5年度

東京都美術館年報

Tokyo
Metropolitan
Art Museum
Annual Report
2023



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

令和5年度

東京都美術館年報

Tokyo

Metropolitan

Art Museum

Annual Report

2023



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

目次

はじめに……………	3
概 要……………	5
各事業報告……………	13
1 展覧会事業……………	15
2 公募展事業……………	27
3 アート・コミュニケーション事業……………	45
4 アメニティ事業……………	67
5 広報事業・諸活動……………	75
実績データ……………	89
1 2023(令和5)年度の実績……………	90
2 これまでの実績……………	96
資料1……………	105
資料2……………	119

はじめに

東京都美術館は、すべての人に開かれた「アートへの入口」となり、「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場として、人々の心のゆたかさの拠り所となることを使命としています。

2023(令和5)年度は、「東京都文化戦略2030」と連動した指定管理事業計画の中間見直しを、財団各館と連携しながら適切に実施しました。

加えて5月に新型コロナウイルス感染症が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」の五類感染症に移行したこと等に伴う、持続・共生社会へのシフトやデジタル化の進展など社会環境の変化に柔軟に対応しながら使命を達成するため、事業を着実に推進しました。

このような状況のなか、「展覧会事業」はいずれの展覧会も入場者目標を上回り、「公募展事業」も着実に運営しました。アートや文化資源を介して人々のつながりや新たなコミュニケーションを育む「アート・コミュニケーション事業」は、今年度もオンラインとリアルを組み合わせた各種プログラムを展開し、他館をリードする活動を数多く実践しました。

この年報は、社会と東京都美術館をつなぎ、よりよい美術館運営を行うための大切なツールと位置づけています。編集にあたっては、各事業の内容や成果、実績を分かりやすく紹介することを心がけました。この年報を通して、東京都美術館の活動に一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。

令和6年10月
東京都美術館

概 要

東京都美術館の使命と事業

「都民のための美術の振興を図る」という東京都美術館の設置目的を果たし、東京都が定めた基本的な使命を達成するために、2012(平成24)年のリニューアルを機に指定管理者として管理運営の基本方針を以下のように定めました。

指定管理期間2021(令和3)年度から2026(令和8)年度まで(6年間)において、この基本方針に沿って事業のさらなる充実を図っていきます。

東京都美術館の使命(ミッション)

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある方が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。

新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場=アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

東京都美術館の4つの役割

1. 世界と日本の名品に出会える美術館
2. 伝統を重視し、新しい息吹との融合を促す美術館
3. 人々の交流の場となり、新しい価値観を生み出す美術館
4. 芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める美術館

4つの役割を具現化する4つの柱

- ・特別展や企画展など、見る喜び、知る楽しさを提供する「展覧会事業」
- ・公募団体やグループと連携し、つくる喜びを共有する「公募展事業」
- ・アート・コミュニティ形成による新たな可能性を探求する「アート・コミュニケーション事業」
- ・アートラウンジや美術情報室、ミュージアムショップ、レストラン等、訪れる楽しさを充実させる「アメニティ事業」



「アートへの入口」を目指す10の取組

1 特別展

報道機関との共催により、「世界と日本の名品」に出会う大型の展覧会を開催

2 企画展

アートとライフ(生き方、生命、生活)の深い関係に迫る「アーツ&ライフ展」、日本の現存中堅作家の活動に注目した「現代作家展」、アートとケア(新しい価値観との出会い、学び)をコンセプトに多彩な作り手を紹介する「アーツ&ケア展」の3つのテーマを基本に、毎年1つのテーマを取り上げる独自の企画による展覧会を実施

3 コレクション展

東京都美術館がコレクションとして所蔵する「書」作品を展示するほか、都立の美術館、博物館が所蔵する「東京都コレクション」を紹介する展覧会を実施

4 公募団体展

絵画、彫刻、工芸、書などの作品を公募する団体が主催する展覧会で、年間40会期、約250団体により展覧会を開催

5 学校教育展

教育委員会や高校・大学などの教育支援として行うもので、美術館が児童・生徒・学生の作品発表の場となる展覧会を開催

6 公募展活性化事業

- (1) 上野アーティストプロジェクト
公募展で活躍する優れた現代作家を毎年テーマを決めて選定し紹介する企画展を実施
- (2) 都美セレクション グループ展
新しい発想によるアートの作り手の支援を目的として、企画を公募し、審査により選抜されたグループとともに、ギャラリー空間を生かした展覧会を実施

7 アート・コミュニケーション事業

東京藝術大学との連携事業「とびらプロジェクト」や展覧会に合わせたプログラム(コミュニケーション・プログラム)、障害のある方のためのプログラム(アクセス・プログラム)などを通して「アートへの入口」を継続的に創出。同時に東京都と東京藝術大学と共に行う主催事業「Museum Start あいうえの」では上野公園の文化施設と連携をとりながら、より豊かな体験を提供できるよう事業を展開

- (1) とびらプロジェクト
東京藝術大学と連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を実現していくことを目的に活動。公募によるアート・コミュニケータ(愛称：とびラー)が美術館や文化財を介した新しいコミュニティの回路を作る役割を持ち、学びと実践を繰り返しながらプロジェクトを推進

(2) Museum Start あいうえの

上野公園の9つの文化施設が連携し、上野地域の文化財や文化活動の価値をより認知しやすい環境を作り、子供たちのミュージアム・デビューを応援することを目的とする。「学校プログラム」「ファミリー・プログラム」の2つのプログラムに加えて、ミュージアムを利用しづらい子供たちを招待する「ダイバーシティ・プログラム」も実施

(3) Creative Ageing ずっとび

歳を重ねても「ずっと」通いたくする美術館を目指し、シニア世代を対象に、作品や人とクリエイティブに出会える、参加型のプログラムを企画

(4) 教育普及プログラム

- ① 障害のある方のための特別鑑賞会
障害のある方が安心して鑑賞できるよう、事前申込制で特別展ごとに開催。アート・コミュニケータがサポート
- ② 学校連携
学校の授業や活動として来館する団体への日常的な対応や、教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受入など
- ③ 展覧会関連プログラム
東京都美術館で開催される各展覧会をより深く体験するためのプログラムを開催。講演会やワークショップ、ギャラリートークなど実施
- ④ 建築ツアー
東京都美術館の建築をアート・コミュニケータと共に歩き観察することにより、美術館に親しみその活用のしかたへの理解が深まるツアーを開催
- ⑤ その他の様々な試み
キッズデーの実施やジュニアガイドの作成。各種フォーラムの開催やアート・コミュニケーション事業に関する事業のアーカイブ化など調査研究活動も実施

8 佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

東京都美術館創設に寄与した佐藤慶太郎氏の名前を冠したラウンジを運営。東京都内の美術館を中心にした展覧会などの情報にアクセスできるインフォメーション・サービスを提供。毎年テーマを決めて当館の歴史を紹介するアーカイブズ資料展示も実施

9 美術情報室、アーカイブズ資料

図書、雑誌及び展覧会図録など約5万冊のほか、東京都美術館に関連したアーカイブズ資料約6,000件を収蔵管理し、閲覧室として運営

10 ミュージアムショップ、レストラン・カフェ

日々の暮らしをもっと豊かにする楽しいグッズを取り揃えたミュージアムショップを展開。館内で過ごすひとときを楽しむためのメインダイニング、グラウンドレストラン、カフェを運営

東京都美術館のロゴマーク



2012(平成24)年4月のリニューアルに合わせて、東京都美術館のシンボルとなるロゴマークが誕生した。このロゴマークは、世界的に活躍するデザイナー・吉岡徳仁氏によるもので、「誰にでもわかる明快さ・親しみやすさ」「シンボリックなイメージ」「歴史と未来の融合」「日本をイメージ」といったキーワードをもとに制作された。

2種類のロゴマークには、100年近い当館の歴史や重厚感と同時に、未来へ向けた可能性を感じさせる軽やかさが表現されている。美術館そのものを表すときは色のついた立方体のもの、各事業を表すときは線で描かれた透明性のあるもの、と使い分けている。長く愛され、世界に通用する「100年先の東京都美術館」を見据えた、シンプルで色褪せない魅力にあふれたデザインとなっている。

注) 東京都美術館のロゴマークは公益財団法人東京都歴史文化財団の登録商標である。[参考：商標登録第5520726号、第5520727号]

沿革

1921(大正10)年	3月	北九州の実業家・佐藤慶太郎氏から100万円の寄付
1926(大正15)年	5月	東京府美術館開館(設計：岡田信一郎／開館記念日5月1日)
1943(昭和18)年		都制施行により東京都美術館と名称変更
1965(昭和40)年		建物老朽度調査を実施(～1967(昭和42)年まで)
1968(昭和43)年		美術館建設準備委員会を設置
1972(昭和47)年		新館建設工事着工(設計：前川國男建築設計事務所)
1975(昭和50)年	3月	工事完了
	9月	新館開館。貸館中心だった事業を自主事業として企画展の開催、美術文化事業、美術図書室の運営等を実施。作品収集にも力を注ぐ
1977(昭和52)年	3月	旧館取り壊し工事及び旧館跡地造園工事完了
1994(平成6)年	4月	全収蔵作品及び美術図書資料を東京都現代美術館に移管。以降、報道機関との共催展と、美術団体等による公募展を活動の柱とする
1995(平成7)年	3月	東京都現代美術館開館
1996(平成8)年	4月	東京都教育委員会から(財)東京都教育文化財団(後に東京都生涯学習文化財団へ名称変更)へ管理運営が委託
1998(平成10)年	9月	ミュージアムショップがオープン
2002(平成14)年	4月	(財)東京都生涯学習文化財団から(財)東京都歴史文化財団へ管理運営委託先を変更
2006(平成18)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として3年間管理運営を受託
	5月	開館80周年記念祭を実施
2009(平成21)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として8年間管理運営を受託
2010(平成22)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が公益財団法人へ移行施設設備の老朽化のため大規模改修工事(設計：前川國男建築設計事務所)を実施。約2年間休館
	5月	リニューアル準備室を旧坂本小学校内(台東区下谷)に開設
2011(平成23)年	7月	東京都現代美術館から彫刻作品12点、書作品36点を再移管
	11月	ロゴ・シンボルマークを制定(デザイン：吉岡徳仁デザイン事務所)
2012(平成24)年	3月	博物館法による博物館相当施設に指定
	4月	リニューアルオープン(企画棟除く)。ユニバーサルデザインを採り入れ、展示室の環境改善を行い、レストランやショップを充実。新たな管理運営方針のもと、多様な自主企画の展覧会やアート・コミュニケーション事業等を展開
	6月	リニューアル記念特別展「マウリッツハイム美術館展」オープン(企画棟含め全面オープン)
2016(平成28)年		開館90周年。記念フォーラム、記念展、アーカイブズ資料展示を実施
2017(平成29)年	4月	(公財)東京都歴史文化財団が指定管理者として4年間管理運営を受託
2021(令和3)年	4月	(公財)東京都歴史文化財団が指定管理者として6年間管理運営を受託

東京都(府)美術館 歴代館長一覧

氏名	就任年月日
平塚 広義	1926(大正15)年5月1日
中川 建蔵	1929(昭和4)年7月5日
牛塚 虎太郎	1929(昭和4)年10月9日
長谷川 久一	1931(昭和6)年12月18日
藤沼 庄平	1932(昭和7)年1月12日
香坂 昌康	1932(昭和7)年5月27日
横山 助成	1935(昭和10)年1月15日
館 哲二	1937(昭和12)年2月10日
岡田 周造	1938(昭和13)年6月24日
川西 実三	1941(昭和16)年1月17日
松村 光磨	1942(昭和17)年1月9日
生悦住 求馬	1943(昭和18)年7月1日
清水 虎雄	1945(昭和20)年6月21日
館林 三喜男	1945(昭和20)年10月24日
宇佐美 毅	1946(昭和21)年1月25日
田中 豊蔵	1947(昭和22)年10月24日
宇佐美 毅	1948(昭和23)年5月1日
尾川 藤十郎	1950(昭和25)年4月1日
加藤 清一	1950(昭和25)年4月25日
杉山 司七	1950(昭和25)年8月1日
早川 治平	1955(昭和30)年6月1日
堀口 鋼鉄	1959(昭和34)年12月1日
沼沢 武彦	1960(昭和35)年12月1日
阿部 敏武	1963(昭和38)年7月15日
今井 治夫	1967(昭和42)年5月22日
植野 一男	1971(昭和46)年12月1日
小杉山 清	1974(昭和49)年7月6日 (館長事務取扱 社会教育部長)
新島 武	1974(昭和49)年12月1日
工藤 昭和	1977(昭和52)年7月11日
村上 七郎	1979(昭和54)年8月1日
富永 次雄	1982(昭和57)年8月1日
本江 哲郎	1984(昭和59)年12月1日
長尾 正平	1987(昭和62)年6月1日
佐藤 好雄	1988(昭和63)年8月1日
信川 成正	1989(平成元)年8月1日
青山 康行	1990(平成2)年8月1日
村林 宗昭	1993(平成5)年7月16日
真室 佳武	1995(平成7)年4月1日
高橋 明也	2021(令和3)年10月1日

4月	9日	「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」開幕
	27日	「マティス展」開幕(8月20日まで)
6月	12日	「障害のある方のための特別鑑賞会」を「マティス展」にて開催
7月	22日	「うえののそこから」はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」開幕(10月9日まで)
	29日	「アート・コミュニケーション事業を体験する2023」開幕(8月11日まで)
8月	17日	「Museum Start あいうえの」のティーンズ・プログラム“みるラボ：わからないのはじまり”を実施(17～19日の3日間)
9月	16日	「永遠の都ローマ展」開幕(12月10日まで)
10月	10日	「障害のある方のための特別鑑賞会」を「永遠の都ローマ展」にて開催
11月	16日	上野アーティストプロジェクト2023「いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間」開幕(1月8日まで)コレクション展「動物園にて―東京都コレクションを中心に」開幕(1月8日まで)
	23日	「とびらプロジェクト」オープン・レクチャー Vol.14「認知症世界とアートの出会い―Creative Ageing ずっととびの取り組みから」を開催
1月	4日	とびらプロジェクト13期 アート・コミュニケーター(とびラー)募集受付開始
	21日	「とびらプロジェクト」フォーラム、「ミュージアムと偶発力 共創を生み出すまざし」を開催
	27日	「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」開幕(4月7日まで)
2月	13日	「障害のある方のための特別鑑賞会」を「印象派 モネからアメリカへウスター美術館所蔵」にて開催
	20日	アーカイブズ資料展示「企画展「現代美術の動向II 1960年代―多様化への出発」(1983年)を振り返る」を中央棟1階アートラウンジにて開催(3月17日まで)

【受賞】

第7回 日本展示学会賞(「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」)

2023(令和5)年度 実績と評価

--

令和5年度は、5月から新型コロナウイルス感染症が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」の五類感染症に移行したが、特別展では良好な鑑賞環境保持のために土・日・祝日及び会期末は日時指定制を堅持して、安全第一に美術館の運営を行った。着実に事業を実施し、約207万人の来館者を迎えることができた。

実績

展覧会事業

特別展は3本実施し、「マティス展」では、ポンピドゥー・センターの所蔵品を中心にアンリ・マティスの多岐にわたる芸術的実践の魅力を伝えた。「永遠の都ローマ展」では、カピトリノ美術館の所蔵品を中心に、「永遠の都」と称されるローマ二千年の歴史と芸術を紹介した。「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、印象派の世界的受容と展開を分かりやすく紹介。出品作品のほとんどが日本初公開で、アメリカにおける印象派の知られざる魅力を堪能できる貴重な機会となった。

日時指定制に関しては、引き続き、土・日・祝日及び会期終盤の平日に適用し、大きな混乱なく運営することができた。また、懸案事項であったシルバーデーについては、「シニア無料観覧券(平日限定)」の抽選プレゼント方式に切り替え、「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」からスタートさせた。

参加体験型の作品も多く展示した企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」では、入場者数38,562人と東京都美術館リニューアル(2012年)後に始まった現代作家展の中で最も動員数が多かった。また、アート・コミュニケーション事業と連動して展覧会ファシリテータを一般公募し、アート・コミュニケータを含む総勢180名が来場者と作品との出会いや鑑賞のサポートを行い好評を得た。

日本の動物園の歴史を紹介したコレクション展「動物園にて―東京都コレクションを中心に」では、写真、絵画、資料、映像などを用いた展示で目標以上の入場者数を達成した。

公募展事業

公募展事業の令和7年度の単年度使用割当は96.5%の割当となった。令和5年度開催の学校教育展・公募団体展は各主催団体に協力を要請しながら安全に実施した。

「都美セレクション グループ展 2023」では、現代美術の

動向を反映する3つの企画を実施した。

上野アーティストプロジェクト2023「いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間」では、特定の生物を真摯に見つめ観察して制作し続けてきた6人の作家の作品を通して公募団体展にかかわる作家の魅力を効果的に伝えるとともに、鑑賞者との新たな出会いの場となった。展示においては、視覚障害のある方に手で触れて鑑賞できるタッチカービングや一部作品の触察ツールを制作展示した。出品作家とゲストによるトークイベントでは6回のすべての実施回にて文字通訳を配備し、アクセシビリティへの工夫も行った。その他、ダンス・ウェルも開催するなど、身体にさまざまな不自由さのある方の参加を促す工夫も行い、高い満足度を得た。

アート・コミュニケーション事業

「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」「Creative Ageing ずっとび」で今年度も事業を推進した。また、企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」と連動し、とびラーと任期満了したとびラー、一般公募の方からなる展覧会ファシリテータが会場に常駐し、来場者の鑑賞をサポートした。企画展では、他にもキッズ＋U18デーや、出品作家によるワークショップ、アーティストトークなどさまざまなプログラムを実施した。

併せて、今年度からの新たな取り組みとして、公募展示室を会場に、アート・コミュニケーション事業の活動を一般の方にも分かりやすく紹介する「アート・コミュニケーション事業を体験する」を13日間開催した。会場にはアート・コミュニケータが常駐し、とびらプロジェクトの仕組みを来館者に紹介するワークショップや建築ツアーなどを行い、事業の発信を行った。

アメニティ事業

アメニティ事業では、ミュージアムショップ、美術情報室、レストラン・カフェ等で日々さらなるホスピタリティの向上に努めた。展覧会担当者と広報担当者がレストランとショップの特別展メニューやグッズ開発に協力したことから、いずれも売り上げが好調で収入面にも寄与した。

自己評価

広報では、適切な情報の提供に努めるとともに、現場では毎日来館者に各持場で丁寧に対応した。アメニティ事業では、ミュージアムショップ、美術情報室、レストラン・カフェ等で日々さらなるホスピタリティの向上に努めた。

「マティス展」では、ポンピドゥー・センターの全面的な協力のもと、アンリ・マティスの多岐にわたる芸術的実践の魅力を分かりやすく伝えた。「永遠の都ローマ」展では、カピトリノ美術館の所蔵品を中心に、「永遠の都」と称される世界遺産ローマ二千年の歴史と芸術を、約70点の作品により紹介した。「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、印象派の世界的受容と展開を日本の外光派などの紹介も加えて分かりやすく紹介した。

企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」では、これまでの版画や参加体験型のインスタレーション等をバランスよく展示した。上野の歴史をテーマにした大型の新作インスタレーション《記憶のそこ》は地域的话题を呼んだ。

コレクション展「動物園にて―東京都コレクションを中心に」では、日本の動物園の歴史を、写真、絵画、資料、書籍、映像などでたどる展示にした。いずれも、目標以上の入場者数を達成した。

公募展事業では、令和7年度の単年度使用割当を決定し、96.5%の割当となった。上野アーティストプロジェクト2023「いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間」では、特定の生物を真摯に見つめ観察して制作し続けてきた作家6人を紹介し、公募団体展にかかわる作家たちの知られざる魅力を紹介し、また、展示ではタッチカービングや触察ツールを配したり、関連事業ではダンス・ウェルの実施の他、トークイベントにて文字通訳を配備しアクセシビリティへの工夫も行った。「都美セレクション グループ展 2023」では、絵画、写真、映像など現代美術の動向を反映する3つの企画を実施した。

アート・コミュニケーション事業では、本年度も「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」「Creative Ageing ずっとび」を中心に、引き続き活発な活動を続けた。併せて、企画展と連動し5年ぶりに実施した展覧会ファシリテータ運営に加え、これまでの活動をふりかえり事業を分かりやすく伝える「アート・コミュニケーション事業を体験する」を新たに実施することで、より多くの方にアート・コミュニケーション事業について発信する機会を作ることができた。

上野公園の文化施設の連携を継続しながら、広報においても引き続き上野の商業施設との連携広報の取り組みを積極的に行った。特に「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では鉄道会社や上野地区商店街との広報を積極的に展開して話題を呼び、目標を大きく超える入場

者を獲得している。今年度はほぼ全面的に新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前にまで状況が回復した。

令和6年度においても、ますます変動する社会情勢に柔軟に対応しつつ、東京都の「新文化戦略2030」と財団の「改訂長期ビジョン」等を参照し、関係各機関と密接に情報を共有しながら、2026年の開館100周年を見据えて、適切に事業を実施していく。

外部評価委員会による評価(総括的な意見)

どの展覧会も入場者数目標を上回り、特に「マティス展」は新型コロナウイルス感染症からの回復を確信させる入場者実績であった。社会状況の変化に柔軟に対応し、向上心を持って努力を継続した職員の成果と考える。単に入館者数が多いのみならず、展示やカタログにおいても工夫が見られ、幅広い層が楽しめるきわめて高いレベルの展覧会であった。

企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」は通常とは異なる展示構成が印象的であった。コレクション展「動物園にて―東京都コレクションを中心に」や、上野アーティストプロジェクト2023「いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間」はキュレーションの妙が光る展覧会であり、どちらも企画の目的を十分に達成している。

都美は2026年、開館100周年を機に、新しい美術館モデル「芸術文化による社会包摂と心身の健康幸福」を目指している。

企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」での展覧会ファシリテータの活躍と多様な参加型プログラム、「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間」での触察図やタッチカービング、基本的来館者対応でのアクセシビリティ配慮、アート・コミュニケーション事業「Creative Ageing ずっとび」プロジェクトでの高齢者や認知症への積極的な関与は、この目標に近づく都美ならではの実績と高く評価したい。

運営に関しても適切になされており、総じて高く評価したい。

この年度の本館の活動は、本館創出のアート・コミュニケーション事業と問題意識を鮮明にした企画展事業という二つの大きな事業が深くリンクしながら進む、新しい美術館の在り方を創出しながら近づいてくる100周年を迎えようとしていると言えよう。

各事業報告

1

展覧会事業

「アートへの入口」となり、「心のゆたかさの拠り所」を目指すミッションを果たすべく、バラエティに富んだ3つの展覧会事業を実施している。報道機関と共催し、世界や日本の名品を紹介する「特別展」、2012年のリニューアルオープンを機にスタートした独自のテーマ設定による「企画展」、そして、当館のコレクションのほかに、都立の美術館、博物館の所蔵品によって構成される「コレクション展」である。

特別展

マティス展

永遠の都ローマ展

印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵

企画展

うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展

コレクション展

動物園にて ―東京都コレクションを中心に

【特別展】

マティス展

Henri Matisse: The Path to Color

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、ポンピドゥー・センター、朝日新聞社、NHK、NHK プロモーション

後援／在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本 特別協賛／大和証券グループ

協賛／ダイキン工業、大和ハウス工業、NISSHA

協力／日本航空、ルフトハンザ カーゴ AG

会期／2023年4月27日(木)～8月20日(日)

会場／企画展示室

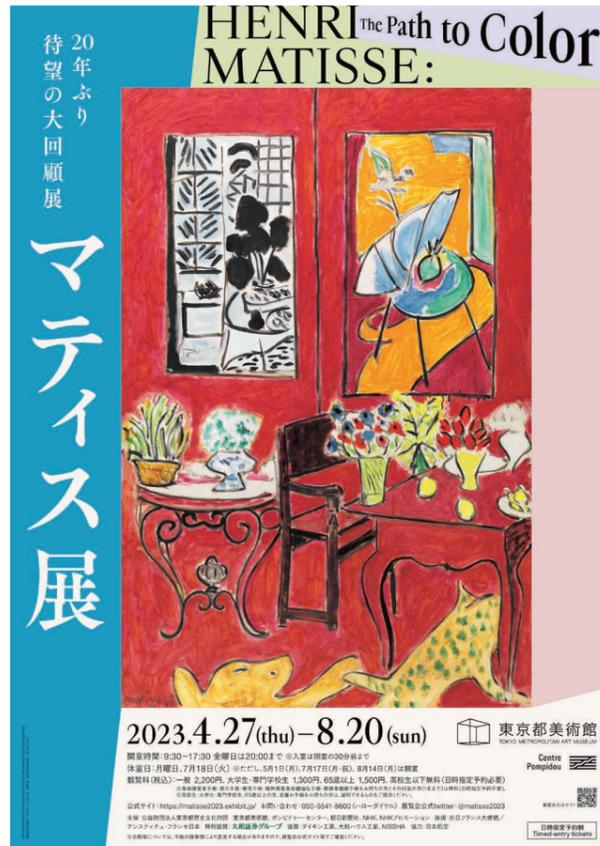
出品点数／155点

観覧料／一般 2,200円、大学生・専門学校生 1,300円、65歳以上 1,500円

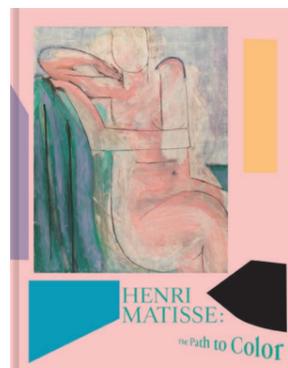
担当／藪前知子

本展は、ポンピドゥー・センターの全面協力のもと、同館の世界有数を誇るマティスコレクションから選りすぐった名品による、日本における20年ぶりの大回顧展となった。初期から最晩年までの各時代の道標となる重要な作品を年代順に並べた構成により、一貫した問題意識を伴いつつも多彩な変化を遂げたその造形的な探究をわかりやすく示した。

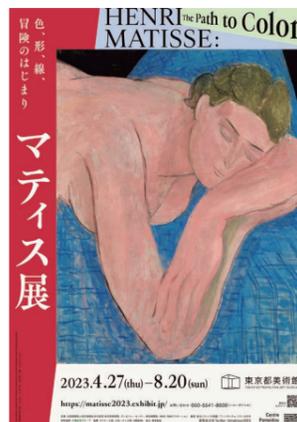
また、彫刻作品や晩年の切り紙絵など、多岐にわたるメディアを絵画制作との関連を見せつつ紹介し、マティス芸術の豊かさを示した。最晩年の傑作である「ヴァンス礼拝堂」についても、現地で撮り下ろした映像と豊富な資料やマケットとともに、光の推移によって変化する空間の魅力を紹介した。



ポスター



図録表紙



チラシ



会場風景

撮影：森田兼次

実績

入場者数／447,900人(1日平均 4,391人)

関連企画

なし

掲載記事など

- ・「大特集 マティスと日本美術」／『和楽』(小学館)2023年6・7月号、pp.34-85
- ・「特集 マティスのとびら 解き放たれた色と形」／『芸術新潮』(新潮社)2023年6月号、pp.21-83
- ・「マティス展開催中 学芸員に編集委員が魅力を聞く 来場は30万人超」／『朝日新聞デジタル』(朝日新聞社)2023年7月25日
- ・「アンリ・マティス「ロザリオ礼拝堂」×市川実日子」／『新美の巨人たち』(テレビ東京)2023年6月17日
- ・「マティス 幸せの色彩」／『日曜美術館』(NHK Eテレ)2023年6月18日

図録[A4変形判／288ページ]

- ・「タブローの「精神」—マティスの実践と理論における主体の位置」 近藤学(美術史家、翻訳家)pp.186-197
- ・「マティスの黒い窓」 藪前知子(東京都美術館 学芸員)pp.198-205
- ・「「プリミティヴィズム」—アフリカ芸術との出会い」 アラスデア・ライト(オックスフォード大学セント・ジョンズ・カレッジ准教授)pp.206-215
- ・「もうひとつの生を生きる—マティスのアオリスト」 岡崎乾二郎(造形作家、批評家)pp.216-231
- ・ *Matisse's Black Window* Tomoko Yabumae(Curator, Tokyo Metropolitan Art Museum), pp.232-237
- ・ *Living Another Life: Matisse's Aorist Tense* Kenjiro Okazaki(Artist, Critic), pp.238-249

【特別展】

永遠の都ローマ展

Rome, the Eternal City: Masterpieces from the Capitoline Museums' Collection

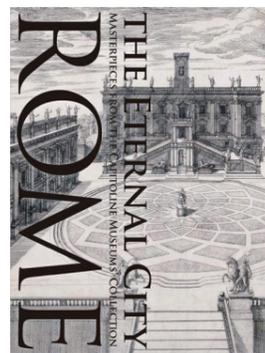
主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション
 共催／ローマ市、ローマ市文化政策局、ローマ市文化財監督局
 後援／駐日イタリア大使館
 協賛／JR東日本、大和ハウス工業、DNP大日本印刷
 協力／ITAエアウェイズ、日本貨物航空
 会期／2023年9月16日(土)～12月10日(日)
 会場／企画展示室
 出品点数／76点
 観覧料／一般 2,200円、大学生・専門学校生 1,300円、65歳以上 1,500円
 担当／小林明子

「永遠の都」として知られるローマの歴史と文化は、古代以来、政治や宗教の拠点とされたカピトリノの丘を中心に築かれた。その丘に建つカピトリノ美術館は、世界的にもっとも古い美術館の一つに数えられる。本展では、同館をはじめローマ市内の美術館が所蔵する約70点の彫刻、絵画、版画等とおして、古代から近代にいたるローマの歴史と芸術を紹介した。また、岩倉使節団のカピトリノ訪問から150年という節目を記念し、ローマと日本との交流を特集展示として紹介した。

古代の大理石彫刻や巨像の複製等、多数の立体作品が出品されたことにより、本展ならではの迫力ある展示風景が創出された。とくにカピトリノ美術館の顔ともいえる門外不出の作品《カピトリノのヴィーナス》の瀟洒な演出によるアイコン的な展示は話題を集めた。冒頭で展示内容の要点を簡潔に伝えるイメージ映像を上映し、鑑賞者が歴史的内容を視覚的、感覚的に理解できるよう工夫した。



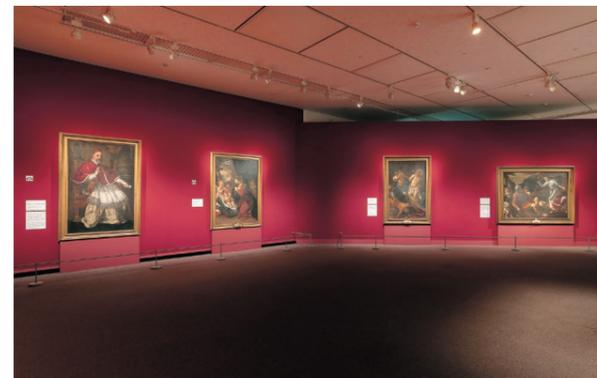
チラシ



図録表紙



ポスター



会場風景

撮影：大谷一郎

実績

入場者数／153,554人(1日平均 2,075人)

関連企画

なし

掲載記事など

- ・「“世界最古の美術館”の名品でたどる 永遠の都の、永遠のはじまり」／『芸術新潮』（新潮社）2022年12月号（2022年11月25日）、pp.112-113
- ・「突撃！ ロマンあふれる古代ローマのお金のヒミツ」／『有吉のお金発見突撃！カネオくん』（NHK総合）2023年9月23日
- ・「ローマと日本 時空を超えた縁」松沢奈々子／『朝日新聞』（朝日新聞社）2023年9月26日夕刊、p.3
- ・「ACTUS HungOut 永遠の都ローマ展」／『ACTUS』（エフエム富士）2023年9月26日
- ・「近代的な思想 繁栄の礎」青柳正規、聞き手：高橋咲子／『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年10月13日朝刊、p.14
- ・「永遠の都ローマ展」／『日曜美術館』アートシーン（NHK Eテレ）2023年10月15日
- ・「光と影、永遠の都ローマの物語」／（NHKBS8K、プレミアム4K）2023年10月29日ほか
- ・「目は語る「永遠の都ローマ展」東京都美術館「憧れの街」をなす歴史」高階秀爾／『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年11月9日夕刊、p.4
- ・「#94「永遠の都ローマ展」について」／『アートテラー・とに～のそろそろ美術の話～』（ポッドキャスト）2023年11月10日
- ・「街角ステーション～噂を求めてどこまでも～」／『辛坊治郎 ズーム そこまで言うか!』（ニッポン放送）2023年11月28日

図録[A4変形判(22.4×29.7cm)／248ページ]

- ・「カピトリノ美術館と近代的ミュージアムの誕生」クラウディオ・バリージ=プレシッチェ(ローマ市文化財監督官、本展監修者)pp.12-19
- ・「ローマのカピトリノの丘の象徴的役割——古代から中世を中心に——」加藤磨珠枝(美術史家、立教大学文学部教授、本展監修者)pp.20-26
- ・「カピトリノ美術館の「絵画館」と教皇ベネディクトゥス14世」小林明子(東京都美術館 学芸員)pp.206-210
- ・「ミケランジェロのカンピドリオ広場にみる重層性と反復性」飛ヶ谷潤一郎(東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 准教授)pp.212-213

【特別展】

印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵

Frontiers of Impressionism: Paintings from the Worcester Art Museum

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、
日本テレビ放送網、日テレイベンツ、BS日テレ、
読売新聞社

後援／アメリカ大使館

協賛／光村印刷

協力／NX日本通運、TOKYO MX、TOKYO FM

会期／2024年1月27日(土)～4月7日(日)

会場／企画展示室

出品点数／68点

観覧料／一般 2,200円、大学生・専門学校生 1,300円、65
歳以上 1,500円

担当／大橋菜都子

ほとんどが日本初公開となるウスター美術館のコレク
ションを中心に、印象派がヨーロッパやアメリカへもたら
した衝撃と影響をたどる展覧会。西洋美術の伝統を覆した
印象派の革新性とその広がり、とりわけアメリカ各地で展
開した印象派の諸相に注目した。

「伝統への挑戦」「パリと印象派の画家たち」「国際的な
広がり」「アメリカの印象派」「まだ見ぬ景色を求めて」の
5章構成で、印象派の先駆けとなる動きからポスト印象
派、20世紀初頭の各地での展開を辿った。日本ではあまり
知られていないアメリカ印象派の画家と作品をわかりやす
く紹介するため、全点に作品解説を付し、ストーリーの
わかりやすい展示空間を創出した。

作品の収蔵経緯がわかる手紙などのアーカイブ資料や、
日本における印象派の広がり示す国内作品をくわえること
で、展示内容の理解をより深められるよう工夫した。新
しい作家・作品を知れたと好評の声が多く、これまで展示
される機会の少なかったアメリカ印象派を日本で紹介する
貴重な機会となった。



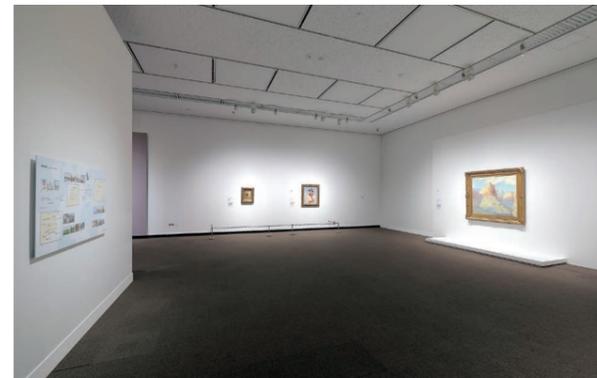
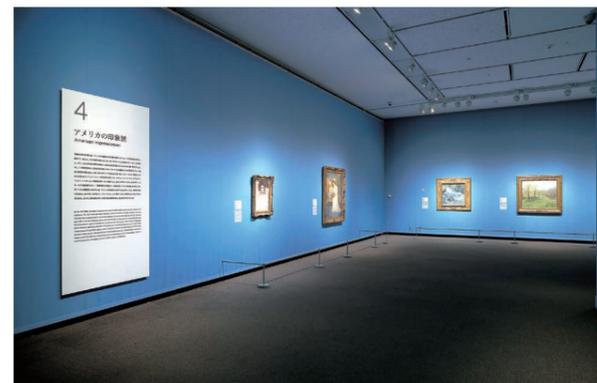
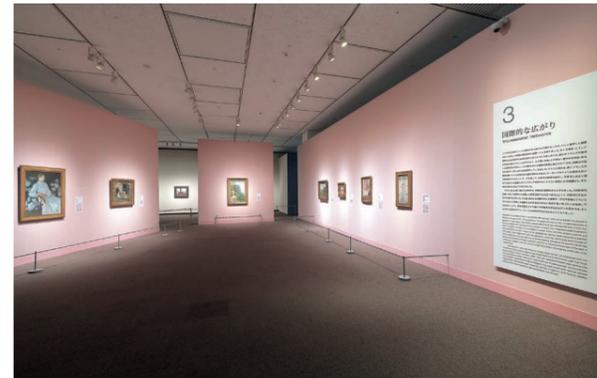
ポスター



図録表紙



チラシ



会場風景

撮影：大谷一郎

実績

入場者数／313,508人(1日平均 4,899人)

関連企画

・記念講演会

1月27日(土) 11:00～12:30 講堂／参加者数178人

テーマ／「広がりつづける印象派：地域を越えるアート・ムーブメント」

講師／クレア・ホイットナー(ウスター美術館 学芸部長、ヨーロッパ美術
学芸員ジェームズ・A・ウェル記念席)

掲載記事など

・「news every.特別編 鈴鹿央士、印象派を知る。」／「news every.」(日
本テレビ)2024年2月10日

・「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」／「日曜美術館」
アートシーン(NHK Eテレ)2024年3月17日

・「第23回：印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵～東京
都美術館～」／「はじめての美術館」(TOKYO MX)2024年3月10日

・「美術展ナビ 海を越え広がった印象派」／「読売新聞」(読売新聞社)
2024年2月1日夕刊

・中野京子「印象派」展 国や個人を超越した魅力」／「新潟日報」(新潟
日报社)2024年3月21日

図録[A4変型判／262ページ]

・「印象派のフロンティア」

クレア・ホイットナー(ウスター美術館 学芸部長、ヨーロッパ美術学芸
員ジェームズ・A・ウェル記念席)pp.12-17

・「日本における印象派フロンティア」

大橋菜都子(東京都美術館 学芸員)pp.18-23

【企画展】

うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展

From the depths of Ueno, a story begins—Tamana Araki

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、
 会期／2023年7月22日(土)～10月9日(月・祝)
 会場／ギャラリーA・B・C
 出品点数／118点
 観覧料／一般 1,100円、大学生・専門学校生 700円、65歳以上 800円
 担当／熊谷香寿美、河野佑美、藤岡勇人

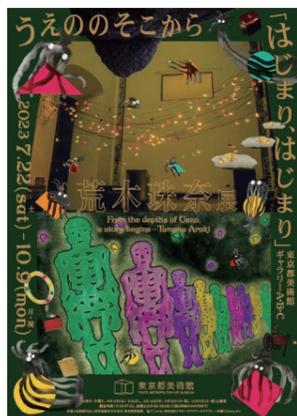
90年代から国内外で作品を発表してきた荒木珠奈(1970-)の美術館での初めての回顧展。荒木は、光と影、昔話、家や舟といった物語を想起させるモチーフで、鑑賞者の郷愁、感情、記憶を揺さぶりながら、非日常の世界へ誘う作品を発表してきた。本展では、初期作品から近作そして本展のための最新作まで118点を紹介。多様なジャンルの新旧作品を網羅するとともに、新作として「上野の記憶」に着想を得た大型のインスタレーションをギャラリーAの地下空間に展示した。

多岐にわたる新旧作品を展示することで、一人ひとりの営みを大切に作家の魅力を改めて伝えることができ、まだ知られていない中堅作家をより多くの人に伝える機会とすることができた。来場者アンケートでは、この作家を初めて知ったが出会えてよかったといったコメントも多く書かれていた。また、東京都美術館リニューアル(2012年)後に始まった現代作家展で最も動員数が多かった。加えて、アート・コミュニケーション事業と連動し、180人の市民が展覧会ファシリテータとして会場での作品を介した豊かなコミュニケーションの場づくりを行った。アンケートでは、ファシリテータの来館者に寄り添った対応について多数の方から好意的なコメントを得た。

図録[A5変形判(190mm×190mm、スリーブ付き2冊組／125ページ)
 (上巻2023年7月発行)
 ・「『記憶のそこ』について」
 荒木珠奈、pp.107-112
 ・「作家メッセージ」pp.124-125
 荒木珠奈、pp.124-125
 (下巻2023年12月発行)
 ・「日常と非日常をつなぐ、ちょっと怖くて不思議な世界へようこそ」
 熊谷香寿美(東京都美術館 学芸員) pp.117-124



ポスター



チラシA



チラシB



図録表紙



会場風景 撮影：上から、加藤健、Hiro Ihara、Hiro Ihara、鷹取詩穂

実績

入場者数／38,562人(1日平均 551人)

関連企画

- ・おかえりギャラリークルーズ
7月30日(日) 10:30-12:00 / 参加者数47人
- ・キッズ+U18デー
7月31日(月) 10:00-16:00 / 参加者数354人
- ・みんなでつくろうレッツ「ケエジン」!
8月3日(木) 10:00-12:00 / 参加者数30人
- ・不思議な生き物になろう!
8月11日(金・祝) 10:00-12:00 / 参加者数19名
- ・アーティスト・トーク
〈第1回〉7月22日(土) 14:00-15:30 / 参加者数44人 / テーマ「展覧会のこと・上野のこと」/ 登壇者：荒木珠奈、五十嵐泰正(筑波大学人文社会科学系教授、上野まちづくり協議会事務局アドバイザー)、〈第2回〉8月1日(火) 10:00-11:30 / 参加者数35人 / テーマ「メキシコの暮らしとアート」/ 登壇者：荒木珠奈、長屋美保(ライター)、〈第3回〉8月4日(金) 10:00-11:30 / 参加者数33人 / テーマ「台東区の外国にルーツのある子供たちについて」/ 登壇者：荒木珠奈、山藤弘子(日本語教師)
- ・プロフェッショナルトーク
〈第1回〉7月22日(日) 11:00-12:30 / 参加者数36人 (Instagram Live 視聴アカウント数283) / テーマ「展覧会オリジナルグッズの作り方」/ 登壇者：永田愛(株美術出版エデュケーション アート事業部)、田村穂文(東京都美術館ミュージアムショップ店長)、〈第2回〉9月24日(日) 11:00-12:30 / 参加者数36人 (Instagram Live 視聴アカウント数244) / テーマ「展覧会グラフィックの作り方」/ 登壇者：大西隆介(direction Qアートディレクター、本展グラフィック担当)、田部井美奈(アートディレクター、「マティス展」グラフィック担当)
- ・ダイアログナイト with とびラー
8月18日、25日、9月1日、15日、29日、10月6日、各金曜18:45-19:15 / 参加者数のべ151人

掲載記事など

- ・ART「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」山田貴美子 / 『anan』(マガジンハウス)2023年8月2日
- ・「親しみと異物感 営みの物語」 / 『毎日新聞』(毎日新聞社)2023年8月21日夕刊
- ・「温かさとは不安、不思議な空間 二面性が同居する魅力 荒木珠奈さん回顧展」 / 『朝日新聞』(朝日新聞社)2023年8月22日
- ・「光と闇がつむぐ物語」 / 『美術の窓』(生活の友社)2023年9月号
- ・「荒木珠奈 地の底で巡る上野ものがたり」 / 『芸術新潮』(新潮社)2023年10月号
- ・「展覧会レポート「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」」坂戸亮介 / 『版画芸術』(阿部出版)2023年9月1日
- ・「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」 / 『日曜美術館』アートシーン(NHK Eテレ)2023年9月24日

【コレクション展】

動物園にて — 東京都コレクションを中心に

At the Zoo — From the Tokyo Metropolitan Collection and Other Collections

2023年11月16日(木)～2024年1月8日(月・祝)

主催／東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

連携／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館・東京都写真美術館・東京都現代美術館

会期／2023年11月16日(木)～2024年1月8日(月・祝)

会場／ギャラリーB

出品点数／60点

観覧料／無料

担当／大内曜

東京都美術館に隣接する上野動物園という日本最古の動物園に焦点をあてながら、東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館に加え、その他の施設・個人が所蔵する日本の動物園に関わる絵画、版画、写真、映像、文献資料等多岐にわたる資料を用いて、日本近代における「動物園」の成立とその展開の過程を、主に視覚芸術史的側面からたどるという画期的な企画となった。

「動物園」という切り口を設けることで、各所蔵館でも展示機会の希少であった資料や初公開となる資料の効果的活用が実現し、多様な特性を持つ資料から多角的に「動物園」を照らし出すことによって、その制度・施設と人々との関係性について再考する機会となった。また、上野動物園をはじめ、東京国立博物館、東京藝術大学等近隣の施設の所蔵資料も借用・展示するなど、上野エリアの歴史にも深く関連する、開催地ならではの展示会となった。

展示内容に関係する貴重な記録映画の上映会を計5回実施したほか、関連する専門家・識者によるトークイベントやワークショップを計4回実施し、いずれも大盛況だった。



ポスター



チラシ



会場風景

撮影：Daisaku Oozu

実績

入場者数／24,488人(1日平均 662人)

関連企画

・トーク

11月25日(土)10:30～12:00 講堂／参加者数181人

テーマ／「動物園の歴史をつくった動物たち」

出演／小宮輝之(上野動物園 元園長)

11月26日(日)13:30～16:00 講堂／参加者数90人

テーマ／「動物園と人間」

出演／小原真史(東京工芸大学 准教授)×松本篤(NPO法人remo/AHA! 世話人)

12月2日(土)14:00～16:00 講堂／参加者数105人

テーマ／「動物園のはじまりをめぐる」

出演／木下直之(静岡県立美術館 館長、神奈川大学 特任教授)

・ワークショップ「8mmフィルム鑑賞会 動物園をうつす」

11月23日(木・祝)14:00～16:00 スタジオ／参加者数11人

進行／松本篤

・記録映画上映会

上映作品／「動物園日記」(岩波映画製作所、1957年、74分)、「年輪の秘密シリーズNo.15 剥製」(岩波映画製作所、1959年、17分)

①11月19日(日)14:00～ 講堂／参加者数28人

②11月24日(金)17:30～ 講堂／参加者数30人

③12月3日(日)14:00～ 講堂／参加者数39人

④1月6日(土)14:00～ 講堂／参加者数101人

⑤1月8日(月・祝)14:00～ 講堂／参加者数109人

掲載記事など

・三澤麦「人間と様々ないきものとの関係性を見つめ直す。東京都美術館で「いのちをうつす」「動物園にて」展を見る」／ウェブ版『美術手帖』(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)2023年11月17日

・木下直之「文春美術館 その他の世界59 動物園に行きたくなる「動物園にて—東京都コレクションを中心に」」／『週刊文春』(文藝春秋)2023年12月28日号

・慶野結香「【年末特別企画】15人が選ぶ「2023年ベスト展覧会」。批評家やキュレーターらのセレクションをコメントとともにお届け」／ウェブ『Tokyo Art Beat』(アートビート)2023年12月22日

・大澤夏美「これぼーとの2023年よかった展覧会」／ウェブ「これぼーと 全国美術館常設展評」(これぼーと)2023年12月31日

2

公募展事業

東京都美術館は開館以来、美術や書などの公募団体の発表の場であり、有名無名の芸術家による何万点という新作を毎年発表してきた。かつては、主に会場を提供する貸館事業という位置づけだったが、リニューアルオープン後は、「つくる喜びを共有する場」とする公募展事業として、美術館が公募団体や学校教育機関、そして美術グループと連携して関わりを深めていくことになった。

公募展活性化事業

東京都美術館が主催し、公募団体その他美術グループと連携協力し、美術界の活性化を図る展覧会

上野アーティストプロジェクト2023

「いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」

都美セレクショングループ展2023

財団内連携事業

学校教育展

教育委員会や高校・大学などの教育支援として行うもので、美術館が児童・生徒・学生の作品発表の場となる展覧会

公募団体展

絵画、彫刻、工芸、書などの作品を公募する団体が主催する展覧会

講堂・スタジオ

【公募展活性化事業】

上野アーティストプロジェクト2023

「いのちをうつす — 菌類、植物、動物、人間」

Ueno Artist Project 2023: Picturing and Touching the Lives of Others — Fungi, Plants, Animals and Humans

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
会期／2023年11月16日(木)～2024年1月8日(月・祝)
会場／ギャラリーA・C
出品点数／245点
観覧料／一般 500円、65歳以上 300円
担当／大内曜

上野アーティストプロジェクト第7弾となる本展では、数十年以上にわたり特定のいきものと向き合い、それらの姿をうつし続けてきた6名のつくり手たちに注目した。

きのこ(菌類)を描く小林路子、植物を日々描き続けた辻永、日本のバードカービング(野鳥彫刻)界を牽引する内山春雄、サラブレッドを撮り続けた今井壽恵、酪農場の牛の木版画を作る富田美穂、世界中のゴリラを描き続ける阿部知暁。それぞれが、偶然の出会いを機に魅了され、描き／かたどり続けてきた様々な「いのち」と、切実に向き合う姿勢やまなざし、そして生み出された作品を通し、人間と他のいきものとの多様な関係性について考えをめぐらす機会となった。

会場内には、内山春雄が長年取り組んできた「タッチカービング」39点および一部作品の触察図をあわせて展示し、手で触って鑑賞する場を設けた。鳥の鳴き声を再生する装置を並置したタッチカービングコーナーには大きな反響があり、「触れる」ことの意味や、視覚障害者の美術鑑賞の可能性についても一考を促す役割を果たした。

出品作家 ※五十音順

阿部知暁(一陽会)

今井壽恵

内山春雄(日本バードカービング協会)

小林路子(元自由美術協会)

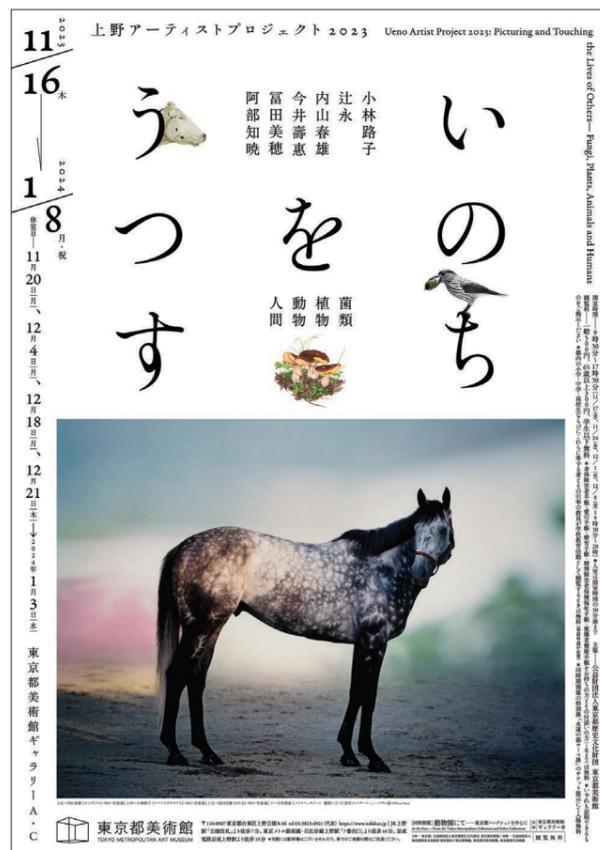
辻永(日展、光風会)

富田美穂

図録[A4判／128ページ]

・「見えないものをみる」

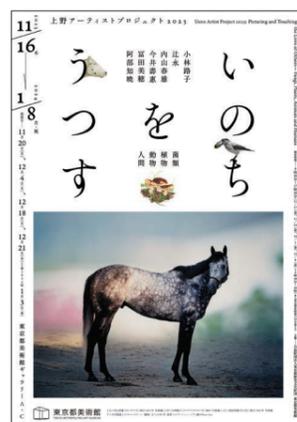
大内曜(東京都美術館 学芸員)pp.105-113



ポスター



図録表紙



チラシ



会場風景

撮影：Daisaku Oozu

実績

入場者数／21,816人(1日平均 590人)

関連企画

・トーク「ウシと人間」

11月18日(土) 14:00～16:00 講堂／参加者数141人

出演／遠藤秀紀(東京大学総合研究博物館 教授)×富田美穂

・トーク「触って知る・バードカービング」

12月10日(日) 14:00～15:30 講堂／参加者数65人

出演／内山春雄

・トーク「ゴリラをみること・ゴリラを知ること」

12月16日(土) 14:00～16:00 講堂／参加者数186人

出演／山極壽一(総合地球環境学研究所 所長)×阿部知暁

・ワークショップ「タッチカービングで触察体験」

①12月8日(金) 14:00～15:00 スタジオ／参加者数10人

②12月19日(火) 14:00～15:00 スタジオ／参加者数10人

進行／内山春雄

・ダンス・ウエル

①12月6日(水) 10:30～12:00 スタジオ／参加者数12人

②12月6日(水) 14:00～15:30 スタジオ／参加者数18人

講師／長澤あゆみ(ダンス・アーティスト、ダンス・ウエル講師)、

白神ももこ(振付家、演出家、「モモンガ・コンプレックス」主宰、

ダンス・ウエル講師)

アシスタント／市川まや(振付家、Kyoto Dance Exchange 主宰、いまこ

こダンス所属)

掲載記事など

・三澤麦「人間と様々ないきものとの関係性を見つめ直す。東京都美術館で「いのちをうつす」「動物園にて」展を見る」／ウェブ版「美術手帖」(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)2023年11月17日

・「東京都美術館で「タッチカービング」の作品展示」『点字毎日』(毎日新聞社)2023年11月23日、3面

・田中聡【レビュー】「いきる」ことは「美しい」こと?—東京都美術館で「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」展 来年1月8日まで」／ウェブ「美術展ナビ」(読売新聞社) 2023年11月28日

・浦島茂世「水先案内人のおすすめ「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」」／ウェブ「びあアプリ」(びあ)2023年12月1日

・白坂由里「水先案内人のおすすめ「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」」／ウェブ「びあアプリ」(びあ)2023年12月2日

・飯沢耕太郎「artscape レビュー 上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」／ウェブ「artscape」(大日本印刷)2024年1月15日号、2023年12月19日

・「ゴリラの「魂」作品に凝縮」／「高知新聞」(高知新聞社)2023年12月25日、11面

・上野美由子「人間はゴリラに学ぼう」／「高知新聞」(高知新聞社)2023年12月28日、15面

【公募展活性化事業】

都美セレクション グループ展 2023

Group Show of Contemporary Artists 2023

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、
各展覧会の実施グループ
会期／2023年6月10日(土)～7月2日(日)
会場／ギャラリー A、B、C
観覧料／無料
担当／大内曜、杉山哲司、富永ももこ、山田桂子

新しい発想によるアートの作り手の支援を目的とした展覧会。企画を公募し、審査により選ばれたグループが実施する。現代美術の作家たちの様々なジャンルの作品による、東京都美術館のギャラリー A、B、Cの空間だからこそ実現可能な展覧会シリーズの12回目で、3グループが展覧会を開催した。

都美セレクション グループ展 2023 公募及び選考
募集期間(公募)／2022年3月31日(木)～7月8日(金)
応募件数／15件
審査会／2022年9月11日(日)
選考グループ数／3件

審査委員

野地耕一郎(泉屋博古館東京 館長)
光田由里(多摩美術大学 教授)
山村仁志(東京都美術館 学芸担当課長)
(※役職は審査会当時)

記録集[A5判／48ページ]

・「都美セレクション グループ展 2023」をふりかえって
富永ももこ(東京都美術館 学芸員)
・画像情報を収集、加工、共有する。
山村仁志(東京都美術館 学芸担当課長)
・海のない波展 ゆらめく境界
光田由里(多摩美術大学 教授)
・グループ展「絵の辻」を観て思ったこと
野地耕一郎(泉屋博古館東京 館長)
(※役職は記録集発行当時)



チラシ



記録集表紙

イメージの痕跡—記憶とリアリティのあい Traces of Images: Between Memory and Reality

会場／ギャラリー A
入場者数／11,429名

グループ名／浮遊する作家たち
メンバー／村上亘、森島巴美、鹿野震一郎、小林丈史*、
朝山紗季
(*はグループ代表者)

協賛／税理士法人ジャスティス会計事務所、株式会社ノア、
株式会社藤原建築設計工務、ポッポ商店、株式会社
小林工務店

小林丈史のキュレーションのもと、村上亘、森島巴美、鹿野震一郎の3名の作家を迎えて企画された展覧会。1980年代生まれでいずれもドイツで西洋美術を学んだという共通点を持つ3名が、デジタルデータやインターネット検索画像などを取り扱いながら生活や制作の中で捉えてきたイメージというものが、それぞれ油彩画と写真という作品の形式によって提示された。地下3階に位置し、ロビー階や地下2階の様々な地点から会場全体を見下ろすことができるギャラリー Aの空間・構造的な特徴を存分に考慮した作品配置により、鑑賞者とそれぞれの作家・作品との間に重層的な出会いを実現させる展示となった。

関連イベント

・浮遊する作家たち アーティスト・トーク
6月11日(日) 14:00～15:30 スタジオ、ギャラリー A／参加者数のべ56名
ファシリテーター：朝山紗季、登壇者：小林丈史、鹿野震一郎、村上亘、森島巴美



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

海のない波

Waves Without the Ocean

会場／ギャラリー B

入場者数／10,513名

グループ名／自己と他者

メンバー／片山達貴*、成田舞、堀井ヒロツグ、
チン ユウジュウ、藤本流位

(*はグループ代表者)

助成／公益財団法人きょうと視覚文化振興財団

協力／出葉正浩、中井梓太郎、竹村智成

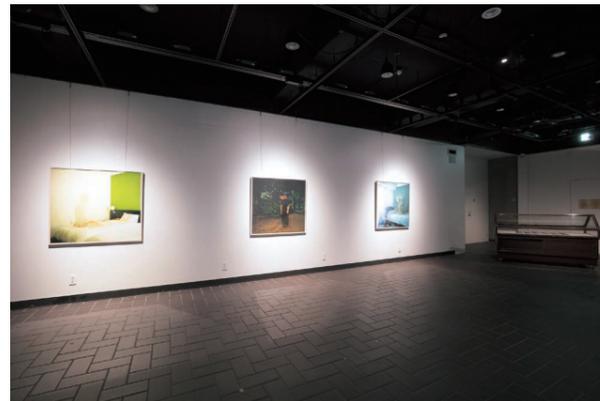
「境界」をテーマに、映像と写真を主な表現手段として京都を拠点に制作・発表を行う4名の作家にキュレーター1名が加わったグループによる展覧会。親密な他者との関係、妊娠・出産、台湾と日本で歌詞と意図を変えながら歌い継がれてきた流行歌など、どの作品のモチーフも作家本人の実体験やそこでの実感・気づきに端を発するもので、それぞれの作品空間を仕切りあるいは映像を投影するために、会場各所に白いカーテンが配された。鑑賞者の動きや換気風を捉えささやかに揺れ続けるカーテンはまた、決して目に見えることのない繊細で複雑な、そして常に揺らぎ続ける自己と他者との関係性を暗喩する装置としても機能した。

関連イベント

・「海のない波」トークイベント

6月25日(日) 14:00～ スタジオ／参加者数50名

出演者：鷹野隆大、成田舞、片山達貴、チン ユウジュウ、
堀井ヒロツグ、藤本流位



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

絵の辻

Intersection of Paintings

会場／ギャラリー C

入場者数／15,767名

グループ名／糸会

メンバー／伊勢周平、小左誠一郎、尾関諒*、中嶋典宏
(*はグループ代表者)

助成／公益財団法人 朝日新聞文化財団

協力／ターナー色彩株式会社、関東港業株式会社

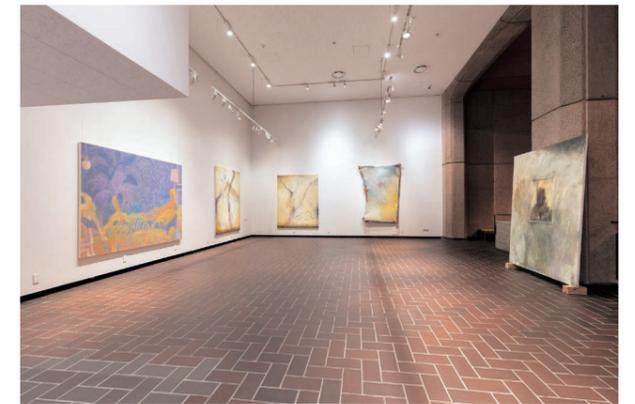
ともに東京藝術大学大学院で油彩画を学び、以後十年以上にわたり交友する画家4名による展覧会。何かを語り、主張するために描かれるのではない彼らの絵においては、その画面／造形物上にあらわれる色とかたちの配列、濃淡、階調の有様そのものと向き合うことが求められる。ギャラリーCの低天井部ではエリアごとに区切って展示された各作家の作品が、高天井部においては作家の別なく並べられ、隣り合うことによって共鳴し変容し続ける絵画の在り方について、来場者に想起を促すことが意図された。

関連イベント

・糸会の絵

6月17日(土) 14:00～16:00 スタジオ／参加者数：39名

出演者：OJUN、伊勢周平、小左誠一郎、尾関諒、中嶋典宏



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

財団内連携事業

展覧会事業において先述した「コレクション展」のほかに、公益財団法人東京都歴史文化財団の一組織であるアーツカウンシル東京による、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」を行った。また、令和4年4月より大規模改修工事のため休館中の江戸東京博物館の主催による、館外展示「出張！江戸東京博物館」を行った。同館所蔵の体験模型や関連資料の展示の他、開催場所である上野の歴史について、錦絵や絵葉書から紹介した。

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」

主催／東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

会期／2023年7月29日(土)～8月6日(日)

会場／公募展示室ロビー階第4公募展示室、講堂

観覧料／無料

展示室入場者数／2,491人

講堂トークセッション参加者数／1,292人(8セッション)

参加作家・団体 ＊順不同

楡皮一彦、池田晶紀、magnet、たばたはやと、西尾美也、坂口環、齋藤陽道、濱田慎一郎、アンテロス美術館東京分館、和田夏実、金田智子、稲葉未希、大内進、白鳥建二、岩中可南子、富塚絵美、大杉豊、ジョイスラム、めとてラボ、一般社団法人プレーカーコレクティブ、トークセッション登壇有識者(25人)



『NISHINARI YOSHIO』西尾美也
(写真提供：アーツカウンシル東京)

館外展示「出張！江戸東京博物館」

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

会期／2024年2月21日(水)～2月25日(日)

会場／公募展示室ロビー階第4公募展示室・1階第4公募展示室・2階第4公募展示室

観覧料／無料

入場者数／20,374人



ロビー階第4公募展示室 会場風景
(写真提供：東京都江戸東京博物館)

学校教育展

東京都美術館は戦前から児童生徒や学生の作品発表の場という役割を果たしてきた。毎年1月後半から3月にかけては大学や高校の卒業制作展、教育委員会の児童生徒作品展などが立て続けに行われる。

こうした教育機関による展覧会は、これまでは公募展に位置付けられていたが、リニューアル後に「アートへの入

口」という館の使命から、児童生徒・学生が初めて美術館に出品するという趣旨を重視した「学校教育展」と改め、公募団体展に先駆け、展示室の使用割当を行うこととした。対象は、都内の教育委員会、都内の私立学校協会、都内の専修学校各種学校の協会及び都内の学校の連盟、都内の芸術系高校、都内の芸術系専修各種学校、大学である。



第74回 東京都立高等学校
定時制通信制課程芸術祭



東京都立総合芸術高等学校美術科
第12回 卒業制作展



第72回 東京藝術大学 卒業・修了作品展



第73回 東京都立学校美術展覧会



東北芸術工科大学卒業・修了制作展【東京選抜】



JOSHIBISION 2023
(女子美術大学付属高等学校卒業制作展)

2023(令和5)年度 学校教育展一覧(会期順)

法人格等は省略、「」印の会期は休館日あり

団体名	展覧会名	会期	会場												入場者数					
			公募展示室				ギャラリー													
			2階	1階	ロビー階	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A		B	C			
東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭	第74回 東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭	10月31日(火)～11月8日(水)*																	●	1,240
東京私立中学高等学校協会	第51回 東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展	11月17日(金)～11月24日(金)*																	●	2,192
東京都高等学校文化連盟	第46回 東京都高等学校文化祭美術・工芸部門 中央大会「第34回中央展」	12月12日(火)～12月20日(水)*																	●	3,390
東京都立総合芸術高等学校美術科	東京都立総合芸術高等学校美術科 第12回 卒業制作展	12月12日(火)～12月20日(水)*																	●	5,241
東京藝術大学 美術学部	第72回 東京藝術大学 卒業・修了作品展	1月27日(土)～2月3日(土)																	●	29,217
東洋美術学校	第75回 東洋美術学校 卒業制作展	2月4日(日)～2月11日(日)*																	●	3,434
東京都教育委員会	第73回 東京都立学校美術展覧会	2月12日(月)～2月19日(月)*																	●	56,291
台東区教育委員会	第74回 台東区立小・中学校連合作品展	2月12日(月)～2月19日(月)*																	●	9,630
大東文化大学文学部書道学科	大東文化大学 書道学科 卒業制作展	2月20日(火)～2月27日(火)																	●	4,799
東北芸術工科大学	東北芸術工科大学卒業・修了制作展【東京選抜】	2月20日(火)～2月27日(火)																	●	3,528
女子美術大学・女子美術大学短期大学部	JOSHIBISION 2023(女子美術大学大学院・大学・短期大学部学生選抜作品展)	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	4,142
女子美術大学付属高等学校	JOSHIBISION 2023(女子美術大学付属高等学校卒業制作展)	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	5,807
東京都立工芸高等学校	東京都立工芸高等学校 卒業展 2024	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	5,408
横浜美術大学	2023年度 横浜美術大学 卒業制作 学外展	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	3,595
専門学校日本デザイナー学院	専門学校日本デザイナー学院 2024 卒業作品展	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	1,380
東京都立大学	東京都立大学 インダストリアルアート学科・学域 卒業・修了制作研究展	2月28日(水)～3月7日(木)*																	●	2,239
日本写真芸術専門学校	日本写真芸術専門学校 2024 卒業作品展	3月8日(金)～3月15日(金)																	●	1,660
ガラス教育機関合同作品展実行委員会	第17回 ガラス教育機関合同作品展	3月8日(金)～3月15日(金)																	●	2,459
合計	18機関																			145,652

公募団体展

東京都美術館は、1926(大正15)年の開館以来、同時代を生きる芸術家の作品発表の場となっており、「公募展のふるさと」「公募展の聖地」といわれてきた。リニューアルオープンにより、公募団体展はこれまでの貸館事業から、「つくる喜びを共有する場」とし、公募展活性化事業や学校教育展と並ぶ公募展事業のひとつとして位置付けることとなった。

使用割当に関する審査

リニューアル後の2012(平成24)年度に開催した公募団体展から展示室等の使用割当の方法が大きく変更となった。東京芸術文化評議会の答申をふまえ、貸出基準を明確化、厳密化し、公正性を確保している。外部有識者による公募展等審査会で審査を行い、団体としての運営力・実績及び東京都美術館の基本的使命との合致度を基準に4つのグループに分けて、会期・展示室を割り当てている。

2020(令和2)年度の審査において第Ⅰ～第Ⅲグループとなった団体は初年度の結果をもって2～5年目の審査に代えることとし、5年連続して使用できる。年度ごとの募集において、第Ⅰ～第Ⅲグループとなった団体は、その結果をもって2026(令和8)年度までの使用分についての審査に代えることとし、第Ⅳグループ以下となった団体は、募集年度のみを使用としている。

2023(令和5)年度の公募団体の内訳は下記のとおりで、2020年度審査および2021(令和3)年度の単年度審査にて使用割当の決まった団体である。

2023(令和5)年度 公募団体展 開催実績

グループ／団体数	ジャンル							
	総合	洋画	日本画	版画	彫刻工芸	書	その他	
I	30	7	5	3	2	2	9	2
II	71	15	9	3	1	7	29	7
III	115	54	9	6	0	7	34	5
IV	23	13	2	0	0	2	6	0
合計	239	89	25	12	3	18	78	14
団体割合(%)	100%	37.2%	10.5%	5.0%	1.3%	7.5%	32.6%	5.9%
占有コマ数	485	144	53	25	10	28	199	26
占有割合(%)	100%	29.7%	10.9%	5.2%	2.1%	5.8%	41.0%	5.4%

総合：複数の分野で開催／日本画：水墨画を含む

公募展示室・ギャラリーの稼働率

館事業および学校教育展による利用を含めた公募展示室・ギャラリーの割当時稼働率は、97.8%であった。

2025(令和7)年度の使用割当

2023年度は2025年度の使用割当を行った。28団体から申請を受け、一次審査の結果27団体の使用資格が認められた。さらに二次審査を経て、この27団体を使用団体として決定した。その後、割当て辞退が1団体、抽選会辞退が1団体あったため、これら2団体を除き、25団体の使用割当てを内定した。

この結果を運営委員会にて討議し、2025年度の公募展示室等の使用を承認した。

2023年	7月12日	一次申請受付開始
	8月4日	一次申請締切
	8月17日	二次申請受付開始
	9月13日	二次申請締切
	10月27日	公募展等審査会
	12月14日	Ⅳ－①・②グループ抽選会
2024年	3月11日	東京都美術館運営委員会付議
	3月27日	使用承認書発行

2023(令和5)年度 公募団体展 一覧(会期順)

法人格等は省略、「」印の会期は休館日あり

団体名	展覧会名	会期	会場												分野	入場者数
			公募展示室						ギャラリー							
			2階		1階		ロビー階		A		B		C			
モダンアート協会	第73回 モダンアート展	4月1日(土)～4月16日(日)*							●	●	●	●	●	●	総合	9,662
日本書道院	第72回 日本書道院展 併催:第72回 全国学生書道展覧会	4月1日(土)～4月8日(土)*	●	●		●	●	●	●						書	8,487
光陽会	第71回 光陽展	4月1日(土)～4月8日(土)*			●	●									総合	2,912
日本パステル画会	第98回 日本パステル画会展	4月1日(土)～4月8日(土)*												●	洋画	3,294
書縁會	第10回記念 書縁會展	4月9日(日)～4月16日(日)					●								書	1,368
日本光画会	第57回 光展	4月9日(日)～4月16日(日)							●						その他	1,045
誠心社	2023年 誠心社現代書展	4月9日(日)～4月16日(日)								●					書	694
西安碑林国際臨書展	第27回 西安碑林国際臨書展	4月9日(日)～4月16日(日)								●					書	749
大道書学院	第55回 大道展	4月9日(日)～4月16日(日)			●										書	1,030
墨人会	第123回 公募 墨人展	4月9日(日)～4月16日(日)												●	書	1,284
現代工芸美術家協会	第61回 日本現代工芸美術展	4月17日(月)～4月24日(月)*									●	●			彫刻工芸	7,913
流形美術会	第72回 流形展	4月17日(月)～4月24日(月)*											●		総合	3,100
日本水墨画協会	第55回記念 日本水墨画展	4月17日(月)～4月24日(月)*												●	日本画	2,401
二科会	2023春季二科展	4月17日(月)～5月2日(火)*					●	●	●						総合	6,228
ベラドンナ美術協会	第19回 ベラドンナ・アート展	4月17日(月)～4月24日(月)*												●	総合	5,461
新日春会	第7回 新日春展	4月17日(月)～4月24日(月)*	●	●	●										日本画	3,498
東邦書院	第46回 東邦書画公募展	4月17日(月)～4月24日(月)*				●									書	911
日本彫刻会	第52回 日本彫刻会展覧会(日彫展)	4月17日(月)～5月2日(火)*											●	●	彫刻工芸	8,370
東光会	第89回 東光展	4月25日(火)～5月10日(水)								●	●	●	●	●	洋画	13,066
現代パステル協会	第34回 現代パステル協会展	4月25日(火)～5月2日(火)	●												洋画	3,684
大調和会	第61回 大調和展	4月25日(火)～5月2日(火)		●	●										総合	8,005
日本彩美会	第28回 彩美展	4月25日(火)～5月2日(火)				●									洋画	1,584
駒展	第51回 駒展	5月3日(水)～5月10日(水)					●								総合	1,872
全国日曜画家連盟	第50回 全国日曜画家展	5月3日(水)～5月10日(水)						●							洋画	2,324
九条美術の会	第12回 九条美術展	5月3日(水)～5月10日(水)			●										総合	1,582
悠美会国際美術展	第47回 悠美会国際美術展	5月3日(水)～5月10日(水)				●									総合	1,747
現代造形表現作家フォーラム	現代造形表現作家フォーラム展	5月3日(水)～5月10日(水)												●	総合	691
光風会	光風会選抜展	5月3日(水)～5月10日(水)												●	洋画	1,228
秋耕会	第32回 秋耕会小品展	5月3日(水)～5月10日(水)												●	総合	2,395
新世紀美術協会	第67回 新世紀展	5月11日(木)～5月18日(木)*									●	●	●	●	総合	4,767
美術文化協会	第82回 美術文化展	5月11日(木)～5月18日(木)*				●	●	●							総合	2,200
全日本中国水墨芸術家連盟	第35回 全日中展・東京書画芸術大展	5月11日(木)～5月18日(木)*												●	総合	1,456
NHK学園	NHK学園 心をつなぐ作品展 ～書道展・絵手紙展・絵画展・写真展～	5月11日(木)～5月18日(木)*	●	●											総合	2,421
美術協会 純展	第52回 純展	5月11日(木)～5月18日(木)*		●	●										総合	2,856
イヴォルブアート&デザイン ジャパン	第1回 ECA展 (Evolve Conceptual Art Exhibition)	5月11日(木)～5月18日(木)*												●	総合	372
東京湘南絵画会	第24回 公募 東京湘南絵画会展	5月11日(木)～5月18日(木)*												●	洋画	1,010
日本ステンドグラス作家協会	第11回 日本ステンドグラス作家協会展	5月11日(木)～5月18日(木)*												●	彫刻工芸	3,525
旺玄会	第89回 旺玄展	5月19日(金)～5月27日(土)										●	●	●	総合	5,602
新興美術院	第72回 新興展	5月19日(金)～5月27日(土)												●	日本画	1,634
日本画府	第70回記念 日府展	5月19日(金)～5月27日(土)					●	●							総合	3,479
新洋画会	第45回記念 新洋画会展	5月19日(金)～5月27日(土)								●					総合	1,407
自由美術協会	第12回 東京自由美術展	5月19日(金)～5月27日(土)											●		総合	1,664
創造美術会	第76回 創造展	5月19日(金)～5月27日(土)	●	●	●										総合	3,524
創型会	第69回 創型展	5月19日(金)～5月27日(土)												●	彫刻工芸	3,586
日本画院	第82回 日本画院展	5月28日(日)～6月4日(日)										●	●		日本画	3,957
朱葉会	第101回 朱葉会展	5月28日(日)～6月4日(日)											●	●	洋画	4,445
一陽会東京支部	第27回 一陽会東京展	5月28日(日)～6月4日(日)						●							総合	1,123
国画水墨院	第27回 国画水墨院展	5月28日(日)～6月4日(日)							●						日本画	1,297
一創会	第45回記念 一創会展	5月28日(日)～6月4日(日)								●					洋画	1,629
富士美術協会	FAA展	5月28日(日)～6月4日(日)												●	洋画	1,590
新象作家協会	第64回 新象展	5月28日(日)～6月4日(日)	●	●											総合	1,540
日本国際芸術研究院	国際公募第16回 国際書画大賞展	5月28日(日)～6月4日(日)					●								総合	1,023
日本手工芸指導協会	第57回 手工芸作品展	5月28日(日)～6月4日(日)								●					彫刻工芸	3,513
日本染織作家協会	第46回 日本染織作家展	5月28日(日)～6月4日(日)												●	彫刻工芸	2,014
日本写真文化協会	第69回 全国写真展覧会	5月28日(日)～6月4日(日)												●	その他	1,530

団体名	展覧会名	会期	会場												分野	入場者数		
			公募展示室															
			ギャラリー															
			2階				1階				ロビー階							
第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C				
日本手工芸作家連合会	第56回 公募 創作手工芸展	5月28日(日)～6月4日(日)														●	彫刻工芸	2,554
女流画家協会	第76回 女流画家協会展	6月5日(月)～6月13日(火)*															総合	7,736
全日本肖像美術協会	第69回 全日肖像展 併催:二部肖像画及び動物小作品展	6月5日(月)～6月13日(火)*															総合	1,846
新生美術会	第51回 新美展	6月5日(月)～6月13日(火)*															総合	3,906
平泉会	2023年 平泉会選抜展	6月5日(月)～6月13日(火)*															総合	2,740
朔日会	第92回 朔日会展	6月5日(月)～6月13日(火)*														●	総合	2,317
大翔会美術連盟	第47回 大翔展	6月5日(月)～6月13日(火)*														●	総合	938
日本リアリズム写真集団	2023年 第48回 全国公募写真展「視点」	6月5日(月)～6月13日(火)*														●	その他	2,027
独立書人団	2023 第17回 独立選抜書展 全国高校生大作書道展	6月14日(水)～6月21日(水)*															書	5,324
工芸美術 日工会	第32回 一般社団法人 工芸美術 日工会展	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	彫刻工芸	2,378
東京表具経師内装文化協会	第66回 表装・内装作品展 伝統的工芸品指定記念	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	その他	1,380
東洋書芸院	第47回 東洋書芸院公募展	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	書	2,369
21世紀アートボーダレス展実行委員会	21世紀アートボーダレス展 匠 TOKYO 2023	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	総合	1,384
中央美術協会 東京支部	第44回 東京中展	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	総合	1,198
公募 ZEN展	第21回 一般社団法人 公募 ZEN展	6月14日(水)～6月21日(水)*	●														総合	3,986
国際美術交流会	第22回 国際美術交流会展	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	総合	1,846
日本選抜美術家協会	第47回 国際美術大賞展	6月14日(水)～6月21日(水)*														●	総合	2,236
日本水彩画会	第110周年記念 日本水彩展	6月22日(木)～6月30日(金)															洋画	11,702
大日本書芸院	第84回 国際文化交流 公益社団法人 大日本書芸院展 第6回 学生部選抜 大日本書芸院展	6月22日(木)～6月30日(金)														●	書	4,648
日本板画院	第72回 板院展	6月22日(木)～6月30日(金)														●	版画	3,757
全日本職場美術協議会	第77回 職展	6月22日(木)～6月30日(金)	●	●													総合	2,957
全日本パステルアート連盟	第14回 全日本パステルアート展	6月22日(木)～6月30日(金)														●	洋画	3,563
二科東京支部	第18回 二科東京支部展	6月22日(木)～6月30日(金)														●	洋画	1,627
連枝書道會	第3回 連枝書道會展 併催:全国学生教育書道展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	書	1,732
瑞雲書道会	第57回 公募 瑞雲展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	書	1,198
書道同文会	第74回 書道同文展・併催:学生展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	書	565
近代日本美術協会東京支部	2023 公募 近美関東美術展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	総合	2,354
静雅書道会	第43回 公募 静雅書展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	書	2,139
世界絵画大賞展実行委員会	第19回 世界絵画大賞展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	総合	1,847
官公書道連盟	第57回 官公書展 併催:第10回 官公小中学生書展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	書	1,257
JAALA美術家会議	第24回 JAALA国際交流展 2023	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	総合	959
ローマン派美術協会	第55回 ローマン展	7月1日(土)～7月8日(土)*														●	総合	1,552
毎日書道会	第74回 毎日書道展	7月17日(月)～7月25日(火)*	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	書	21,433
書真会	第56回 書真会展	7月26日(水)～8月3日(木)														●	書	1,487
現代美術家協会 東京支部	第11回 東京現展	7月26日(水)～8月3日(木)														●	総合	2,701
学書院	第65回 学書院展 併催:第72回 全日本学生書道展覧会	7月26日(水)～8月3日(木)														●	書	3,322
書宗院	第67回 書宗院展	7月26日(水)～8月3日(木)														●	書	1,245
台東書道連盟	第72回 台東書道展	7月26日(水)～8月3日(木)	●														書	1,529
日本書道協会	第46回 総合書道展 第32回 児童生徒書道展	7月26日(水)～8月3日(木)														●	書	798
国際書画連盟	2023 国際書画芸術展	7月26日(水)～8月3日(木)														●	総合	680
国際書道連盟 日本部会	第51回 国際書道連盟展 併催:第10回 教育部作品展	8月4日(金)～8月12日(土)*														●	書	1,676
わよう書道会	第11回 和様の書展 ～今様のアート～・#クセ字コンテスト4	8月4日(金)～8月12日(土)*														●	書	1,303
現日会	第62回 現日書展	8月4日(金)～8月12日(土)*														●	書	1,346
日本総合書芸院	第64回 日本総合書芸院展	8月4日(金)～8月12日(土)*	●	●													書	1,335
美術家平和会議	第71回 平和美術展	8月4日(金)～8月12日(土)*														●	総合	2,577
産経国際書会	第40回記念 産経国際書展	8月13日(日)～8月21日(月)*	●	●												●	書	6,337

団体名	展覧会名	会期	会場												分野	入場者数		
			公募展示室															
			ギャラリー															
			2階				1階				ロビー階							
第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C				
産経ジュニア書道コンクール 実行委員会	2023 産経ジュニア書道コンクール	8月13日(日)～8月21日(月)*														●	書	5,731
読売書法会	第39回 読売書法展 東京展	8月22日(火)～8月30日(水)	●	●													書	6,938
東京学芸大学書道科同窓会 硯心会	第47回 学芸書道全国展 併催:第42回 硯心会書展	8月22日(火)～8月30日(水)														●	書	2,520
日本美術院	再興第108回 院展	8月31日(木)～9月17日(日)*														●	日本画	16,276
主体美術協会	第58回 主体展	8月31日(木)～9月17日(日)*														●	洋画	8,152
二元会	第62回 二元展	8月31日(木)～9月8日(金)*														●	洋画	1,979
書芸文化院	第74回 連合書道展 一般社団法人書芸文化院特別企画事業 第37回 関東女流書展	8月31日(木)～9月8日(金)*	●	●	●												書	3,505
墨林書道院	第52回 墨林総合書展 併催:学生墨林総合書展	8月31日(木)～9月8日(金)*														●	書	1,713
水彩人	第25回記念 水彩人展	9月9日(土)～9月17日(日)														●	洋画	3,525
日本山岳写真協会	日本山岳写真協会展 2023-山・われらをめぐる世界	9月9日(土)～9月17日(日)														●	その他	5,610
全日本美術協会	第59回 全展	9月9日(土)～9月17日(日)														●	総合	1,440
新日本美術院	第55回記念 新院展	9月9日(土)～9月17日(日)														●	総合	1,540
AJAC	第49回 AJAC展 ～日本と世界の現代美術～	9月9日(土)～9月17日(日)														●	総合	2,812
一水会	第84回 一水会展	9月18日(月)～10月5日(木)*														●	洋画	14,025
新協美術会	第66回 新協美術展	9月18日(月)～9月26日(火)*														●	総合	2,682
近代美術協会	第59回 近代美術協会展	9月18日(月)～9月26日(火)*														●	総合	3,531
全日本書道教育協会	第107回 書教展	9月18日(月)～9月26日(火)*	●	●	●												書	5,680
白亜美術協会	第44回 白亜展	9月18日(月)～9月26日(火)*														●	総合	2,414
国際書法芸術協会	第56回 2023 国際書法芸術展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	書	1,595
汎美術協会	2023 汎美秋季展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	3,036
新極美術協会	第29回 極美本展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	2,174
亜細亜美術協会	第58回 亜細亜現代美術展 第16回 亜細亜アート展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	1,706
日本手工芸美術協会	第46回 日本手工芸美術展覧会	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	3,907
創作画人協会	第57回 創展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	2,350
日本自由画壇	2023 日本自由画壇秋季展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	日本画	3,026
青楓会	第48回 青楓展	9月27日(水)～10月5日(木)*														●	総合	2,530
日本版画協会	第90回記念 版画展	10月6日(金)～10月22日(日)*														●	版画	6,084
東京展美術協会	第49回 美術の祭典 東京展	10月6日(金)～10月14日(土)														●	総合	7,632
現代水墨画協会	第62回 現水展	10月6日(金)～10月14日(土)	●	●													日本画	2,968
日本表現派	第66回 日本表現派展	10月6日(金)～10月14日(土)														●	総合	2,929
現代手工芸作家協会	公募第2回 現代手工芸展	10月6日(金)～10月14日(土)														●	彫刻工芸	3,905
日本七宝作家協会	第56回 日本七宝作家協会展(公募)	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	彫刻工芸	1,381
新日本美術協会	第47回 新日美展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	総合	3,298
新作家美術協会	第30回 新作家展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	総合	2,088
大東書道院	第72回 大東展 併催:大東教育書道展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	書	1,260
現代書道研究所	第45回記念 日本書展	10月15日(日)～10月22日(日)*	●	●													書	2,450
太平洋美術会東京支部	第26回 太平洋美術会東京支部展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	総合	1,676
創彩会	第43回 創彩展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	総合	1,402
全陶展	第52回 公募 全陶展	10月15日(日)～10月22日(日)*														●	彫刻工芸	5,584
創画会	第50回記念 創画展	10月23日(月)～10月30日(月)														●	日本画	3,358
創元会																		

団体名	展覧会名	会期	会場											分野	入場者数		
			公募展示室				ギャラリー										
			2階	1階			ロビー階				A	B	C				
第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C			
立軌会	第76回 立軌展	10月31日(火)～11月8日(水)*							●							洋画	4,469
奎星会	第72回 奎星展	10月31日(火)～11月8日(水)*			●	●	●	●		●						書	5,793
国画会	第97回 国展受賞作家展・国展秋季展	10月31日(火)～11月8日(水)*									●	●	●			総合	9,150
清和書道会	第75回 清和書展	10月31日(火)～11月8日(水)*	●	●												書	2,237
東京都民美術展運営会	第58回 都展	10月31日(火)～11月8日(水)*			●	●										総合	6,242
日本芸術メダル協会	第40回 日本アートメダル展	10月31日(火)～11月8日(水)*													●	彫刻工芸	1,332
書星会	第71回 書星展	11月9日(木)～11月16日(木)							●	●						書	2,661
中央美術協会	第75回記念 中美展	11月9日(木)～11月16日(木)								●	●					総合	19,266
現代童画会	第49回 現代童画展	11月9日(木)～11月16日(木)			●	●	●									総合	6,298
太陽美術協会	第49回 太陽美術展	11月9日(木)～11月16日(木)						●								総合	3,635
蒼騎会	第49回 秋季蒼騎展	11月9日(木)～11月16日(木)	●													総合	3,730
新芸術協会	第47回 新芸術展	11月9日(木)～11月16日(木)		●												総合	2,058
群炎美術協会	第62回 群炎展	11月9日(木)～11月16日(木)			●											総合	1,986
日本芸術家協会	第46回 JAG展 (ジャパン・アーティスト・グループ展)	11月9日(木)～11月16日(木)														総合	1,367
日本きりえ協会	第46回 日本きりえ美術展	11月17日(金)～11月24日(金)*								●						その他	2,253
日本版画会	第64回 日本版画会展	11月17日(金)～11月24日(金)*									●	●				版画	5,504
近代日本美術協会	第50回記念 近代日本美術協会展	11月17日(金)～11月24日(金)*				●	●									総合	7,888
日本写真作家協会	第34回 JPA展	11月17日(金)～11月24日(金)*						●								その他	2,603
日本清興美術協会	第45回記念 清興展	11月17日(金)～11月24日(金)*							●							総合	1,810
東京書作展	全国公募第45回 東京書作展	11月17日(金)～11月24日(金)*	●	●	●											書	2,890
日輝会美術協会	第48回 日輝展	11月17日(金)～11月24日(金)*				●										総合	1,518
書壇院	第90回記念 書壇院展 併催:書壇院学生展	11月25日(土)～12月2日(土)						●	●	●	●					書	3,173
書燈社	第64回 書燈社展	11月25日(土)～12月2日(土)						●	●							書	3,047
現創会	第48回 現創展	11月25日(土)～12月2日(土)							●							総合	1,351
現代書道院	第50回記念 現代書道院展 併催:現代書道院学生展	11月25日(土)～12月2日(土)	●	●												書	2,305
国際現代美術家協会	第49回 i. m. a. 展	11月25日(土)～12月2日(土)			●	●										総合	2,063
春陽会	SHUNYO NEW ARTISTS WAVE 2023	12月3日(日)～12月11日(月)*							●	●						総合	2,660
全国土地改良事業団体連合会	未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展2023	12月3日(日)～12月11日(月)*								●						洋画	1,534
日本和紙絵画芸術協会	公募第37回 日本和紙絵画展	12月3日(日)～12月11日(月)*									●					その他	1,566
東洋書道芸術学会	第69回 東洋書芸展	12月3日(日)～12月11日(月)*													●	書	1,275
日本書道研究会	第58回 書心展 第57回 書心学生展	12月3日(日)～12月11日(月)*					●	●								書	3,825
秀彩会	第15回記念 秀彩展	12月3日(日)～12月11日(月)*								●						総合	1,954
書道研究 温知会	第79回 温知会書道展	12月3日(日)～12月11日(月)*	●	●												書	1,132
元陽会	第54回 元陽展	12月3日(日)～12月11日(月)*			●	●										洋画	3,041
洗心書会	第54回 洗心全国書道展 併催:高校生部・教育部	12月12日(火)～12月20日(水)*						●								書	1,447
国際文化カレッジ	第27回 総合写真展	12月12日(火)～12月20日(水)*					●	●	●							その他	2,592
三鼎書道会	第56回 三鼎書道展 併催:第10回 全国教育書道展	12月12日(火)～12月20日(水)*	●													書	1,050
大潮会	第85回 大潮展	12月12日(火)～12月20日(水)*			●											総合	1,015
日本蘭亭会	第23回 蘭亭書法交流東京展	12月12日(火)～12月20日(水)*						●								書	740
日本書道美術院	第78回 日書展 併催:第78回 日書美教育部展 第68回 全国読書大会	1月4日(木)～1月10日(水)	●													書	7,216
日本書道教育学会	第73回 書道學會展 併催:第73回 全日本学生書道展	1月4日(木)～1月10日(水)			●	●	●									書	5,748
日本刻字協会	第42回 日本刻字展	1月19日(金)～1月26日(金)							●	●						書	2,362
貞香会	2024 貞香会総合書展	1月19日(金)～1月26日(金)								●		●				書	2,185
回瀾書道会	第72回 回瀾書展	1月19日(金)～1月26日(金)										●				書	1,464
太玄会	第65回記念 太玄会書展 併催:第8回 学生選抜展	1月19日(金)～1月26日(金)				●	●	●								書	4,553
書道研究 書聖会	第51回 書聖展	1月19日(金)～1月26日(金)									●					書	983
朝聞書会	第71回 朝聞書展	1月19日(金)～1月26日(金)	●	●	●	●										書	1,638
日本漆工協会	第31回 一日本文化を担い 世界に広がる一漆の美展	1月19日(金)～1月26日(金)													●	彫刻工芸	1,070

団体名	展覧会名	会期	会場											分野	入場者数			
			公募展示室				ギャラリー											
			2階	1階			ロビー階				A	B	C					
第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C				
書海社	第72回 書海社展	1月27日(土)～2月3日(土)									●	●				書	1,722	
日本書作家協会	第65回記念 新興書道展・併催:全国 学生書道展	1月27日(土)～2月3日(土)										●	●			書	1,158	
日本書学院	第63回 公募 日書学展・併催:日書学 全国学生展	1月27日(土)～2月3日(土)	●	●												書	1,390	
日本書道学院(日本書道学院展)	第45回記念 日本書道学院展	1月27日(土)～2月3日(土)									●	●				書	2,153	
書道芸術院	第77回 書道芸術院展・併催:第75 回記念 全国学生書道展	2月4日(日)～2月11日(日)*			●	●	●				●	●			●	書	8,451	
龍峽書道会	第87回 龍峽書道展	2月4日(日)～2月11日(日)*									●	●				書	2,039	
天真書道会	公募 第58回 天真書道会展	2月4日(日)～2月11日(日)*									●					書	714	
日本盆栽協会	第98回 国風盆栽展	2月4日(日)～2月19日(月)*													●	その他	9,871	
全日本学生美術会	第68回 全日本学生美術展	2月12日(月)～2月19日(月)*										●				総合	3,904	
公募美術団体 三軌会	第5回 三軌プリリアント展	2月12日(月)～2月19日(月)*										●				総合	1,261	
日本写真家連盟	第36回 日本写真家連盟展「四季の彩り」 第12回 公募作品展	2月12日(月)～2月19日(月)*													●	その他	2,652	
煌心書道会	第42回 全国公募 煌心展・併催:学 生部	2月12日(月)～2月19日(月)*											●			書	632	
玄潮会	第56回 玄潮会書展 併催:第55回 全国学生書道展	2月12日(月)～2月19日(月)*	●	●	●											書	2,274	
日本水石協会	第61回 日本水石名品展	2月12日(月)～2月19日(月)*									●					その他	2,118	
高風会	第73回 高風会 全国書道展覧会 併催:学生展	2月20日(火)～2月27日(火)										●				書	1,247	
全日本水墨画会	第46回 全日本水墨画展	2月20日(火)～2月27日(火)													●	日本画	1,713	
日本習字学会	第105回 全国学校書初中央展	2月20日(火)～2月27日(火)	●	●												書	2,711	
書道一元會	第52回 公募 書道一元會展	2月20日(火)～2月27日(火)										●				書	1,399	
日本陶彫会	第69回 陶彫展	2月20日(火)～2月27日(火)													●	彫刻工芸	1,689	
芸象万千文化教育学院	芸象万千展 2023	2月20日(火)～2月27日(火)													●	日本画	1,413	
たぶろう美術協会	2024 公募 たぶろう春季展	2月20日(火)～2月27日(火)													●	総合	3,055	
書道研究 藍笥会	第61回 藍笥会書作展 併催:小中高生書道展	2月28日(水)～3月7日(木)*										●	●	●		書	1,836	
書法研究 菅菰会	第60回記念 菅菰書展・併催:全国学生展	2月28日(水)～3月7日(木)*	●													書	1,709	
日本書道学院(書団嘯龍社展)	第39回 書団嘯龍社展	2月28日(水)～3月7日(木)*										●				書	1,900	
清真会	第70回 詩歌自詠清真会書道展	2月28日(水)～3月7日(木)*										●				書	1,124	
瓦・造形会	現代瓦・造形といけばなコラボレーション展	2月28日(水)～3月7日(木)*													●	彫刻工芸	2,835	
創玄書道会	第60回記念 創玄展 学生部門=全国学生書道展	3月8日(金)～3月15日(金)										●	●	●	●	書	18,764	
行動美術協会	第15回 行動美術TOKYO展 併催:第4回 行動美術受賞作家選抜展	3月8日(金)～3月15日(金)										●	●			洋画	4,140	
日本・中国水墨交流協会	公募第41回 日本・中国水墨画合同展	3月8日(金)～3月15日(金)	●													日本画	1,332	
東京書学アカデミー 蒼溟社	公募第35回 蒼溟書展 併催:第17回 全国読書大会 第17回 教育部展	3月8日(金)～3月15日(金)										●				書	1,868	
第一美術協会 東京支部	第38回 第一美術協会東京支部展 併催:第一美術協会選抜展 ルビー会展	3月8日(金)～3月15日(金)										●				総合	1,400	
新美術団体協議会	第13回 新美協展	3月8日(金)～3月15日(金)														●	総合	2,699
謙慎書道会	第86回 謙慎書道会展	3月16日(土)～3月23日(土)*	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	書	12,664	
池坊東京連合支部	第91回 池坊東京連合支部「いけばな池坊展」	3月16日(土)～3月31日(日)*													●	その他	16,693	
二紀会	第16回 春季二紀展	3月24日(日)～3月31日(日)													●	総合	7,284	
全国書写書道教育振興会	第4回 全書会展	3月24日(日)～3月31日(日)													●	書	3,703	
独立美術協会	2024 独立春季新人選抜展	3月24日(日)～3月31日(日)										●				洋画	2,070	
AJCクリエイターズコンテ スト実行委員会	第17回 AJCクリエイターズコレク ション展2024	3月24日(日)～3月31日(日)										●				彫刻工芸	1,802	
从会	第47回 从展	3月24日(日)～3月31日(日)													●	総合	2,485	
東方書道院	第65回 東方書展	3月24日(日)～3月31日(日)	●	●	●	●										書	1,763	

※入場者数「―」: 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止

合計 785,531

講堂・スタジオ

講堂は当館が主催する事業の他、学校教育展・公募団体展に伴う授賞式や、講演会・シンポジウムなどに活用されている。また映画会や演奏会、セミナーなど芸術文化に関する事業の会場として提供している。スタジオは、ワークショップ・研究会などの美術創作活動、会議などを行うスペースとなっている。これらの施設は、当館のウェブサイトから予約を行える。

施設概要

講堂(交流棟ロビー階)

面積／284㎡+舞台30㎡

定員／230名(固定椅子225席、車椅子スペース5台分)

利用時間・料金／午前(9:45～13:15)12,200円

午後(13:45～17:15)12,200円

全日(9:45～17:15)24,300円

用途／授賞式、講演会、シンポジウム、映画会、演奏会、セミナーなど

スタジオ(交流棟2階)

面積／146㎡

定員／50名

利用時間・料金／午前(9:45～13:15)3,500円

午後(13:45～17:15)3,500円

全日(9:45～17:15)6,900円

用途／ワークショップ、制作、研究会、会議など



講堂



スタジオ

実績

講堂の利用状況

	午前	午後	利用団体数		利用人数	
4月	12	13	25	(1)	1,585	(483)
5月	9	15	24	(0)	1,468	(0)
6月	11	13	24	(1)	1,417	(200)
7月	11	15	26	(4)	2,782	(1,634)
8月	11	13	24	(2)	2,355	(298)
9月	10	16	26	(2)	1,521	(357)
10月	11	13	24	(2)	1,551	(462)
11月	13	16	29	(5)	1,592	(863)
12月	11	14	25	(4)	1,562	(563)
1月	16	17	33	(3)	2,565	(614)
2月	13	15	28	(2)	2,793	(640)
3月	19	20	39	(4)	2,960	(992)
計	147	180	327	(30)	24,151	(7,106)
稼働率	51.4%					

※利用団体数、利用人数の()内は、館事業

スタジオの利用状況

	午前	午後	利用団体数		利用人数	
4月	17	22	39	(1)	461	(7)
5月	18	22	40	(1)	469	(32)
6月	18	24	42	(4)	479	(161)
7月	20	23	43	(3)	402	(170)
8月	18	18	36	(2)	359	(120)
9月	19	20	39	(2)	296	(2)
10月	23	25	48	(2)	457	(108)
11月	21	21	42	(3)	355	(43)
12月	18	18	36	(4)	552	(247)
1月	15	17	32	(2)	320	(81)
2月	20	26	46	(2)	457	(69)
3月	22	26	48	(3)	495	(107)
計	229	262	491	(29)	5,102	(1,147)
稼働率	77.4%					

※利用団体数、利用人数の()内は、館事業

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

- とびらプロジェクト
- Museum Start あいうえの
- Creative Ageing ずっとび
- 障害のある方のための特別鑑賞会
- とびラーによる建築ツアー
- 学校連携
- 展覧会関連プログラム
- 事業の発信・成果の発表



とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトである。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し2012(平成24)年度より始動。2023(令和5)年度で12年目を迎えた。広く一般から集まったアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、都美の学芸員、藝大の教員や専門家と対話を重ねながら、美術館の文化資源を活かした活動を展開している。本年度は10・11期とびラーに新たに12期とびラーが加わり、オンラインとリアル両方の場で活動した。

とびラーの活動はボランティアではあるが、美術館のサポーターではない。学びと実践をくり返し、能動的なプレイヤーとしてプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年間であり、その間にアートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をデザインし、さまざまな価値観を持つ多様な人々を結びつける活動を生み出している。

1期から9期までの任期満了したとびラーは合計329人となり、本年度も社会のさまざまな場所でアート・コミュニケータとしての活躍が見られた。

以下、実施プログラムの基本データは事業実績一覧(pp.62-65)を参照。

ウェブサイト <https://tobira-project.info>
(ページビュー / 536,462)



13期とびラー募集チラシ

とびラー募集の流れと主な年間スケジュール

2022(令和4)年度

- 12月 12期とびラー募集広報開始
- 1月 12期とびラー応募受付開始
- 1月 「とびらプロジェクト」フォーラム
12期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→12期とびラー決定通知

2023(令和5)年度

- 4月 基礎講座(～6月):隔週土曜日 全6回
- 7月 実践講座(～2月):
鑑賞実践講座 全8回、アクセス実践講座 全7回、
建築実践講座 全7回
- 7月 「Museum Start あいうえの」当年度プログラム開始
- 8月 「Creative Ageing ずっとび」当年度プログラム開始
- 12月 13期とびラー募集広報開始
- 1月 13期とびラー応募受付開始
- 1月 「とびらプロジェクト」フォーラム
13期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→13期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい:10期とびラーの任期満了式)

年間を通じて、とびラーの自主的な学びあいの場(とびラボ)が446回開催された。

12期とびラーの応募倍率と本年度のとびラー人数

募集に対し349人から応募があり、書類審査、面接を経て、45人を12期とびラーに決定。約8.7倍の倍率であった。この45人と、前年度から更新した10・11期とびラー87人をあわせた計132人で本年度のとびらプロジェクトが始動した。

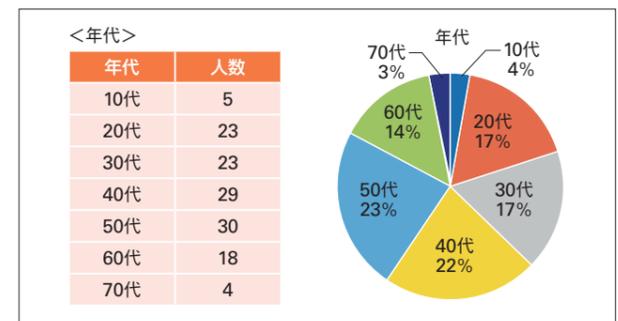
都美×藝大とびらプロジェクト運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当し、当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。藝大担当者は小牟田悠介(美術学部特任助教※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助教、とびらプロジェクト・マネージャ)、越川さくら(美術学部特任助手※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、工藤阿貴(美術学部特任助手※組織改編のため令和5年10月より芸術

未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、代表教員として光井渉(東京藝術大学美術学部長、組織改編のため令和5年10月より伊藤達矢(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域長、教授)。都美担当者は熊谷香寿美(東京都美術館学芸員)、峰岸優香(東京都美術館学芸員)。

とびラーの基本属性

10～12期とびラーの基本属性は次の図のとおりである。年齢や仕事、経験、活動できる曜日などが偏らないよう多角的視点から総合的に配慮した上で選考されている。



※2023年度4月時点

基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは、当館のミッションや藝大からのメッセージをもとに、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、より実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。過年度はコロナ禍のためにオンライン開催となっていた講座も、本年度はリアルで実施し、美術館の現場で学ぶ機会を増やしていった。



基礎講座(第5回)ミュージアムとウェルビーイングについて考える

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日/全6回/各回約4時間)

アートを介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力だけではなく相手の話を状況や発言の文脈に応じてその本意を想像し「きく」受信力を身につけることを目的としている。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

講師/小牟田、熊谷

プロジェクト概要や情報共有ツールについて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

第2回 作品を鑑賞するとは(12期とびラー対象)

講師/熊谷

作品が存在することによって起こる体験にどのような意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について理解を深める。

第3回 「きく力」を身につける(12期とびラー対象)

講師/西村佳哲(プランニング・ディレクター/リビングワールド代表)

コミュニケーションの基本となる、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、とびらプロジェクトで大切な「きく力」について、講義と体験を通じて学ぶ。

第4回 会議が変われば社会が変わる(12期とびラー対象)

講師/青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

とびラーの自主的な活動において根幹をなす「ミーティング」の場を、参加する一人ひとりが主体的に関わる場とするための具体的な手法を学ぶ。

第5回 ミュージアムとウェルビーイング(12期とびラー対象)

講師/小牟田、熊谷

これまでとびらプロジェクトやMuseum Start あいうえの、Creative Ageing ずっとびで実践してきたプログラムを題材に、人々との関わりで多様なウェルビーイングを実現する社会包摂の拠点となるミュージアムのあり方について考える。

第6回 この指とまれ/そこにいる人が全て式/解散設定(12期とびラー対象)

講師／西村佳哲

小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方、とびラーが自主的に活動していくための手法を学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

・実践講座(7月以降各講座ごとに適宜実施)

実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実践の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

鑑賞実践講座(自分自身の眼で自分の感じ方を大切にしながら、作品をよく「みる」方法を身につける。作品を媒介にして複数の人がコミュニケーションをするための場づくりができるようになる。視覚的イメージを媒介にして、共同のかつくりティカルに複数の人が思考する場をデザインできるようにすることを目的とする。)全8回

講師／三ツ木紀英(特定非営利活動法人芸術資源開発機構 ARDA代表理事)、熊谷、越川、峰岸

アクセス実践講座(具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、美術館にアクセスすることが難しい人が、来館し、利用するために必要な支援を考える力を身につける。)全7回

講師／小野広祐(明晴学園 教頭)、又村あおい(全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 兼 事務局長)、西智弘(川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター 化学療法センター 医長(専門：腫瘍内科/緩和ケア内科)、一般社団法人プラスケア代表理事)、村田陽次(東京都 生活スポーツ文化局 都民生活部 地域活動推進課 課長代理)、山藤弘子(日本語教師)、松見幸太郎(NPO法人キッズドア事務局長)、伊藤達矢(東京藝術大学)、稲庭彩和子(国立美術館)、小牟田、越川、藤岡勇人(東京都美術館学芸員)

建築実践講座(東京都美術館の建築の歴史や背景を理解し、自分の感覚を手掛かりに建築を味わう力を身につけ、美術館というパブリックな建築を介して人々をつなぐ場をデザインすることを目的とする。)全7回

講師／松隈洋(神奈川大学教授)、小金丸信光(アーキテクチャデザイナー)、森純平(たいけん美じゅつ場 VIVA 基本設計・ディレクター)、倉方俊輔(大阪市立大学大学院工

学研究科教授)、田中元子(株式会社グランドレベルディレクター)、工藤、峰岸、河野佑美(東京都美術館学芸員)

上記講座に加えて、とびラー全員が集合する「とびらステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。本年度は、東京都美術館を会場に実施、79名が参加し互いに交流する機会とした。

また、「福祉×アート」を考える藝大の履修証明プログラム Diversity on the Arts Project (略称：DOOR)とも連携し、聴講機会も開かれている。特別展・企画展・上野アーティストプロジェクト展・コレクション展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会が設けられている。加えて、専門家とともに行う野外彫刻洗浄への参加も昨年に続き呼びかけた。



鑑賞実践講座(第4回)展示室で学ぶ場づくり

また、本年度はコロナ禍が落ち着き、リアルな活動の再出発を検討していくために、活動拠点となる東京都美術館への理解を深める機会として、「2023スペシャル」と題した館内職員による特別講義・交流の場を設けた。東京都美術館が掲げるミッションの制作背景について当時を知る学芸員に話を聞いたり、退任する学芸員や職員から展覧会づくりへの思いや広報に関するエピソードを聞くなどした。



学芸員中原さんにきく「東京都美術館の昨日・今日・明日」

オープン・レクチャー

オープン・レクチャーとは、とびラーに加えて一般の方々を対象に毎年行われている公開講座である。ゲスト講師を招き、とびらプロジェクトの活動を進める中で見いだされた問題意識や目指す社会の姿について知見を深めることを目的とし、アートを介したコミュニティの価値に関して広く一般に発信する機会としている。

2023(令和5)年度は、アクセス実践講座の第6回を一般公開する形で開催した。2021年から「Creative Ageing ずっととび」で取り組んできた事例の紹介を軸に、認知症の方との関わりをテーマとして、超高齢社会における美術館の役割を考えるレクチャーを実施した。認知症に対する社会の現状や、具体的な症例とその対応について紹介することに加え、当事者や家族との関わりを美術館で生み出していくために、地域のさまざまな医療機関や福祉団体と連携する重要性や、医療従事者からみたアート・コミュニケータの働きかけについて紹介した。登壇者は寛裕介(特定非営利活動法人イシュープラスデザイン 代表)、秋山友理恵(台東区立台東病院 作業療法士)、藤岡、熊谷、小牟田。



オープン・レクチャー Vol.14のWebパナー

「とびらプロジェクト」フォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知することを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびラー募集のための説明会という趣旨も兼ねている。

本年度は、「ミュージアムと偶察力(セレンディピティ) 共創を生み出すまざし」をテーマに実施した。「偶察力」をキーワードに、作品を介したアート・コミュニケータと来館者のかかわり方をみることで、偶然の出会いからかけがえのない価値が生まれていくプロセスを紐解き、多様な人々との共創を可能にするコミュニティのつくり方について考える機会とした。登壇者は日比野克彦(アーティスト、

東京藝術大学学長)、黒川廣子(東京藝術大学大学美術館館長・教授)、西村佳哲、熊谷、小牟田、とびラー6名。

第1部は東京都美術館の講堂を会場に行い、YouTubeで後日配信も行った。小牟田がとびらプロジェクトの概要と、キーワード「偶察力」について紹介した後、「共創を生み出す「アート・コミュニケータ」のかかわり方」と題したトークセッションを行い、西村佳哲と熊谷が聞き手となって、とびラー6名が今年取り組んだ3つのプログラム「みるラボ:わからないのはじまり」「とびらラボ体験 at アート・コミュニケーション事業を体験する 2023」「ずっとび鑑賞会」についてそれぞれ紹介した。

続くディスカッションでは「ミュージアムと偶察力」をテーマに、西村、日比野、黒川、小牟田、熊谷が登壇。東京藝術大学や東京藝術大学美術館と連携した実践や、活動の意義についてふりかえり、収蔵品の新たな活用法や、偶然の出会いから生まれる価値、アート・コミュニケータの働きが人々や社会にもたらしてきた作用について議論を深めた。

第2部は「とびラー オープンセッション」をアートスタディールーム、スタジオ、講堂で開催。とびラーの活動拠点であるアートスタディールームを公開し、普段の活動について紹介しながら、来場者からの質問にも答えた。



とびらプロジェクトフォーラム第2部「とびラー オープンセッション」

とびらボ

「とびらボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびらボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。

集まったメンバーのできることを組み合わせ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザ

インしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生まれ出される。

とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人が全て式」、「解散！また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はさまざまなバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。本年度も、Zoomでのミーティングとリアルでのミーティングを併用して行った。

年間開催数 446回のべ参加者数 3,984人。

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：

企画展

「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」
・凹版ワークショップ「はじまり展のキャラクター ケエジンたちをプレス機で刷ってみよう！」

「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす一菌類、植物、動物、人間」

・大人のOFF～アート・建築を介して、いつもと違う体験や交流を～

・誰かとおしゃべりミュージアム

・みえない人とみえる人が一緒に楽しむアート鑑賞「みんなでみる美術館」

◎当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動：

・トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー

・トビカン・モーニング・ツアー

・エスプラナードで会いましょう

・野外彫刻を楽しむ

・五感で楽しむ 朝の都美さんぽ

◎とびラー対象の活動：

トビカン・スポット・ムービーらぼ、さんぽdeアート、荒木珠奈研究会、マイスカイホールLOVEのらぼ、化粧史×化粧師ラボ、とびdeラヂオぶ～☆、開扉冊子2024等
※詳細はとびらプロジェクトウェブサイトのとびラボページを参照のこと。 <https://tobira-project.info/tobilab>



凹版ワークショップ「はじまり展のキャラクター ケエジンたちをプレス機で刷ってみよう！」



みえない人とみえる人が一緒に楽しむアート鑑賞「みんなでみる美術館」



五感で楽しむ 朝の都美さんぽ

情報共有の仕組み

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の2つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提と

しているため、これらの仕組みは補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。ミーティング方法の一つとして、コロナ禍よりオンライン会議システムであるZoomミーティングも導入している。

情報保障

聴覚障害を持つアート・コミュニケータへの情報保障として、講座等に手話通訳、遠隔文字通訳を導入するとともに、日常的なコミュニケーション支援として筆談とUDトークを活用した。

これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。

本年度のミーティング開催数12回、のべ参加者数144人。「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

・ARTでつながるラボラトリー

・with time, with art(社会で生きたいに寄り添うゼミ)

上記のような活動を経て、2024(令和6)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」が開催された。本年度は、三密を避けるため講堂とオンライン配信を組み合わせて実施した。任期満了した10期とびラー40人。

アート・コミュニケータの活躍と広がり

本年度より始まった「アート・コミュニケーション事業を

体験する 2023」(詳細はp61を参照)では、会場ファシリテータとしてとびラーや任期満了したアート・コミュニケータが活躍し、AC事業の12年の歩みをふりかえりながら、来場者とともにこれからの美術館を考える場を展開した。

任期満了後のアート・コミュニケータは、当館内外のさまざまな場で活躍の場を実現している。当館では、任期満了したアート・コミュニケータが運営する任意団体「アート・コミュニケータ東京」に「障害のある方のための特別鑑賞会」の運営協力を依頼している。また、本年度に開催した「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」では、任期満了したアート・コミュニケータが運営する「一般社団法人アプリアシエイトアプローチ」にとびラーや一般公募からなる展覧会ファシリテータの運営を委託し、72日間にわたる鑑賞の場づくりを担ってもらった。

他にも、児童養護施設にいても子どもたちにミュージアムの体験を届ける自主事業団体「Knock-Knock」、東京都美術館を設計した前川國男の建築である神奈川県立音楽堂を紹介するガイドツアーを行う団体「Bridge」、同じく前川國男建築の埼玉会館を紹介するガイドツアーを行う団体「前川國男を知ろう！彩の国探検隊」、赤ちゃんを連れてミュージアムに行くパパママを応援するプログラムを行う「ベビーといっしょにミュージアム」、府中市美術館での小学校来館をコーディネートする団体「あーちゅびー」、孤立しやすい若者を支援する団体と連携し藝大生との鑑賞プログラムを行う「Flatart(フラタート)」など、今後もさまざまな活動の展開に期待が寄せられる。

「アート・コミュニケータ東京」や「ベビーといっしょにミュージアム」などのチームが、東京都庭園美術館からの依頼でアート・コミュニケーション・プログラムが定着するなど、社会的ニーズの高まりもうかがえる。



「開扉会」での集合写真

Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生及び、その年齢の全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通した統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・バック」とウェブサイトを軸に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は1,426人。2013(平成25)年の事業開始から累計19,690人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.62-65)を参照。
ウェブサイト <https://museum-start.jp>
(ページビュー／215,879)

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京藝術大学
共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが「きく力」を意識して子供たちと共に活動しているとびラー(p.47参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。

とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動する。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。

他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でプログラムの場づくりに参画することが、とびらプロジェクトでの各講座の内容を具体的に理解し、実践する学びの場となっている。

Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は、小牟田悠介(美術学部特任助教※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助教、「あいうえの」プロジェクト・マネージャ)、石丸郁乃(美術学部特任助手※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)、手代木理沙(美術学部特任助手※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は熊谷香寿美、河野佑美。都美から専門家委託した久光真央。

「ミュージアム・スタート・バック」の特徴

「ミュージアム・スタート・バック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。

連携各館を紹介するガイドブックである「ビビハドトカダブック」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。

子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にバックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者・教員には「あいうえの」を紹介した小冊子「ミュージアム・スタート・バック活用ガイドブック」を配布。



ミュージアム・スタート・バック(ver.10、2023年度版)

ウェブサイトの機能

「あいうえの」ウェブサイトでは、子供たちや保護者が上野公園への来訪時に参考ができるよう連携9館のプログラムや展覧会情報等を一望できる「ミュージアム・カレンダー機能」を設けている。あわせて、参加者による「冒険ノート」の投稿・閲覧ページ、連携館で働く人々のミュージアム体験に関するインタビュー記事等を掲載した「Ueno Park & Museums」、実施プログラムを報告する「活動ブログ」を掲載。



ウェブサイトトップページ

入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」ではあらゆる子供たちが参加できるよう、3つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校プログラム」、ファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリー & ティーンズ・プログラム」、そして、多様な文化的背景を持つ子供たちや社会的支援を必要とする子供たちを対象とする「ダイバーシティ・プログラム」の3つである。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。

本年度は、美術館の建物や野外彫刻を活用したプログラムのほか、連携館を会場としたプログラムを再開した。実施したプログラムは以下のとおり。

(1) 学校プログラム

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に

応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートしている。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサポート。事前授業に活用できる作品のアートカード等が入った「鑑賞ボックス」も貸し出している。



スペシャル・マンデー「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」、東京都美術館

・スペシャル・マンデー

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした展示室で鑑賞授業を行うプログラム。とびラーが子供たちと作品鑑賞を共にし、サポートする。学校から美術館までの往復バスを無料で用意し、美術館を活用しやすい環境を整えている。

全4日開催

参加11校1園、参加者数：558人(園児・児童・生徒数)
対象：都内幼保・小・中・高等・特別支援学校(幼稚園保育園は年長クラスから受け入れ、特別支援学級も受け入れ)

・うえのウェルカム

野外彫刻や開室中の展示室で行う学校対象プログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。

全5日開催

参加5校、参加者数：286人(児童・生徒数)
対象：小、中、高等学校、特別支援学校・学級(申込状況により、都外の学校も受け入れ)

(2) ファミリー & ティーンズ・プログラム

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察を通して子供と大人がともに学びあうことを目指している。どのプログラムにおいてもとびラーが子供たちの活動に伴走している。本年度は下記の3つのプログラムを実施した。

・ズームイン！ミュージアム

ミュージアム建築のこだわりや工夫に注目しながら、美術館を探究する1日プログラム。子供たちが気づきや発見を言葉に表しながらとびラーと対話を重ねることで、観察力を磨いていくとともに建物の鑑賞を深める内容とした。保護者には、子供とミュージアムに行く際のコツなどを伝えるミニガイドを実施した。

実施日：7月23日(日)、8月26日(土)、2024年2月4日(日)
全3日、6回実施／参加者数：300人(子供)



ズームイン！ミュージアム

・～ Wander Wonder ～うえので探す、うえのの不思議

連携館を舞台に、オンラインとリアルでの2ステップでアートを探究し作品鑑賞を楽しむブレンディッド・ラーニングのプログラム。オンラインで作品をみながらグループで対話するステップ1と実際(リアル)に連携館で本物に出会うステップ2を組み合わせた。本年度は東京国立博物館と上野の森美術館を会場とした。ステップ1では、リアルの日実際に見る作品をとびラーと一緒にグループ鑑賞した。ステップ2では、ミュージアム・スタート・パックについてのガイド後、オンラインで鑑賞した作品が展示されている展示室へ移動、子供も大人もそれぞれグループに分かれて、とびラーとともに作品鑑賞を行った。

東京国立博物館 編

実施日：8月9日(水)、9月10日(日)

全2日4回実施／参加者数：132人(子供)

上野の森美術館 編

実施日：2024年2月23日(金)、3月25日(月)

全2日4回実施／参加者数：158人(子供)



作品鑑賞の様子<玉川布晒し図> 魚屋北溪筆、江戸時代・19世紀、東京国立博物館 撮影：中島佑輔

・みるラボ：わからないのはじまり

「きこえ」の違いを切り口に、異なる文化と出会い、ともに美術館体験をする3日間連続のティーンズ世代対象のスペシャル・プログラム。ろう者・難聴者と聴者がペアになり、「うえののそこから」「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」の作品を鑑賞し、二人で選んだ1つの作品を紹介する映像を協働して制作した。ろう者・難聴者のとびラーも一緒に活動した。

実施日：8月17日(木)、18日(金)、19日(土)

参加者数：36人(ティーンズのべ人数)



作品鑑賞の様子「うえののそこから」「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」、東京都美術館 撮影：中島古英

(3) ダイバーシティ・プログラム

多様な文化的背景を持つ人々が、文化や言語を越えて違いや共通点を知り、相互理解を深めるプログラム。様々な社会的状況にある子供たちを対象に、2016年度から実施

している。児童養護施設、経済的困難を抱えた子供をサポートするNPO、外国にルーツを持つ子供をサポートするNPOなど、関連する団体と連携し、文化や言語の違いを超えて、子供や大人が出会い、対話することを目指している。

・美術館でやさしい日本語プログラム「からだで楽しむ！ローマ展」

中国、ベトナム、フィリピン、バングラディッシュ、ウズベキスタン、日本にルーツを持つ子供とその保護者を対象に、やさしい日本語を使ったプログラムを開催した。特別展「永遠の都ローマ展」でお気に入りの作品の一つを選び、表現された身体の動きに着目しながらとびラーとじっくり鑑賞した後で、気になったポーズを自分の身体を使って表現した。また、子供同士だけでなく保護者同士も交流できるよう、保護者を対象にグループに分かれてとびラーと館内散策するツアーも同時進行で実施した。最後に子供たちのポーズを撮影した写真を参加者全員で共有した。

実施日：11月12日(日)、1回開催

参加者数：子供23人、保護者20人、とびラー29人



「からだで楽しむ！ローマ展」

・ミュージアム・トリップ

認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク・認定NPO法人キッズドアと連携し、各団体が支援する子供たちを対象に美術館を楽しむプログラムを開催。来館時期にあわせ、上野アーティストプロジェクトや東京藝術大学卒業・修了作品展をとびラーと一緒に鑑賞した。東京藝術大学卒業・修了作品展では藝大生から作品制作にまつわる話を聞く機会も設けた。

実施日：12月16日(土)、2024年1月28日(日)、2回開催

参加者数：子供25人、保護者6人、引率者4人、とびラー38人



「第72回 東京藝術大学 卒業・修了作品展」、東京藝術大学大学美術館

あいうえのコミュニティ

ミュージアムを活用した継続的な学びを支援するミュージアムを拠点にしたつながり「あいうえのコミュニティ」を支える仕組みとして、プログラム参加者には専用ニュースレター(あいうえの通信)を発行。ミュージアムや文化財を介したコミュニティの形成へのステップを継続的に創出している。本年度は、ニュースレターを4回発行した。

また、本事業においてとびラーは重要なパートナーであり、とびラーがコミュニティの一員として主体的に関わることができるよう、全てのプログラムの前後には、事前の準備会と事後の振り返りを実施し、実践的な学びを深めている。本年度は事前の準備会を21回実施、また、全てのプログラムの後には振り返りを実施した。

準備会実施回数：21回

参加者数：とびラー462人

・アンバサダー・プログラム

「アンバサダー・プログラム」とは、「あいうえのコミュニティ」を広げる取組みの1つであり、とびラーが「あいうえの」を発信するプログラムである。対象はとびラー自身が属する身近なコミュニティの子供やその保護者で、とびラーが「あいうえの」の趣旨やコンセプトを紹介し、参加者がとびラーと一緒にミュージアム体験をする内容としている。とびラーの「あいうえの」に対するより深い理解を促すことも目指している。

実施回数：2回

参加者数：子供5人、保護者・引率者4人、とびラー2人

Creative Ageing ずっとび

「Creative Ageing ずっとび」(以下ずっとび)は超高齢社会に対応して、2021年度よりシニア世代を対象に始めた事業である。人や作品との出会いを通して、シニアがより主体的で創造的に楽しめる参加型のプログラムを実施している。事業名の「Creative Ageing(クリエイティブ・エイジング)」には「創造的に年を重ねる」という意味があり、「ずっとび」には、歳を重ねても「ずっと」通いたくなる美術館「とび(当館の愛称)」を目指す思いが込められている。

アート・コミュニケーション事業が取り組む、美術館の文化資源を介した多様な人々の社会参画とコミュニケーションの場づくりは、人々の健康やウェルビーイングにも寄与する役割も担ってきた。ずっとびでは、この役割をシニアに向けてより意識的に展開していくことで、美術館が高齢者の健康を作る場となり、さらには高齢化に伴う社会的孤立や孤独などのさまざまな社会問題にも向き合うことを念頭に入れて活動している。実務は都美と藝大で組織された運営チームが担当した。藝大担当者は小牟田悠介(美術学部特任助教※組織改編のため令和5年10月より芸術未来研究場 ケア、コミュニケーション領域 美術学部特任助教)、金濱陽子(『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点推進機構特任助手)。都美担当者は熊谷香寿美、藤岡勇人。都美から専門家委託した山本明日香。ウェブサイト <https://www.zuttobi.com/> (ページビュー / 19,174)

多職種連携について

加齢に伴う認知機能の衰えや疾患などにより美術館へのアクセスに障壁を感じているシニアとつながり、配慮が必要な部分にも対応しながら受け入れていくには、多職種連携が鍵になる。ずっとびでは、日頃から大学、医療機関、地域福祉との連携を図り、シニアの健康に資する美術館の機能をより効果的に発揮することを目指して活動している。

当館が参画している、東京藝術大学を拠点とした産学官民の共創プロジェクト「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」(以下、共創拠点)では、芸術、福祉、テクノロジーなど様々な専門性を有する参画機関と協働し、シニアの社会参加につながる新しい文化的プログラムの開発や情報共有及び共同研究の機会をつくっている。また、当館が立地する台東区の医療機関、地域包括支援センター、社会福祉協議会などとも連携し、主に地域に暮らす認知症の方とその家族を対象としたプログラムを共同で企画、実施、振り返りまでを行っている。

研究会

(1) 共創の場 座談会「地域のつながりから芽生える文化的処方の実践例 台東区社会福祉協議会×東京都美術館」
共に共創拠点に参画している当館と台東区社会福祉協議会の連携について、2020年から3年間の足跡とその成果を具体的に振り返った。

実施日：8月5日(土)、参加者数：32名



「共創の場 座談会」の様子

(2) Creative Ageing ずっとび座談会

超高齢社会に対応したさまざまな活動に従事するミュージアムや企業の担当者が集まり、認知症の方にやさしい社会を作るために多職種連携が果たす役割や可能性について議論した。

実施日：2024年2月14日(水)、参加者数：26名

(3) パートナープログラム報告会

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京では、国内文化施設、NPO、研究機関や文化事業に関わる多様な担い手と連携しながら、文化施設や文化事業のアクセシビリティ向上に関わる調査、検証、モデル開発を「パートナープログラム」と名付け今年度から取り組みを始めた。当館はその一つ「認知症フレンドリーなアクセシビリティの検証及びモデル開発」の企画運営を担っている。調査の一環として当該分野で先駆的な取り組みを行う台湾のミュージアムや医療機関への視察並びに聞き取り調査を実施し、その結果を台東区内の医療福祉関係者に報告した。

実施日：2024年2月14日(水)、参加者数：8名

認知症の方とご家族を対象にしたプログラム

高齢化に伴い誰もが当事者になり得ると言われる認知症がある人や認知症が気になる人、またその家族を対象に、美術館での作品鑑賞と対話を楽しめるプログラムを開催した。

(1) オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会 うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展

昨年度に引き続き、永寿総合病院認知症疾患医療センターとたいとう・まつがや地域包括支援センターが開催している「オレンジカフェ(認知症カフェ)」を、当館を会場に実施。認知症の方とその家族と、とびラーがそれぞれ1対1のペアになり活動。企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」をめぐる、参加者がそれぞれに感じたことや思い出を共有した。

実施日：8月8日(火)、参加者数：23名



「オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会」のウェブ用バナー



「ずっとび鑑賞会」の様子

荒木珠奈《うち》2000年 作家蔵 撮影：中島佑輔

(2) 美術館で絵を楽しもう! 「ずっとび鑑賞会」

台東区立台東病院とあさくさ・みのわ地域包括支援センターと連携し、東京藝術大学大学美術館を会場に、認知症が気になる方とその家族を対象にした鑑賞会を開催。プログラムに合わせて大学美術館の収蔵品の中から5作品を選

び、大学美術館の展示室に仮設の展示空間をデザインした。プログラム当日は参加者は5～6人のグループになり、とびラーとの鑑賞を楽しんだ。

実施日：11月28日(月)

参加者数：14人



「ずっとび鑑賞会」の様子

箕浦昇一《レストランにて…》キャンバス/アクリル 東京藝術大学蔵 撮影：中島佑輔

(3) おうちで印象派展

特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」を題材に、自宅にしながら印象派の作品を楽しむオンライン鑑賞会を実施。美術館と参加者の自宅、とびラーの自宅をウェブ会議システム(Zoom)でつなぎ、オンライン上で出品作品の図版を見ながら対話するプログラムである。Zoomのブレイクアウトルーム機能で個別の部屋に分かれて、とびラーと参加者が絵を見て心に浮かんだことや思い出したことについて会話を楽しんだ。

実施日：2024年3月16日(土)、参加者数：26人



「おうちで印象派展」の様子

(メアリー・カサット《裸の赤ん坊を抱くレーヌ・ルフェーヴル(母と子)》1902-03年 ウスター美術館)

障害のある方のための特別鑑賞会

障害のある方がより安心してゆっくり鑑賞できるように、特別展の休室日に事前申込制で「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催している。

本年度は「マティス展」「永遠の都ローマ展」「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」にて各1回ずつ実施、合計1,942人の参加者があった。展示室での混雑を避ける目的で、受付を前年度と同じように1時間ごとの時間指定制で行った。とびらプロジェクトと連動し、当日の運営には総計83人のとびらが参加した。任期満了したアート・コミュニケータから構成される任意団体「アート・コミュニケータ東京」にも運営協力を依頼し、事前準備を経て総計171人の「アート・コミュニケータ東京」会員が参加した。受付には手話通訳が常時待機し、聴覚障害がある方の通訳を行った。

本年度も参加者のサポートを行うアート・コミュニケータについて紹介するスライドを会場入り口に設置し、アート・コミュニケーション事業の理解を促す一助とした。会場内では、作品の細部が見えにくい方のためにiPadで画像を拡大したり、視覚障害のある方と一緒に会場をまわるなどのサポートを行った。

〔運営協力：任意団体「アート・コミュニケータ東京」〕

実施日：2023年6月12日(月)10:00～16:00

「マティス展」

実施日：2023年10月10日(火)10:00～16:00

「永遠の都ローマ展」

実施日：2024年2月13日(火)10:00～16:00

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」



障害のある方のための特別鑑賞会「永遠の都ローマ展」、東京都美術館

とびラーによる建築ツアー

「とびラーによる建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を味わうプログラムである。建築家が込めた想い、歴史、建物の色・デザインといった建築を楽しむポイントを切り口に、当館の建築空間をとびラーと対話しながら散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のプログラムを展開している。原則奇数月の第3土曜日14時から開催。

本年度は1回の参加定員を30人とし、参加方法は事前予約制とした。また、実施当日は5～6人の少人数のグループにガイドとサポートを務めるとびラーが2人付き、ワイヤレス無線機も使いながらツアーを実施した。難聴者のとびラーがガイドを務める場合はUDトークを活用した。

実施日：2023年5月20日(土)、7月22日(土)*、9月16日(土)、11月18日(土)、2024年1月20日(土)、3月2日(土)*

*7月の第3土曜日は工事整備休館のため第4土曜日に実施した。

*3月の第3土曜日は公募展搬入日のため第1土曜日に実施した。

全6回開催、参加者計168人

上記の定例のツアーに加え、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」を7回と、平日の朝に楽しめる30分間のコンパクト版建築ツアー「トビカン・モーニング・ツアー」を1回行った。また、「アート・コミュニケーション事業を体験する2023」(詳細はp61を参照)の会場である公募棟展示室を出発地点にした建築ツアーも3回実施した。



とびラーによる建築ツアーの様子

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されており、今後もさらなる連携が求められている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はpp.52-55)が始まり、小・中・高校生対象のプログラムに特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通じた学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2023(令和5)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.62-65参照)

年間を通じた学校対応と観覧料免除申請(都内教育機関対象)

年間を通じ、教員からの来館相談に応じている。特に特別支援学校の来館については、来館動線やファシリティの確認含めて下見対応を行っている。あわせて、地域学習や校外学習、美術部の活動時間を活用した子供たちからの職場インタビューにも対応。美術館で働く学芸員という職業の社会的役割について伝えた。

対応校数5校、児童・生徒22人、引率教員7人

また、学校教育活動として、特別展・企画展・上野アーティストプロジェクトを都内教育機関の児童・生徒が観覧する場合は、観覧料免除申請フォームで事前に申請することで高校生及び引率教員の観覧料を免除。さまざまな環境にある児童・生徒の美術館での学びの機会を担保することに寄与することを目指している。なお、本年度開催された特別展「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」「マティス展」「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」及び企画展、上野アーティストプロジェクト2023については高校生の観覧料が無料であったため、免除対象は引率教員だけとなった。

観覧料免除申請校：84校、児童・生徒1,505人、引率教員148人

教員研修

学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための教員対象の研修プログラムを実施。また、区市町村の図工研究部会の研修の受け入れや教員の資質向上研修の受け入れも随時実施。アート・コミュニケーション事業の基本的な考え方や「Museum Start あいうえの」の取組み、そして具体的な学校連携プログラムの事例紹介や鑑賞ワークショップ等を行っている。

今年度は、荒川区立小学校教育研究会図画工作科研修会、台東区図工研究部会、文京区小学校教育研究会図工研究部会等の研修の受け入れ、東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Iの受け入れを行った。

また、国立科学博物館で開催された「教員のための博物館の日」(7月25日～28日)にブースを出展した。



教員研修における鑑賞ワークショップ



「教員のための博物館の日」のブースの様子、国立科学博物館

専門的人材の育成

美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は2人を受け入れ、実践的な学びを深めてもらった。

また、依頼のあった大学の学芸員課程の授業等を受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動を伝える機会とした。対応校7校、参加学生206人。

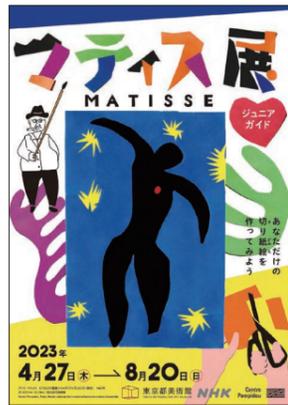
展覧会関連プログラム／キッズ+U18デー

展覧会関連プログラム

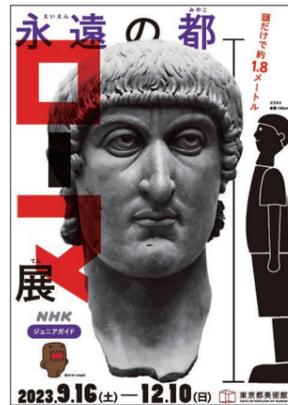
当館で開催される特別展、企画展、公募展活性化事業、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中にさまざまなプログラムを行っている。2023(令和5)年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はpp.62-65参照)

1 特別展ジュニアガイド

展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝える特別展ジュニアガイドを制作した。本年度は「マティス展」で5万部、「永遠の都ローマ展」で2万部作成した。



「マティス展」ジュニアガイド



「永遠の都ローマ展」ジュニアガイド

2 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、さまざまなプログラムが開催された。詳細はp.50を参照のこと。

3 展覧会関連プログラム

特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、本展の監修者である同館の学芸部長クレア・ホイットナー氏をお招きし、コロナ禍以来4年ぶりに記念講演会(「広がりつづける印象派:地域を越えるアート・ムーブメント」)を開催した。企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」では、関連プログラムとして、ファミリーを対象とした鑑賞と造形を楽しむワークショップ「みんなでつくりようレッツ「ケエジン」!」、夜間開館の時間にとびラーと展覧会をめぐるツアー「ダイアログ・ナイト with とびラー」、展覧会に関連するテーマに関する出品作家と専門家による対談など、さまざまなプログラムを実施した(詳細はpp.22-23を参照)。

「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつすー菌類、植物、動物、人間」及びコレクション展「動物園に

てー東京都コレクションを中心に」の関連プログラムとして、講演会、からだ全体で作品をあじわうダンス・プログラム「ダンス・ウェル」、タッチカービングによる触察体験、8mmフィルムの上映会などを実施した(詳細はpp.24-25)。

キッズ+U18デー

キッズ+U18デーとは、休室日の月曜を特別に開室する、18歳以下の方とその保護者のための特別な1日である。本年度は、2019年夏の開催以来4年ぶりに企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」にて開催した。展示室では、気に入った作品をじっくり観察しながら描くことで、より丁寧な鑑賞につなげることを目的とした磁気式のお絵かきボード「とびらボード」を貸し出した。「とびらボード」はコロナ禍以前に特別展で貸し出していたもので、こちらも4年ぶりの貸し出しとなった。展覧会ファシリテータである「ケエジン」がこの日も来場者の作品鑑賞に伴走し、ファミリーの美術館体験をサポートした。

開催日：7月31日(月)10:00～16:00

来場者数：354名



当日の様子

撮影：鷹取詩穂

事業の発信・成果の発表

アート・コミュニケーション事業を体験する 2023

アート・コミュニケーション事業は、当館がリニューアル時に新しく掲げたミッションを具現化する取組みの一つとして、2012年度に始まった事業である。美術館が芸術や文化財を研究し展示するだけでなく、人と作品、人と人をつなげ、個人と社会の新しい関係性が育まれる創造的な場であるために、多種多様な取組みを行ってきた。

当事業を広く発信し、より多くの方に美術館のこれからの時代の役割と重ねて事業の理念を伝え、関心を持ってもらうため、「アート・コミュニケーション事業を体験する」という取組みを2023年度より始めた。ロビー階の第3公募展示室(公募棟)を会場に、開館100周年を迎える2026年度まで継続し実施していく予定である。会場には、とびラーと3年間の任期を満了したとびラーが常時滞在し、来場者と一緒にさまざまなアート・コミュニケーションが楽しめる場を作ることで、体験を通して事業のエッセンスを伝えることを目的としている。

シリーズ企画の1回目にあたる2023年度は、「参加性」「多様性の担保」「対話」をキーワードに10年以上にわたり行ってきた事業の3つのプロジェクト「とびらプロジェクト」「Museum Startあいうえの」「Creative Ageing ずっとび」に関するアーカイブ資料や記録映像などを主に展示した。また、事業の活動拠点にしている交流棟2階のアートスタディールームをイメージしたスペースを設け、「美術館ってどんな場所?」という問いを考えるワークショップや、とびらプロジェクトで行っている「そこにいる人」が協働アイデアを重ねていく「とびラボ」を体験するワークショップなどを行った。ワークショップにおける対話のプロセスを記録した模造紙などは、会場の壁に貼りアーカイブ化した。13日間を通じて、6,773人が来場し、とびラーがのべ149人、任期満了したとびラーがのべ111人関わった。



「アート・コミュニケーション事業を体験する 2023」の入口
©Nacása & Partners Inc. FUTA Moriish

開催日：7月29日(土)～8月6日(日)、8月8日(火)～8月11日(金)

会場：ロビー階 第3公募展示室(公募棟)

参加者数：6,773人



展示室の様子
©Nacása & Partners Inc. FUTA Moriish



展示室で来場者を迎えるにとびラーの様子



「美術館ってどんな場所?」の活動の様子

アート・コミュニケーション事業 2023(令和5)年度 実績

2023年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：28,703人

とびらプロジェクト プログラム参加のべ数 9,683人 / アート・コミュニケータ登録者数132人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計		
			とびら	一般参加者等	とびら	一般参加者等	
基礎講座	4月15日、29日、5月13日、27日、6月10日、24日、いずれも土曜日	6回	362	0	0	362	
鑑賞実践講座	7月17日、8月14日、28日、9月11日、10月9日、23日、12月11日、2024年1月8日、いずれも月曜日	8回	476	0	63	539	
アクセス実践講座	7月16日(日)、30日(日)、8月5日(土)、9月9日(土)、10月22日(日)、11月23日(木)、2024年2月25日(日)	7回	402	0	69	471	
建築実践講座	7月1日(土)、7月29日(土)、8月27日(日)、10月14日(土)、11月25日(土)、12月2日(土)、2024年2月17日(土)	7回	361	0	5	366	
12期とびら 2次面接	2024年3月8日(金)、9日(土)、10日(日)	3日間	0	0	128	128	
とびらステーション	12月17日(日)	1回	79	0	0	79	
開扉式	2023年3月30日(土)	1回	101	0	0	101	
とびらプロジェクト・オープンレクチャー	vol.14 認知症世界とアートの出会い ― Creative Ageing ずっとびの取り組みから	11月23日(木)	1回	62	0	127	189
とびらプロジェクト・フォーラム	ミュージアムと洞察力セレンディビティ 共創を生み出すまなざし	2024年1月21日(日)	1回	61		161	222
講座連携プログラム	基礎講座補講	6月4日(日)、15日(土)、17日(土)、7月15日(土)	5回	14		14	
	実践講座補講	8月12日(土)、13日(日)、25日(金)、9月5日(火)、22日(金)、10月8日(日)、14日(土)、12月19日(火)、2024年1月24日(水)、2月4日(日)、3月15日(金)	11回	18		18	
	事前勉強会など補講	7月1日(土)、16日(日)、8月31日(木)、9月22日(金)、10月3日(火)、12月19日(火)、2024年1月6日(土)、2月11日(日)	8回	25		25	
都美連携プログラム	特別展事前勉強会(マティス展)	5月14日(日)	1回	70	39	109	
	特別展事前勉強会(永遠の都ローマ展)	8月27日(日)	1回	53		53	
	特別展事前勉強会(印象派 モネからアメリカへウスター美術館所蔵)	12月10日(日)	1回	54		54	
	特別展事前勉強会(デ・キリコ展)	2024年3月3日(日)	1回	55		55	
	企画展事前勉強会(うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展)	4月15日(土)	1回	93		93	
	上野アーティストプロジェクト&コレクション展事前勉強会(「いのちをうつす」菌類、植物、動物、人間)「動物園にて―東京都コレクションを中心に」)	9月23日(土)	1回	45		45	
	中原さんにきく東京都美術館の昨日・今日・明日	7月16日(日)	1回	61	0	0	61
	屋外彫刻洗浄	9月19日(火)	1回	19	0	0	19
	「障害のある方のための特別鑑賞会」準備会	6月11日(日)、10月1日(日)、2024年2月3日(土)	3回	84	131	0	215
	「とびらによる建築ツアー」自主練習会、打合せ	5月12日(金)、6月27日(火)、7月12日(水)、11月11日(土)、16日(木)、2024年1月19日(金)、20日(土)、2月16日(金)、17日(土)、18日(日)、25日(日)	11回	24	0	0	24
	「とびらによる建築ツアー」トライアル	8月23日(水)、26日(土)	2回	2	0	0	2
	「ダイアログ・ナイトwithとびら」準備会	8月4日(金)	1回	25	0	0	25
	「ダイアログ・ナイトwithとびら」練習、打合せ	8月5日(土)、13日(日)	2回	11			11
	「ダイアログ・ナイトwithとびら」トライアル	8月24日(木)	1回	6			6
	アート・コミュニケーション事業を体験する 2023「とびら体験」	8月1日(火)、2日(水)、3日(木)、8日(火)、9日(水)、10日(木)	6回	33	0	237	270
	日本彫刻会盲学校鑑賞事業協力	4月21日、28日、いずれも金曜日	3回	13	0	56	69
	国展彫刻部秋季展ワークショップ「触ってみる彫刻―視覚に障がいのある方との彫刻鑑賞―」事業協力	11月3日(金)	1回	6	0	3	9
	東京都美術館消防訓練	2024年2月19日(月)	1回	4	0	0	4
	とびらボ	とびらボ ミーティング	4月～2024年3月	446回	3,984	0	3,984
とびらボ発プログラム【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展】	はじまり展のキャラクター ケエジンたちをプレス機で刷ってみよう!	7月31日(月)	1回	14	0	65	79
とびらボ発プログラム(「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす」菌類、植物、動物、人間)	誰かとおしゃべりミュージアム 大人のOFF～アート・建築を介して、いつと違う体験や交流を～ みえない人とみえる人が一緒に楽しむアート鑑賞「みんなでみる美術館」	11月24日(金)、12月15日(金)、20日(水) 11月26日(日)、12月3日(日) 12月16日(土)	3回 2回 1回	33 35 17	0 0 0	33 27 11	66 62 28
とびらボ発プログラム(当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動)	野外彫刻を楽しむ エスプラナードで会いましょう 五感で楽しむ 朝の都美さんぽ	9月30日(土)、10月7日(土) 12月16日(土) 12月17日(日)、19日(火)	2回 1回 2回	30 9 16	0 0 0	27 224 19	57 233 35
これからゼミ	これからゼミ ミーティング	8月～2024年3月	12回	144	0	144	
全国のアート・コミュニケーションリーグ連携	情報交換会(9団体)	12月20日(水)、2024年3月29日(金)	2回	0	0	22	
視察対応等のアート・コミュニケーション事業連携		4月～2024年3月	36回	0	0	94	94
【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展】ファシリテータ関連プログラム	展覧会ファシリテータ研修 展覧会ファシリテータ研修補講 展覧会ファシリテータの活動	6月25日(日) 6月26日(月)、30日(金) 7月21日(金)～10月9日(月)	1回 2回 75回	79 4 293	33 0 213	60 0 388	172 4 894
開扉とびらとの連携	障害のある方のための特別鑑賞会	6月12日(月)、10月10日(火)、2024年2月13日(火)	3回	0	171	0	171
合計			7,277	587	1,819	9,683	

※鑑賞実践講座、アクセス実践講座の一般参加者は、藝大の履修証明制度「Diversity on the Arts Project」受講生

Museum Start あいうえの プログラム参加のべ人数 3,095人

プログラム名	連携団体・学校	開催日	回数	参加者数			参加者計	
				とびら (※1)	生徒・ 児童	保護者・ 引率者等		
学校向けプログラム スペシャルマンデーコース 11校1園 参加生徒・児童数 558名	【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展】 【永遠の都ローマ展】	北区立滝野川紅葉中学校 大田区立仲六郷小学校 北区立田端小学校 足立区立足立入谷小学校 明暗学園 小学部 明暗学園 幼稚部 台東区立谷中小学校 まちのこども園代々木上原 江東区立第三大島小学校	9月25日(月) 9月25日(月) 9月25日(月) 10月30日(月) 10月30日(月) 10月30日(月) 11月27日(月) 11月27日(月) 11月27日(月)	1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回	12 14 24 19 17 5 20 8 28	11 31 85 38 36 6 57 22 97	5 3 6 4 10 2 4 4 4	28 48 115 61 63 13 81 34 129
	【印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵】	板橋区立高島第一小学校 文京区立藤川小学校 荒川区立汐入小学校	2024年2月26日(月) 2024年2月26日(月) 2024年2月26日(月)	1回 1回 1回	12 23 37	12 58 105	7 7 6	31 88 148
学校向けプログラム うえのウェルカムコース 5校 参加生徒・児童数 286名	【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展】 【建築・野外彫刻探検】	台東区立根岸小学校 明星学園中学校 鎌ヶ谷市立第三中学校 台東区立東浅草小学校	9月20日(水) 10月5日(木) 11月17日(金) 12月8日(金)	1回 1回 1回 1回	23 17 12 11	75 135 30 35	5 11 2 3	103 163 44 49
	【上野アーティストプロジェクト2023「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす」菌類、植物、動物、人間】	立川学園	12月1日(金)	1回	9	11	7	27
学校プログラム事前打合せ				17回	0	0	24	24
ファミリー向けプログラム	ズームイン！ミュージアム		7月23日(日)、8月26日(土)、2024年2月4日(日)	3日	72	300	272	644
	～Wander Wonder～うえので探す、うえのの不思議		8月9日(水)、10日(日)、2024年2月23日(金)、3月25日(月)	4日	66	146	144	356
	みるラボ：わからないのはじまり		8月17日(木)、18日(金)、19日(土)	3日	24	36	0	60
ダイバーシティプログラム	美術館でやさしい日本語プログラム「からだで楽しむ！ローマ展」 ミュージアム・トリップ		11月12日(日) 12月16日(土)、2024年1月28日(日)	1回 2回	29 38	23 25	21 10	73 73
ミュージアム・トリップ事前打ち合わせ			10月17日(火)、18日(水)	2回	0	0	2	2
学び合いカフェ	各プログラムのとびら向け準備日		7月～2024年3月	21回	462	0	0	462
アンバサダープログラム			11月4日(土)、2024年3月5日(火)	2回	2	5	4	11
ホームカミングデイ			12月9日(土)	1回	16	47	60	123
Museum Start あいうえの 2023 meeting			5月23日(火)	1回	0	0	11	11
視察					0	0	31	31
合計					1,000	1,426	669	3,095

(※1)参加者数「とびら」には、開扉とびらも含む

Creative Ageing ずっとび プログラム参加のべ人数 319人

プログラム名	開催日	回数	参加者数		参加者計		
			とびら	一般参加者等			
認知症の方とその家族を対象にしたプログラム	オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会 うえののそこから「はじまり、はじまり」 荒木珠奈展 美術館で絵を楽しもう！「ずっとび鑑賞会」 おうちで印象派展	8月8日(火) 10月3日(火) 2024年3月16日(土)	1回 1回 1回	25 16 18	23 14 26	48 30 44	
研究会	共創の場座談会「地域のつながりから芽生える文化的処方の実践例 台東区社会福祉協議会×東京都美術館」 パートナープログラム座談会 Creative Ageing ずっとび座談会	8月5日(土) 2月14日(水) 2月14日(水)	1回 1回 1回	0 0 0	32 8 26	32 8 26	
とびらーとの学び合いの場	各プログラムのとびら対象準備日および振り返り	7月15日(土)、30日(日)、9月21日(木)、26日(火)、2024年2月24日(土)、3月3日(日)	6回	101	0	101	
視察				0	30	30	
合計				0	160	159	319

障害のある方のための特別鑑賞会 プログラム参加のべ人数 2,025人

プログラム名	開催日	回数	参加者数		参加者計	
			とびラー	一般参加者等		
障害のある方のための特別鑑賞会	マティス展	6月12日(月)	1回	25	654	679
	永遠の都ローマ展	10月10日(火)	1回	26	506	532
	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	2024年2月13日(火)	1回	32	776	808
視察			0	6	6	
合計			83	1,942	2,025	

とびラーによる建築ツアー プログラム参加のべ人数 569人

プログラム名	開催日	回数	参加者数		参加者計	
			とびラー	一般参加者等		
建築ツアー	5月20日、7月22日、9月16日、11月18日、2024年1月20日、3月2日、いずれも土曜日	6回	77	0	168	245
トピカン・ヤカン・カイカン・ツアー	6月9日、16日、30日、9月8日、22日、12月1日、8日、いずれも金曜日	7回	98	0	124	222
トピカン・モーニング・ツアー	4月25日(火)	1回	10	0	12	22
アート・コミュニケーション事業を体験する 2023「建築ツアー」	7月31日(月)、8月4日(金)、6日(日)	3回	25	0	55	80
合計			210	0	359	569

学校連携 プログラム参加のべ人数 3,652人

プログラム名	開催日	回数	参加者数		参加者計	
			児童・生徒	教員等		
観覧料免除申請(都内教育機関)	マティス展	4月27日(木)～8月20日(日)	39回	602	72	674
	うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展	7月22日(土)～10月9日(月)	5回	55	5	60
	永遠の都ローマ展	9月16日(土)～12月10日(日)	17回	428	38	466
	上野アーティストプロジェクト2023「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす ―菌類、植物、動物、人間」	11月16日(木)～2024年1月8日(月)	1回	6	0	6
学校来館(都外教育機関)	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	2024年1月27日(土)～4月7日(日)	11回	414	33	447
	マティス展	4月27日(木)～8月20日(日)	48回	784	33	817
	うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展	7月22日(土)～10月9日(月)	3回	41	8	49
	永遠の都ローマ展	9月16日(土)～12月10日(日)	20回	428	3	431
教員研修	上野アーティストプロジェクト2023「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす ―菌類、植物、動物、人間」	11月16日(木)～2024年1月8日(月)	5回	120	0	120
	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	2024年1月27日(土)～4月7日(日)	22回	267	4	271
	中堅教員資質向上研修受入(豊島区立目白小学校)	7月31日(月)、8月1日(火)	2回	0	2	2
	中堅教員資質向上研修受入(小平市立第十四小学校)	8月1日(火)、4日(金)	2回	0	2	2
	中堅教員資質向上研修受入(台東区立上野中学校)	8月3日(木)、11日(金)	2回	0	2	2
	園工教員研修会(東久留米市園工教員)	8月15日(火)	1回	0	9	9
	園工教員研修会(荒川区園工研究部会)	8月22日(火)	1回	0	14	14
	園工教員研修会(文京区小学校教育研究会園工部)	11月1日(水)	1回	0	15	15
	園工教員研修会(台東区園工研究部会)	2024年2月15日(木)	1回	0	14	14
	園工教員研修会(台東区立小学校園工研究部 園工教員研修会)	11月8日(水)	1回	0	1	1
専門的人材の育成およびネットワーク	東京都立大学	10月28日(土)	1回	18	2	20
	京都芸術大学 芸術教育資格支援センター	11月24日(金)	1回	47	3	50
	東洋大学国際観光学部国際観光学科	6月13日(火)	2回	68	2	70
	女子美術大学	6月22日(木)	2回	38	6	44
	埼玉大学大学院	7月5日(水)	2回	6	2	8
	お茶の水女子大学	2024年3月5日(火)	1回	27	2	29
学芸員課程研修打合せ	お茶の水女子大学	2024年1月19日(金)	1回	0	2	2
	地域学習インタビュー	台東区立黒門小学校	11月21日(火)	1回	5	1
職業インタビュー	富山県立高岡高等学校	2024年3月15日(金)	1回	3	0	3
学校対応「探究学習」での生徒来館	嘉悦学園 かえつ有明中・高等学校アート部	2024年2月15日(木)	1回	7	2	9
校外学習下見	都立墨東特別支援学校	4月28日(金)	2回	0	4	4
	川崎市立太陽第一幼稚園	11月24日(金)	1回	7	0	7
合計			3,371	281	3,652	

展覧会関連プログラム プログラム参加のべ人数 1,773人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計			
			とびラー	一般参加者等				
とびらボード	【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展】	7月31日(月)	1回	0	0	112	112	
【うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展】	おかえりギャラリークルーズ	7月30日(日)	1回	3	7	23	33	
	ダイヤローグ・ナイトwith とびラー	8月18日、25日、9月1日、15日、29日、10月6日、いずれも金曜日	6回	55	0	96	151	
	アーティスト・トーク	7月22日(土)、8月1日(火)、4日(金)	3回	0	0	112	112	
	合言葉でステッカープレゼント_キッズ+U18デー	7月31日(月)	1回	0	0	233	233	
	みんなでつろうレッツ「ケエジン」!	8月3日(木)	1回	0	0	30	30	
	不思議な生き物になろう	8月11日(金)	1回	0	0	19	19	
	プロフェッショナルトーク	9月3日、24日、いずれも日曜日	2回	0	0	76	76	
	【動物園にて―東京都コレクションを中心に】	講演会	11月25日(土)、26日(日)、12月2日(土)	3回	0	0	376	376
		「8mmフィルム鑑賞会 動物園をうつす」	11月23日(木)	1回	0	0	11	11
		講演会	11月18日(土)、12月10日(日)、16日(土)	3回	0	0	392	392
【上野アーティストプロジェクト2023「上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす ―菌類、植物、動物、人間」】	ダンス・ウェル	12月6日(水)	2回	0	0	30	30	
	タッチカービングで触察体験	12月8日(金)、19日(火)	2回	0	0	20	20	
	記念講演会「広がりがつづける印象派：地域を越えるアート・ムーブメント」	2024年1月27日(土)	1回	0	0	178	178	
合計			58	7	1,596	1,773		

キッズデー+U18 プログラム参加のべ人数 354人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計		
			とびラー	一般参加者等			
キッズデー	うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展	7月31日(月)	1回	0	0	354	354
合計			0	0	354	354	

事業の発信等 プログラム参加のべ人数 7,233人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計	
			とびラー	一般参加者等		
アート・コミュニケーション事業を体験する 2023 説明会	6月18日(日)、21日(水)	2回	45	17	0	62
アート・コミュニケーション事業を体験する 2023	7月29日(土)～8月6日(日)、8月8日(火)～8月11日(金)	13回	149	111	6,773	7,033
アート・コミュニケーション事業を体験する 2023「みんなで語り合おう 美術館ってどんな場所?」	7月30日(日)、8月2日(水)、6日(日)、9日(水)、10日(木)	5回	11	15	58	84
アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 説明会	2024年3月16日(土)	1回	54	0	0	54
合計			259	143	6,831	7,233

4

アメニティ事業

美術館を訪れる楽しさを充実させるアメニティ事業を柱の一つに据え、佐藤慶太郎記念 アートラウンジ、美術情報室、レストラン・カフェ、ミュージアムショップを運営している。

佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

美術情報室

レストラン・カフェ

ミュージアムショップ

来館者サービス

佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

当館創設に寄与した佐藤慶太郎に敬意を表して、名前を冠したラウンジを2012(平成24)年に設置。チラシやDM等の配架やスタッフの常駐により、東京都内の美術館を中心とした展覧会などの情報にアクセスできるインフォメーション・サービスを提供している。

また、2020(令和2)年から映像資料「佐藤慶太郎と東京都美術館のあゆみ」(約20分)をアートラウンジ内にて公開している。

施設概要

面積 / 391㎡
 席数 / 52席

アートラウンジでの催し

アーカイブズ資料展示
 (※詳細はP69に掲載)

まちなかコンサート

日時 / 2023年10月1日(日)
 14:00 ~ 14:30、15:00 ~ 15:30

入場料 / 無料
 主催 / 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館・アーツカウンシル東京
 連携 / 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
 内容 / バリトン&ソプラノ&ピアノ



北欧の家具が配されたアートラウンジ



アーカイブズ資料展示 会場風景



まちなかコンサート

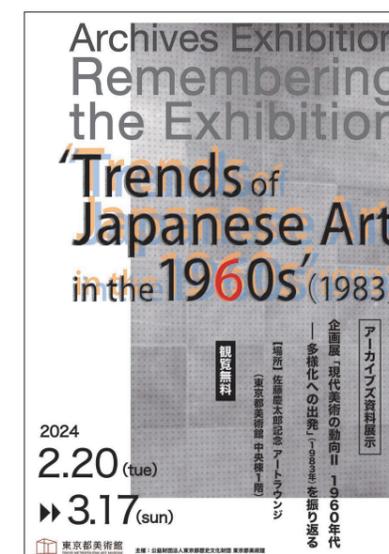
東京都美術館 アーカイブズ資料展示

「企画展『現代美術の動向II 1960年代——多様化への出発(1983年)』を振り返る」
 会期 / 2024(令和6)年2月20日(火)~3月17日(日)
 会場 / 佐藤慶太郎記念アートラウンジ
 出品資料 / 25件
 主催 / 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
 観覧料 / 無料

1980年代の東京都美術館では、「現代美術の動向」と題するシリーズとして、1950年代から70年以降の美術まで、その動向を探る企画展が3回にわたり実施された。シリーズ第2弾にあたる「現代美術の動向II 1960年代——多様化への出発」(1983年)では、高度成長と大衆化社会を背景に多種多様な傾向が生まれた1960年代に焦点をあて、荒川修作、菊畑茂久馬、赤瀬川原平をはじめ、60名におよぶ作家の作品が紹介された。今年度の資料展示では、この「1960年代展」をテーマに、都美術館の広報誌『美術館ニュース』における同展に関する記事等を紹介するとともに、写真や聞き取りをもとに会場図面を再構成し、当館の歩みとその活動を振り返った。

出品リスト

- 1 「現代美術の動向II 1960年代——多様化への出発」展覧会ポスター、1983年
 - 2 「1960年代——現代美術の転換期」展覧会図録、東京国立近代美術館、1981年
 - 3 『美術館ニュース』No. 371、東京都美術館、1982年9月15日発行
 - 4 『美術館ニュース』No. 372、東京都美術館、1982年11月15日発行
 - 5 『美術館ニュース』No. 373、東京都美術館、1983年1月15日発行
 - 6 『美術館ニュース』No. 374、東京都美術館、1983年3月15日発行
 - 7 『美術館ニュース』No. 376、東京都美術館、1983年7月15日発行
 - 8 『美術館ニュース』No. 377、東京都美術館、1983年9月15日発行
 - 9 『美術館ニュース』No. 378、東京都美術館、1983年11月15日発行
 - 10 『美術館ニュース』No. 378、東京都美術館、1983年11月15日発行
 - 11 『美術館ニュース』No. 378、東京都美術館、1983年11月15日発行
 - 12 「現代美術の動向II 1960年代——多様化への出発」展覧会図録、東京都美術館、1983
 - 13 「1960年代」展 展示風景① 写真 撮影：東京画廊
 - 14 「1960年代」展 展示風景② 写真 撮影：東京画廊
 - 15 「1960年代」展 展示風景③ 写真 撮影：東京画廊
 - 16 「1960年代」展 展示風景④ 写真 撮影：東京画廊
 - 17 「1960年代」展 展示風景⑤ 写真 撮影：東京画廊
 - 18 「1960年代」展 展示風景⑥ 写真 撮影：東京画廊
 - 19 「1960年代」展 展示風景⑦ 写真 撮影：東京画廊
 - 20 「1960年代」展 展示風景⑧ 写真 撮影：東京画廊
 - 21 「1960年代」展 展示風景⑨ 写真 撮影：東京画廊
 - 22 「1960年代」展 展示風景⑩ 写真 撮影：東京画廊
 - 23 「1960年代」展 展示風景⑪ 写真 撮影：東京画廊
 - 24 「1960年代」展 展示風景⑫ 写真 撮影：東京画廊
 - 25 「現代美術の動向 1960年代——多様化への出発」展示図面
- ※保存のため、写真はすべて、当館所蔵のアーカイブズ資料の複製を展示した。



ポスター



美術情報室

日本で最初の「美術館における公開制図書室」として、1976(昭和51)年に開設。美術家や遺族から寄贈されるなどした貴重な図書資料は1994(平成6)年に東京都現代美術館に移管されたが、美術への理解と関心を高め美術振興に資するため、新たに一般向けの美術図書や美術雑誌、展覧会図録などの図書資料を収集し来館者の閲覧に供している。2012(平成24)年度に美術情報室と改称。リニューアルを機に当館の歴史に関する資料(アーカイブズ資料)の整理保管にも着手した。一部の資料は2014(平成26)年度末よりオンラインでのデータ公開を行っている。また、美術情報室では教育普及に関わる資料を収集の一つの柱に据え、2014年度よりセルフガイドの登録を開始した。

施設概要

面積／88㎡

席数／14席

蔵書検索端末2台(無料)

蔵書のコピーサービス対応(有料)

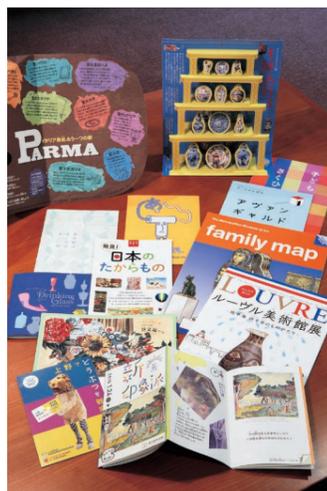
開室時間／午前の部 10:00～13:00

午後の部 14:00～17:00

同時入室最大5名まで(先着順)

休室日／第1、第3月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、

整備休室のほか、美術館に準ずる



寄贈を呼びかけて収集・登録を始めた、さまざまな美術館・博物館のセルフガイド

受入れ冊数 2023(令和5)年度

	美術図書等	美術雑誌等	展覧会図録	年報・紀要等	セルフガイド	ニュース	チラシ
購入	149	239	42	0	0	0	0
寄贈	121	340	593	226	41	39	31
計	270	579	635	226	41	39	31

蔵書冊数(2024年3月31日現在)

美術図書等	美術雑誌等	展覧会図録	年報・紀要等	セルフガイド	ニュース	チラシ	計
10,014	21,400	19,735	6,730	1,312	1,745	423	61,359

館史資料

旧館設計図、歴代展覧会ポスター・チラシ等、約6,000点

実績

開室日数／332日

利用者数／7,231人(1日平均22人)

●月別利用者数

	利用者数	開室日数	1日平均
4月	456	28	16
5月	854	30	28
6月	895	28	32
7月	791	29	27
8月	787	29	27
9月	487	28	17
10月	501	29	17
11月	493	28	18
12月	240	23	10
1月	305	24	13
2月	641	27	24
3月	781	29	27
計	7,231	332	22

※1日平均は四捨五入

レストラン・カフェ

館内で過ごすひとときをより楽しんでいただくために、レストランとカフェの3店舗を設置。洋食を中心に、和食、丼類、そば等豊富なアラカルト料理やセットメニューを揃えた、カジュアルレストラン「ミュージズ」、ゆったりとした空間で上質な料理を味わっていただける本格フレンチダイニング「サロン」、各種軽食、デザート、ドリンク類を提供する「カフェ アート」である。

レストラン

RESTAURANT MUSE(レストラン ミューズ)

面積／481㎡

席数／200席

営業時間／11:00～17:30

(特別展開催中の金曜は20:00まで)



RESTAURANT salon(レストラン サロン)

面積／249㎡

席数／50席

営業時間／11:00～17:30

(特別展開催中の金曜は20:00まで)



カフェ

cafe Art(カフェ アート)

面積／103㎡

席数／50席

営業時間／9:30～17:30

(特別展開催中の金曜は20:00まで)



実績(2023(令和5)年度来店客数)

RESTAURANT MUSE／112,384人

RESTAURANT Salon／18,725人

cafe Art／70,287人

ミュージアムショップ

「+ CREATION(プラス クリエーション)」をコンセプトに、日々の暮らしを、さらには人生を、もっと豊かに、おもしろくするアイテムを提供する新しいタイプのミュージアムショップ。店内に設けた黒板のある一角では、アートをテーマにしたイベントも展開している。



実績

来店客数 / 119,864人

施設概要

面積 / 127㎡

営業時間 / 9:30 ~ 17:30

(特別展開催中の金曜は20:00まで営業)

オリジナル商品

「TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012」(新伝統工芸プロデュース)に認定された11種類の商品のほか、当館ロゴ入りオリジナルグッズ(ポストカードなど)を取扱う。

TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012

認定商品 / 11種(2024(令和6)年3月末)

販売場所 / 東京都美術館ミュージアムショップ

商品リスト

商品名	伝統工芸分野	制作者(職人×デザイナー)	2012(平成24)年10月販売開始～2024(令和6)年3月までの売上げ個数
トウキョウカボッション	東京七宝	畠山弘×村田蘭衣	134
切子の指輪	江戸切子	堀口徹×小宮山洋	55
mixed pendant	江戸象牙	片山紀史夫×峰岸奈津子	71
鼈甲ブックマーカー	江戸鼈甲	大澤健吾×廣田尚子	211
ペーパーウェイト-モアレ	江戸切子	堀口徹×河本匠真	115
小紋チーフ	東京染小紋	富田篤×南出優子	244
小紋ネクタイ	東京染小紋	富田篤×南出優子	13
木彫ルーベ	江戸木彫刻	渡邊宗雲×渡邊純人	258
結-yuu-	東京くみひも	川勝新一×なごみ	143
ホントノキモチ	東京銀器	泉健一郎×竹中逸人・幾度慶美	77
漆硝子文鎮	江戸切子	廣田達朗×藤本英子	52
売上げ個数合計			1,373



小紋ネクタイ



トウキョウカボッション



漆硝子文鎮



結-yuu-

来館者サービス

来館者などへの利便性を高めるために、夜間延長開館をはじめ、託児サービス(有料)のほか、無料で車椅子・ベビーカーの貸し出し、飲料水などの自動販売機(有料)、貸ロッカー、公衆無線LANなどのサービスを提供している。

夜間開館

特別展開催時の金曜日に夜間開館を実施している。

毎週金曜日 / 9:30 ~ 20:00(特別展開催時)

各種サービス

自動販売機(飲料水など、有料) / 8台

貸ロッカー(コインリターン式、無料) / 512台(サイズ内訳: 小465、中39、大8)

貸車椅子(手動型、無料) / 28台

貸ベビーカー(無料) / 5台(対象月齢1~48か月用3台)

特殊簡易公衆電話(コイン式、有料) / 1台

コピーサービス(公募展示室等の利用団体向け、有料)



公衆無線LAN(TOKYO FREE Wi-Fi)

〈アメニティ設備〉

- ・多機能トイレ(介助用ベッド・オストメイト対応) / ロビー階3室
- ・授乳室 / 1室(個室ブース2、おむつ交換台2、流し台、トイレ等)
- ・救護室 / 2室(ベッド各2、流し台等)

〈アクセシビリティ〉

- ・コミュニケーション(インフォメーション)
 - 対応言語 / 日本語、英語、中国語
 - 簡易筆談器やコミュニケーションボードにも対応
- ・車いすをご利用の方向け
 - 貸車いす(自走介助兼用、無料) / 28台
 - 車いす対応トイレ / 各フロア
- ・小さなお子さま連れの方向け
 - 貸ベビーカー(無料) / 5台(対象月齢1~48か月用3台)
 - ミルク用お湯のサービス / レストラン、カフェ、授乳室

バリアフリーガイド

障害のある方、ご高齢の方、ベビーカーをご利用の方など、来館されるすべての方が快適にお過ごしいただけるように、「バリアフリーガイド」を2021(令和3)年度に作成した。館内の施設情報を網羅し、見やすいブックレットスタイルでウェブ版(音声コード付き)を当館ウェブサイトに公開している。



託児サービス

当館または上野公園内の文化施設へお越しの方が利用できる託児サービス(パパママデー)を2014(平成26)年度から開始した。託児サービスは特別展開催時、月に3回程度実施している。

利用対象者 / 東京都美術館または上野公園内の文化施設にお越しの方

利用時間 / 13:00 ~ 閉館時間まで(1回3時間まで)

申込方法 / 事前予約制

定員 / 1日10名前後

利用料金 / 0歳~1歳 2,000円

2歳~6歳(未就学児) 1,000円



実績

実施日数 / 42日

利用者数 / 184人(1日平均 4.3人)

5

広報事業・諸活動

広報事業

調査研究

収蔵品

広報事業

2023(令和5)年度も、各種メディアを通じての広報活動のほか、SNSを活用した新たな来館者層の拡充に努めた。また、近隣商業施設との連携ポスター企画や商店会との連携のほか、館広報誌で地域の魅力を発信するなど、館にとどまらない地域全体の活性化を目指した取り組みを積極的に行った。X(旧Twitter)、Facebookのフォロワー数も昨年度より増加した。

印刷物の発行

館の概要、展覧会カレンダー、フロアマップを1冊にまとめた「ガイドリーフレット」を5言語(日・英・中(簡)・中(繁)・韓)で年2回制作し、館内で配架するとともに都内の観光案内所などで配布した。広報誌「東京都美術館ニュース」では、館の事業やプログラムの紹介だけでなく、著名人へのインタビュー、上野や谷中の方に地域の魅力を語っていただくコーナーなど、館内外の話題を日英併記で掲載、年3回発行した。



ウェブサイトとSNSの運用

ウェブサイトの年間ページアクセス数は約930万、X[日・英]のフォロワー数については順調に増加した。特に日本語Xはフォロワー数が約25万人となり、多くの方に迅速かつ確かな情報を伝えるツールとして欠かせない媒体となっている。

- 東京都美術館ウェブサイト
<https://www.tobikan.jp>

- 東京都美術館 X(旧Twitter)
https://x.com/tobikan_jp[日]
https://x.com/tobikan_en[英]
- 東京都美術館 Facebook
<https://www.facebook.com/TokyoMetropolitanArtMuseum>

	アクセス数	X[日]	Facebook
平成25年度	6,155,741	10,376人	1,669人
平成26年度	10,334,828	19,537人	4,462人
平成27年度	12,473,648	61,850人	7,695人
平成28年度	16,791,673	116,543人	13,513人
平成29年度	12,993,661	145,319人	17,395人
平成30年度	17,949,956	160,148人	21,761人
平成31年度	16,704,295	173,991人	23,530人
令和2年度	8,000,324	187,626人	26,880人
令和3年度	9,333,495	208,265人	29,438人
令和4年度	9,272,219	236,167人	31,292人
令和5年度	9,253,976	249,730人	31,945人

※令和3年度よりアクセス数のカウント方法を変更。令和5年度7月に測定ツールをUAからGA4に移行

各種サインボード、広告掲出

上野公園内等への各種サインボード、上野の商店街でのペナント掲出、都内主要駅での広告掲出など、展覧会の特性にあわせた広告展開を実施した。



プレスリリース作成、取材対応及び取材誘致

メディア向けにプレスリリースを作成・配信。取材対応や記事掲載対応等を実施した。

各種メディアへの放映・掲出件数

TV・ラジオ／204件、新聞／536件、雑誌等／8,091件

他の文化施設、商業施設等との連携広報・地域連携

近隣文化施設との連携広報をはじめ、近隣商業施設が発行する優待カタログへの展覧会情報の掲載のほか、店舗内でのステッカーやコースターの設置、告知協力、連携ポスター企画などでご協力をいただいた。

・東京国立博物館 特別展との連携広報

メキシコにゆかりのある東京都美術館の企画展「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」の出品作家が、東京国立博物館 特別展「古代メキシコ」のワークショップを実施したり、2展合同でウェブ広告を行うなど連携した取り組みを行い、多くの来場者が両館を訪れるきっかけとなった。

・近隣商業施設との連携広報

「マティス展」「永遠の都ローマ展」「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」のいずれの特別展においても、近隣の商業施設にてステッカー等の配布やコラボメニューの展開等のご協力をいただいた。



バルコヤ エキュート上野 アトレ上野



上野マルイ 松坂屋上野店

・近隣施設との連携ポスター企画

特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、近隣施設54店舗のご協力によるコラボレーションポスターを制作し、各店舗に掲出し告知協力をいただいた。ポスターには「知られざる魅力」についての各店舗のコメントを掲載し、展覧会のテーマとつながるものとした。



・優待カタログ等の配布

上野の商業施設で作成する優待カタログの館内での配架により、地域全体の盛り上げに寄与した。

・上野の山文化ゾーン連絡協議会

各館の情報交換、各種パンフレット制作などを実施。秋の「上野の山文化ゾーンフェスティバル」では、講演会シリーズに参加した。



・上野ミュージアムウィーク

5月18日(木)の「国際博物館の日」前後に文化施設と上野のれん会が連携して開催。
 実施期間：5月6日(土)～28日(日)

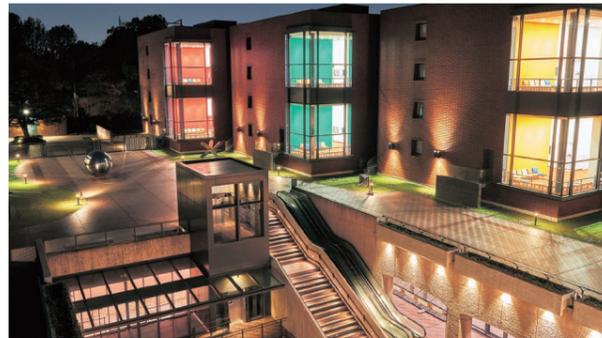
ユニークベニュー・ロケ撮影

ユニークベニュー

歴史的建造物や文化施設等で、会議やイベント、レセプション等を開催することで、特別感を演出できる会場を、ユニークベニューという。

日本のモダニズム建築の巨匠・前川國男により設計された東京都美術館を、プライベートなイベントの会場として利用することができる。東京都美術館では、一定の条件のもとでユニークベニューを受け入れている。

※令和5年度は実施なし



ロケ撮影受け入れ

当館では、東京におけるロケーション活動の円滑化を図り、東京のPRに資する映画、テレビドラマ等の撮影を通じ東京の文化発信力を高めるといふ、東京ロケーションボックスの設立趣旨に賛同して、一定条件のもとでロケ撮影を受け入れている。2022(令和4)年度は以下の通り。

実績

スチール撮影 許可件数/9 撮影件数/8 撮影日数/8
ムービー撮影 許可件数/2 撮影件数/2 撮影日数/2

主な掲載媒体

ファッション誌・ファッションブランドカタログ、Web広告、テレビドラマ、ウェブ配信ドラマなど

主な撮影場所

公募展示室ロビー、エントランス、中庭、エスプラナードなど



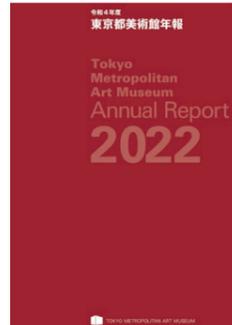
年報

年報発行

「令和4年度 東京都美術館年報」(Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2022)を発行し、全国の関係各所に配布した。

●編集方針

- (1)社会に発信するコミュニケーションの手段として、
 - MSR(Museum social responsibility)レポートの要素を加味し成果や評価結果の概要を提示
 - 洗練されたデザインにより、わかりやすく、親しみやすい言葉で語る
- (2)成果や課題をビビッドに知らせる生きた年報として、
 - 利用者の視点で活動や成果を知らせる
 - 画像を用い、視覚に訴え、館の顔が見えるように
- (3)活動の記録の基礎資料として、
 - 基本的なデータを網羅し、資料性を高める



令和4年度 東京都美術館年報
Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2022

調査研究

展覧会をはじめ美術館の様々な事業は調査研究の上に成り立っている。リニューアルオープンを機に、数々の自主企画を新たに展開することとなり、調査研究活動は一層重要性を増した。博物館法による博物館相当施設として、調査研究の成果を明確に示す必要がある。調査研究の成果は展覧会図録等で発表している。また、美術や美術館に関する職員の知見は、寄稿や講演などにより、より広く社会に還元するように努めている。紀要及び職員別の取り組みは以下の通り。

『東京都美術館紀要』発行

『東京都美術館紀要』は、美術及び美術館に関する諸分野の専門的、総合的研究の成果や、美術館活動における展示、教育普及事業等の活動や研究の成果を、論文、作品紹介、研究ノート等により掲載、発表することにより、現代社会で生活する人びとの芸術文化や教育の発展向上に寄与することを目的とする。

2023(令和5)年度は、『東京都美術館紀要 No.30』を発行した。巻末に、各論文の英文概要を掲載した。内容は以下の通り。

- ・高城靖之「スコットランドの風俗画家デイヴィッド・ウィルキー——その作品の特徴と意義」pp.5-14
- ・小林明子／編「東京都美術館、1980年代の海外現代作家展をめぐって——齊藤泰嘉氏によるオーラル・ヒストリー」pp.15-33



東京都美術館紀要 No.30

著作・講演等 ※五十音順

●大内曜

【著作・寄稿】

- ・「美術館でみる菌類、植物、動物そして動物園」WEB版『うえの』(上野のれん会)2023年11月号、pp.30-34
- ・「動物園」で何を見るか』『新美術新聞』(美術年鑑社)2023年11月15日号、p.6
- ・「辻永と植物—自然の中に入りこんだ画家」『美術の窓』(生活の友社)2023年11月号、pp.118-119
- ・「『いのち』と触れあうつくり手たち」『新美術新聞』(美術年鑑社)No.1644、2023年12月1日号、p.1
- ・「展覧会の舞台裏 Creating Exhibitions「うつす」ことからみえるもの」『東京都美術館ニュース』(東京都美術館)No.476、2023年11月30日、pp6-7
- ・「展覧会の舞台裏 Creating Exhibitions うつりゆく人・うつりゆく風景」『東京都美術館ニュース』(東京都美術館)No.477、2024年3月31日、pp.6-7

【講演・セミナー】

- ・東京造形大学学芸員課程「生涯学習概論」東京造形大学、2023年度前期

●大橋菜都子

【著作・寄稿】

- ・「日本における印象派フロンティア」『印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵』展覧会カタログ(日本テレビ放送網)2024年、pp.18-23
- ・「印象派の広がり アメリカ印象派の魅力」WEB版『うえの』(上野のれん会)2024年2月号、pp.34-36
- ・「アメリカ印象派の魅力」『美術の窓』(生活の友社)2024年2月号、p.164
- ・「朝食室、冬の朝、ニューヨーク」チャイルド・ハッサム』『読売新聞』(読売新聞社)2024年3月11日

【講演・セミナー等】

- ・東京農工大学大学院生物システム応用化学府「芸術表現」東京農工大学、2023年度集中講義
- ・「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展の見どころ」朝日カルチャー新宿教室、2024年2月8日
- ・学芸員資格課程「博物館展示論」 「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」ができるまで」国際基督教大学、2024年2月9日

●熊谷香寿美

【著作・寄稿】

- ・「ちょっと怖くて不思議な世界へようこそ」『版画芸術』（阿部出版）2023年6月1日号、pp.120-123
- ・「うえののそこから」はじまり、はじまり」荒木珠奈 展」WEB版『うえの』（上野のれん会）2023年8月号、pp.36-38

【講演・セミナー等】

- ・「作品を鑑賞するとは」とびらプロジェクト基礎講座（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）2023年4月29日
- ・「認知症世界とアートの出会い—Creative Ageing ずっとびの取り組みから」とびらプロジェクトオープンレクチャー vol.4（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）2023年11月23日
- ・「ミュージアムと偶察力—共創を生み出すまなざし」とびらプロジェクトフォーラム（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）2024年1月21日

●河野佑美

【著作・寄稿】

- ・「Museum Start あいうえの ティーンズ・プログラム「みるラボ：わからないのはじまり」聞こえる人と聞こえない人が一緒に作品を鑑賞する、夏の3日間」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.477、2024年3月31日、pp.8-9

【講演・セミナー等】

- ・「東京都美術館の建築と歴史」とびらプロジェクト建築実践講座第1回（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）2023年7月1日
- ・東洋大学国際観光学部「国際観光学研究」、2023年6月13日
- ・女子美術大学芸術学科アート・デザイン表現学科「ミュージアム・エデュケーション演習Ⅰ」、2023年6月22日
- ・埼玉大学教養学部「ミュージアム・エデュケーション」、2023年7月5日
- ・東京都立大学学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ見学実習」、2022年10月23日
- ・京都芸術大学通信教育部学芸員課程「博物館実習3」、2023年11月24日
- ・お茶の水女子大学学芸員課程「博物館実習Ⅰ見学実習」、2024年3月5日
- ・東久留米市図工専科教員研究会、2023年8月15日

- ・荒川区立小学校教育研究会図工部研修会、2023年8月22日
- ・文京区立小学校教育研究会図工部研修会、2023年11月1日
- ・台東区教育委員会図画工作部会研修会、2024年2月15日
- ・東京都立大学人文社会学部人文学科歴史学・考古学教室「博物館資料論」東京都立大学、2023年度後期

【委員・その他学術活動】

- ・公益財団法人東京動物園協会教育普及センター展示企画協力「ようこそデザニャーレ 東京どうぶつえんすいぞくえんデザイン室」

●小林明子

【著作・寄稿】

- ・「2022年度 アーカイブズ資料展示「公開制作の記録」」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.475、2023年7月31日、p.12
- ・「永遠の都ローマ展」WEB版『うえの』（上野のれん会）2023年9月号、pp.18-20
- ・「永遠の都ローマ展」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月8日朝刊、p.12
- ・「「永遠の都ローマ展」古代から近代の歴史・芸術を紹介」WEB版『産経ニュース』（産経新聞社）2023年9月14日
- ・「カピトリノ美術館の「絵画館」と教皇ベネディクトゥス14世」『永遠の都ローマ展』展覧会カタログ（毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション）2023年、pp.206-210
- ・「「永遠の都」ローマをたどる大展覧会 二千年の壮大な美」『小原流插花』（いけばな小原流）2023年9月号
- ・「永遠の都ローマ展 コンスタンティヌス帝 巨像頭部」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月18日朝刊、p.21
- ・「永遠の都ローマ展 ローマ教会の擬人像」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月19日朝刊、p.19
- ・「永遠の都ローマ展 カピトリノのヴィーナス」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月20日朝刊、p.17
- ・「永遠の都ローマ展 カンピドリオ広場の眺め」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月25日朝刊、p.23
- ・「永遠の都ローマ展 教皇ウルバヌス8世の肖像」『毎日新聞』（毎日新聞社）2023年9月27日朝刊、p.17
- ・「東京都美術館、1980年代の海外現代作家展をめぐって——齊藤泰嘉氏によるオーラル・ヒストリー」（編）『東京都美術館紀要』（東京都美術館）No.30、2022年2月、pp.15-33

【講演・セミナー等】

- ・十文字女子学園大学教育人文学部文芸文化学科「西洋美術史」十文字女子学園大学、2023年度前期
- ・十文字女子学園大学教育人文学部文芸文化学科「博物館学実習Ⅰ」十文字女子学園大学、2023年度後期
- ・「永遠の都ローマ展」東京都立大学プレミアム・カレッジ、2023年9月26日
- ・「永遠の都ローマ展」①日本橋公会堂ホール、2023年10月2日、②調布市文化会館たづくり くすのきホール、2023年10月17日、③くにたち市民芸術小ホール、2023年10月19日
- ・「永遠の都ローマ展について」日本工業倶楽部 美術鑑賞会、2023年10月6日
- ・「永遠の都ローマ展のみどころ」朝日カルチャーセンター新宿教室、2023年10月13日

●下倉久美

【著作・寄稿】

- ・「東京都美術館でのダンス・ウエルの試み」ジャーナル、ICOM日本委員会（WEB）、2023年8月4日
- ・「作品を介したコミュニケーションが広がる場—展覧会関連プログラム」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.477、2024年3月31日、pp.10-11

【講演・セミナー等】

- ・「からだ全体で作品をあじわう—「ダンス・ウエル」の試み」国際博物館の日記念2023シンポジウム、公益財団法人日本博物館協会・ICOM日本委員会、2023年5月21日

【委員・その他学術活動】

- ・International Advisory Committee (Hong Kong Jockey Club Dance Well Hong Kong Project)

●高城靖之

【著作・寄稿】

- ・「美術情報室から新着図書のご紹介です」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.476、2023年11月30日、p.12
- ・「スコットランドの風俗画家デイヴィッド・ウィルキー——その作品の特徴と意義」『東京都美術館紀要』（東京都美術館）No.30、2024年2月、pp.5-14
- ・「展覧会おすすめ図書コーナーはご存じですか？」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.477、2024年3月31日、p.12

●中原淳行

【講演・セミナー等】

- ・とびらプロジェクト2023スペシャル「東京都美術館の昨日・今日・明日」（聞き手：西村佳哲氏）（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）東京藝術大学第1講義室、2023年5月14日

●藤岡勇人

【著作・寄稿】

- ・「認知症当事者とその家族を対象とした展覧会鑑賞プログラム」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.475、2023年7月31日、pp.8-9

【講演・セミナー等】

- ・「ウェルビーイングな場の共創 東京都美術館「Creative Ageing ずっとび」の実践」共創フォーラム Vol.1 Art, Health & Wellbeing ミュージアムで幸せになる。英国編、2023年10月8日
- ・「Creative Ageing ずっとびの実践」とびらプロジェクトオープン・レクチャー vol.14（東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト）2023年11月23日
- ・女子美術大学芸術文化専攻「グローバル・コミュニケーションⅡ Regarding Curator Comment Writing」、2023年12月6日
- ・愛知県立芸術大学「修士総合研究」、2024年1月30日

●山田桂子

【著作・寄稿】

- ・「ジャンルから見る公募展—工芸を切り口に」『東京都美術館ニュース』（東京都美術館）No.476、2023年11月30日、pp.10-11

収蔵品

当館は、野外彫刻等の立体作品13点と書作品36点を収蔵(展示・保存)している。

野外彫刻等の立体作品は、1975(昭和50)年度から1985(昭和60)年度にかけて収集された11点(寄贈を含む)など12点を常時展示している。本年度は、野外彫刻10点の洗浄調査を行った。

書作品の収蔵は、1963(昭和38)年度から1978(昭和53)年度にかけて行われた。1994(平成6)年には東京都現代美術館に移管されたが、2011(平成23)年7月に当館に再移管されることとなり、現在は30名の作家による書作品36点を収蔵している。

立体作品リスト

作家名	作品名	制作年	材質	分類
1 五十嵐晴夫	メビウスの立方体	1978	花崗岩	彫刻
2 井上武吉	Plus and Minus No.55	1975	ステンレス	彫刻*
3 井上武吉	my sky hole 85-2 光と影	1985	ステンレス、鉄	彫刻
4 建畠覚造	さ傘(天の点滴をこの壺に)	1973	アルミニウム、ステンレス、鉄	彫刻
5 鈴木久雄	P3824 M君までの距離	1977	花崗岩	彫刻
6 堀内正和	三本の立方体 B	1978	ステンレス	彫刻
7 堀内正和	三つの立方体 A	1978	ステンレス	彫刻
8 最上壽之	イロハニホヘトチリヌルヲワカタレソツネ……ン	1979	富士大沢石	彫刻
9 保田春彦	堰の見える遠景	1975	花崗岩、ステンレス	彫刻
10 小田 襄	円柱の領域	1975	ステンレス	彫刻
11 朝倉文夫	佐藤慶太郎像	1926	ブロンズ	彫刻
12 ジョセフ=アントワヌ・ベルナル	舞踏	1975	石膏	レリーフ
13 ジョセフ=アントワヌ・ベルナル	舞踏	1925	石膏	レリーフ

*印の作品は、作者寄贈



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

書作品リスト

作家名	作品名	制作年	材質	分類
1 青山杉雨	唐詩	-	紙本	書
2 青山杉雨	車馬囂々	-	紙本	書
3 安東聖空	不二	-	紙本	書
4 安東聖空	富士	-	紙本、二曲一隻	書
5 泉原寿石	従容録	-	紙本	書
6 上田桑鳩	騰	-	紙本	書
7 宇野雪村	NEN	-	紙本	書
8 大石隆子	小庭	1972	紙本	書
9 金子鷗亭	閑適(七言絶句)	-	紙本	書
10 金子鷗亭	知床(自詠)	1964	紙本	書
11 金子鷗亭	尾花	1973	紙本	書
12 金田心象	菩薩	1972	紙本	書
13 川村驥山	清風明月用不盡	-	紙本	書

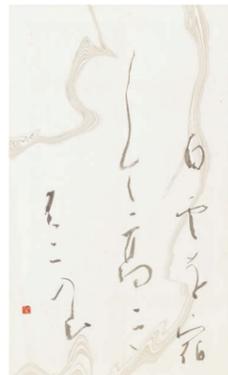
作家名	作品名	制作年	材質	分類
14 熊谷恒子	いへにても	1972	紙本	書
15 桑田笹舟	希望	-	紙本	書
16 佐藤祐豪	元天目中峰和高山居詩二首	1970	紙本	書
17 鈴木翠軒	万葉一首	-	紙本	書
18 炭山南木	天空海調	1970	紙本	書
19 田中塊堂	槻の木	-	紙本、二曲一隻	書
20 手島右卿	万華	1968	紙本	書
21 中野越南	寿似山	-	紙本	書
22 中村旭坡	七言絶句	-	紙本	書
23 西川寧	吉康	1965	紙本	書
24 比田井南谷	作品 70-2	1970	油彩、紙本	書
25 日比野五鳳	あふさかの関	1969	紙本	書
26 広津雲仙	禅語(鐵團圓)	1972	絹本	書
27 豊道春海	嘉言名句	1958	紙本	書
28 豊道春海	草書閑適	1966	紙本(一幅)	書
29 松井如流	彬	1971	紙本	書
30 松本芳翠	慰情	1958	紙本	書
31 宮本竹逕	万葉長歌	1974	紙本	書
32 村上三島	秋日	1970	紙本	書
33 森田子龍	想	1975	紙本	書
34 柳田泰雲	醉古堂劍掃之語	-	紙本	書
35 山崎節堂	孝経一節	-	紙本	書
36 山崎節堂	高野蘭亭雪中吉祥閣に登る詩	1975	紙本	書



1



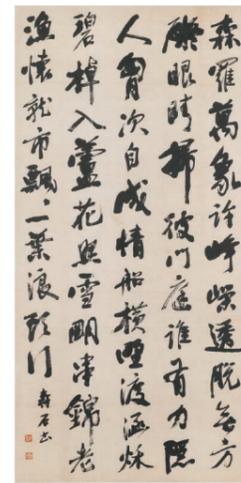
2



3



4



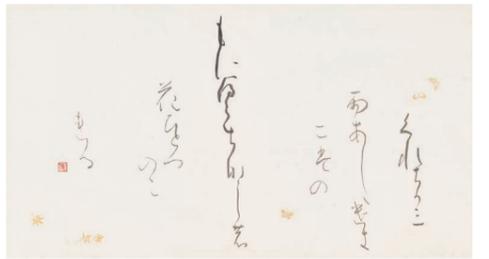
5



6



7



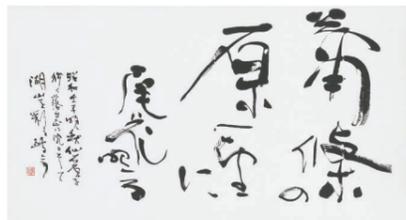
8



9



10



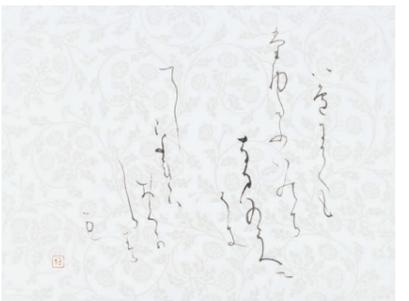
11



12



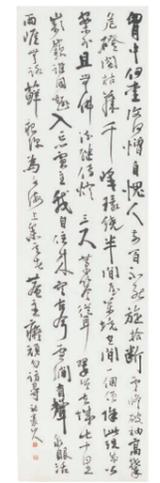
13



14



15



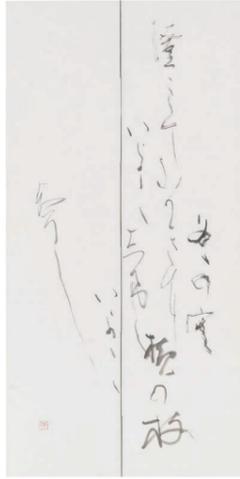
16



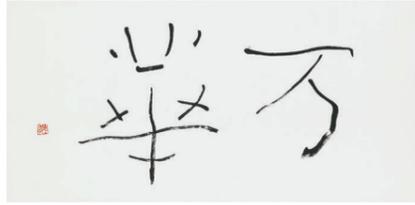
17



18



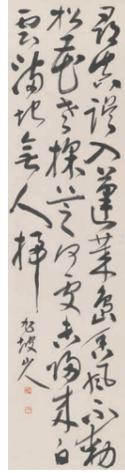
19



20



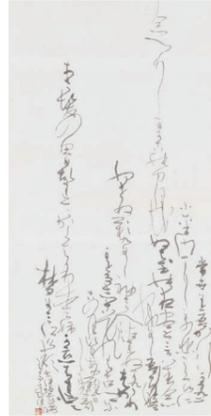
21



22



30



31



32



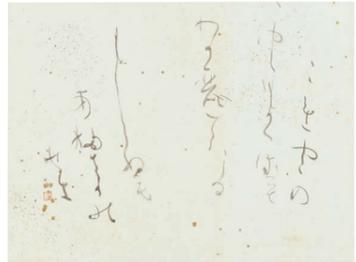
33



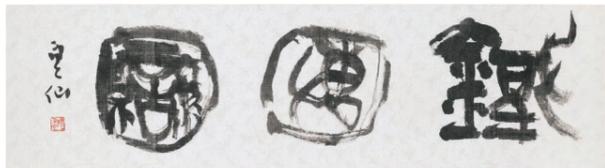
23



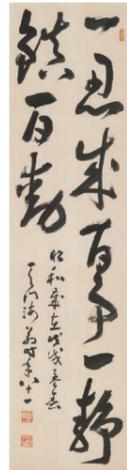
24



25



26



27



28



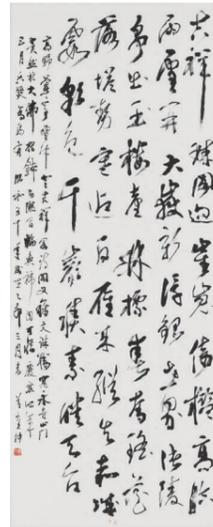
29



34



35



36

実績データ

2023(令和5)年度の実績

入館者数実績
 予算概要
 組織・名簿

入館者数実績

2023(令和5)年度 入館者数内訳

	展覧会観覧者			観覧者合計	その他入館者				その他入館者 合計	入館者 総合計
	特別展	企画展/上野AP /グループ展/ コレクション展	公募団体展 学校教育展		アート・コミュニ ケーション事業	美術情報室	講堂	スタジオ		
4月	53,387	-	80,459	133,846	550	456	1,585	461	3,052	136,898
5月	96,448	-	76,523	172,971	915	854	1,468	469	3,706	176,677
6月	106,712	33,099	87,186	226,997	2,151	895	1,417	479	4,942	231,939
7月	113,164	8,049	45,441	166,654	4,218	791	2,782	402	8,193	174,847
8月	117,250	12,707	40,384	170,341	7,833	787	2,355	359	11,334	181,675
9月	25,438	11,256	77,898	114,592	1,666	487	1,521	296	3,970	118,562
10月	54,472	11,160	88,483	154,115	2,094	501	1,551	457	4,603	158,718
11月	50,820	18,437	106,556	175,813	2,468	493	1,592	355	4,908	180,721
12月	22,824	19,846	35,072	77,742	1,761	240	1,562	552	4,115	81,857
1月	16,229	8,021	47,313	71,563	1,088	305	2,565	320	4,278	75,841
2月	111,601	-	162,611	274,212	2,329	641	2,793	457	6,220	280,432
3月	153,034	-	112,895	265,929	1,630	781	2,960	495	5,866	271,795
合計	921,379	122,575	960,821	2,004,775	28,703	7,231	24,151	5,102	65,187	2,069,962

来館者の特徴と満足度

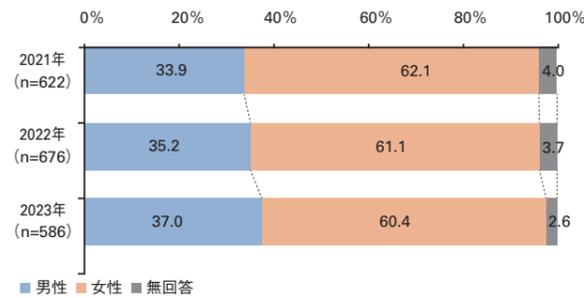
当館では毎年顧客満足度調査を実施している。今回は2021（令和3）年度から2023（令和5）年度の結果を比較する（総合満足度については2023（令和5）年度の結果のみ掲載）。

※公益財団法人東京都歴史文化財団「東京都美術館令和5年度顧客満足度調査報告書」からデータを抜粋。2021年度は2回、2022年度は3回、2023年度は2回[7月28日（金）、11月23日（木）]に調査を実施した（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、2021年度からウェブの常時設置バナー（QRコード）からの常時調査も行い、2023年度は7月11日（火）～11月23日（木）に実施）。

来館者の特徴

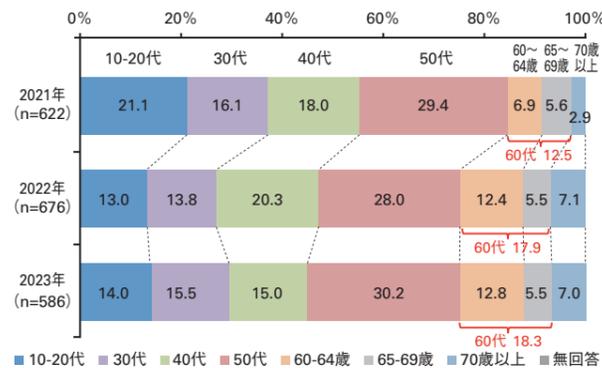
性別

2023年度は、男性の比率が37.0%と1.8%増加しているが、過去2年間で同様に女性比率が高い傾向にある。



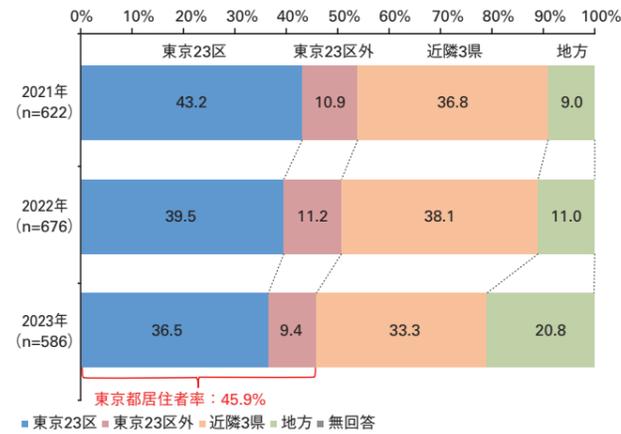
年代

50代が約3割と最も高く、ついで60代が18.3%、30代が15.5%と続く。コロナ禍前は、70歳以上が2割を占めていたが、1割以下にとどまり事前予約システムに慣れないことによる来館自体が減少したことなどが影響したと思われる。



居住地

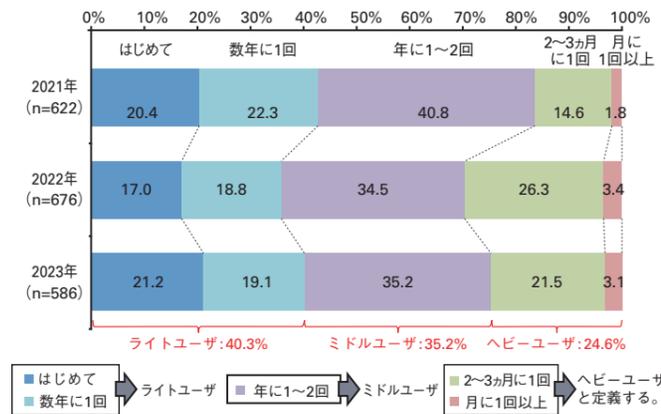
東京都居住者率の合計は45.9%と4.8%減少、近隣3県も4.8%減少する中、地方の比率はコロナ禍前(2019年度)のレベルまで戻っている。



来館頻度

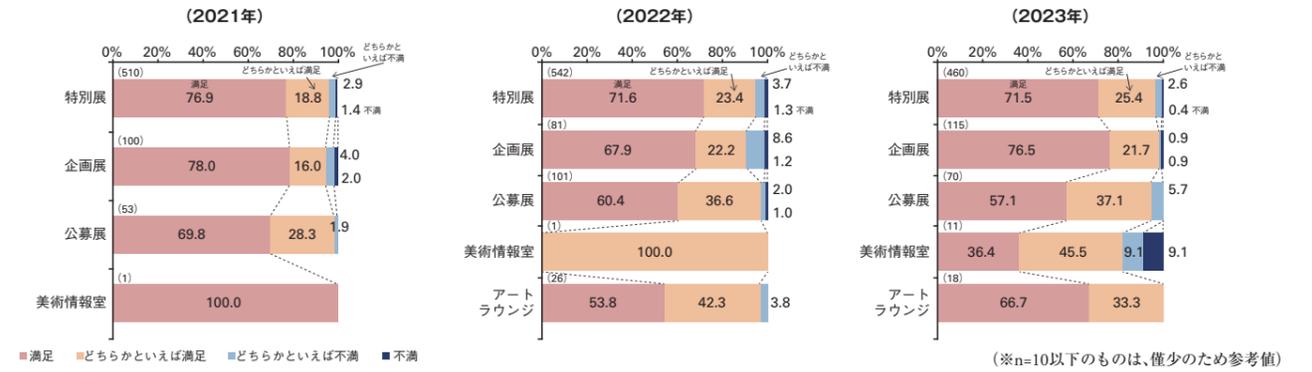
最も多いのは、「年に1～2回」の35.2%、ついで「2～3か月に1回」の21.5%、「はじめて」の21.2%となっている。前年度に比べ、ライトユーザとミドルユーザが増加している一方で、ヘビユーザは減少傾向にある。

なおグラフには記載されていないが、10-20代の来館者は、「初めて」「数年に1回」のライトユーザが5割以上とやや高くなっている。70歳以上の来館者では、ミドルユーザが約4割となっている。



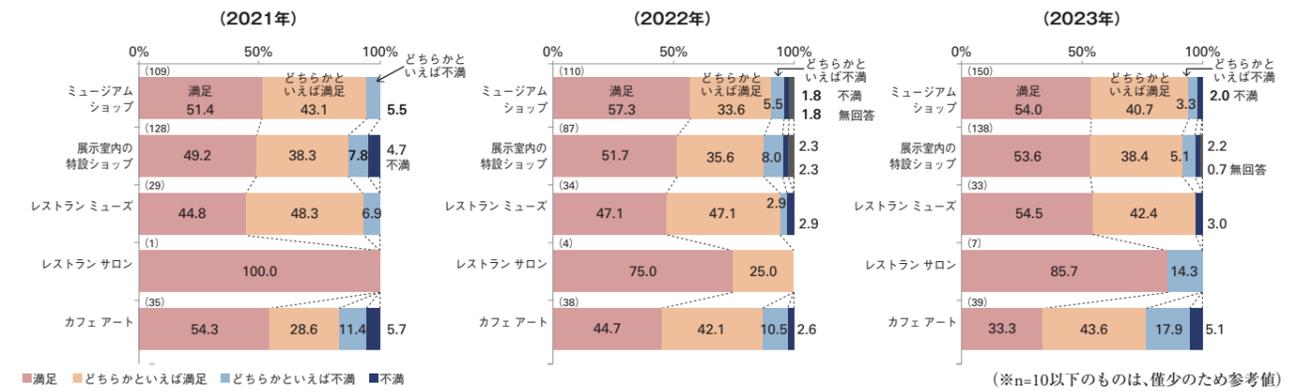
来館者等の満足度

調査中に開催していた特別展及び公募団体展についての満足度（「満足」は『満足』と『どちらかといえば満足』の合計。以下同じ）は美術情報室を除いて9割を超える。「満足」回答では、特別展96.9%、企画展98.2%、公募展94.2%となっている。



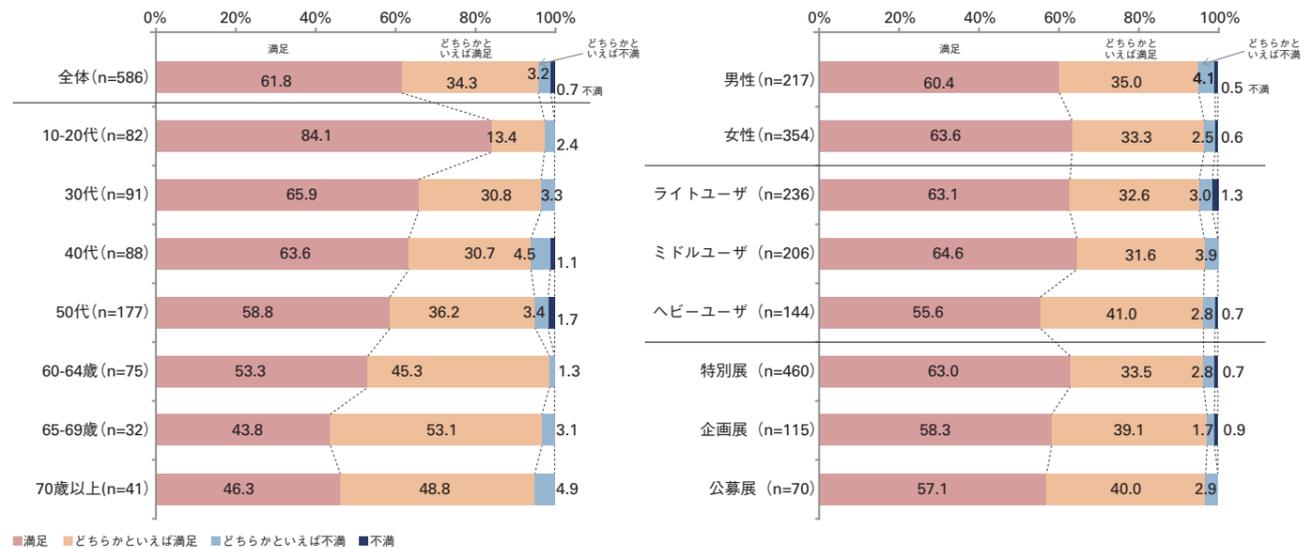
ショップ・レストラン・カフェの満足度

満足度は「カフェ アート」を除いて8割以上と高い。ミュージアムショップ94.7%、展示室内特設ショップ92.0%、レストラン ミューズ96.9%、レストラン サロン85.7%、一方、不満回答では、レストラン サロン14.3%、カフェアート23.0%あった。



総合満足度

全体的に総合満足度は高く、96.1%となっている。年齢別にみると、10-20代では満足度は97.5%と高く、年齢が低いほど「満足」回答が高い傾向がみられる。男女別では、「満足」回答の比率はほぼ同等であるが、「不満」回答の比率は男性の方がやや高くなっている。



予算概要

公益目的事業会計 (自主事業)		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	72,786	
入場料	11,664	
共催事業収益	57,680	
出版物販売	3,442	
受取負担金	21,388	
経常収益計	94,174	
経常費用		
事業費	169,809	
経常費用計	169,809	
当期経常増減額	△ 75,635	
他会計振替額		
収益事業会計振替額	42,935	
当期一般正味財産増減額	△ 32,700	

(受託事業)		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	300,857	
施設使用料	300,857	
管理運営受託収益	673,775	
雑収益	5,393	
経常収益計	980,025	
経常費用		
事業費	979,978	
経常費用計	979,978	
当期経常増減額	47	
当期一般正味財産増減額	47	

収益事業等会計		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	97,551	
共催事業収益	15,798	
管理手数料	66,700	
撮影手数料	137	
受取光熱水費	14,916	
管理運営受託収益	2,555	
雑収益	119	
経常収益計	100,225	
経常費用		
事業費	28,666	
経常費用計	28,666	
当期経常増減額	71,559	
他会計振替額		
公益目的事業会計振替額	△ 57,527	
法人税、住民税及び事業税	4,854	
当期一般正味財産増減額	9,178	

組織・名簿

諮問機関等		(各委員会開催日時点の概要)
東京都美術館運営委員会		
会長	並木 一夫(元東京都生活文化局長・東京都レクリエーション協会特別顧問)	
副会長	手塚雄二(日本画家・東京芸術大学名誉教授・日本美術院同人理事・福井県立美術館 特別館長)	
委員	新井 光風(書道家・謙慎書道会顧問)	
	荒川 聡一郎(台東区副区长)	
	宝木 範義(美術評論家)	
	中林 忠良(版画家・日本美術家連盟理事長・日本版画協会理事)	
	三田村 有純(東京芸術大学参与 名誉教授・日展理事・江戸蒔絵十代継承)	
	山梨 絵美子(千葉市美術館館長)	
	山本 貞(洋画家・二紀会理事長・日本美術家連盟理事)	
任 期	令和5年1月1日～令和6年12月31日	
開催日	令和6年3月13日	
議 題	令和5年度事業の実施状況について	
	令和6年度事業計画について	
	令和7年度公募団体展・展示室使用割当について	

第1回 東京都美術館外部評価委員会	
委員長	長田 謙一(東京都立大学 客員教授、千葉大学 名誉教授)
副委員長	一條 彰子(国立アートリサーチセンター ラーニンググループリーダー)
委員	五十嵐 卓(帝京平成大学 人文社会学部人間文化学科 メディア文化コース 教授)
	佐藤 一也(上野まちづくり協議会 会長)
	渡辺 晋輔(国立西洋美術館 学芸課長)
任 期	令和3年7月1日～令和6年6月30日
開催日	令和5年5月22日
議 題	令和4年度東京都美術館事業の評価について
	令和5年度東京都美術館事業計画について

第2回 東京都美術館外部評価委員会	
委員長	長田 謙一(東京都立大学 客員教授、千葉大学 名誉教授)
副委員長	一條 彰子(国立アートリサーチセンター ラーニンググループリーダー)
委員	五十嵐 卓(帝京平成大学 人文社会学部人間文化学科 メディア文化コース 教授)
	佐藤 一也(上野まちづくり協議会 会長)
	渡辺 晋輔(国立西洋美術館 学芸課長)
任 期	令和3年7月1日～令和6年6月30日
開催日	令和6年2月22日
議 題	令和4年度指定管理者管理運営状況評価結果について
	令和5年度東京都美術館事業の説明及び実施状況について

職員		(令和6年3月31日現在)
館長		高橋 明也
副館長〔派〕		貝瀬 由明
企画調整課		
企画調整課長事務取扱		貝瀬 由明(兼務)
学芸担当課長		山村 仁志
調整担当課長(学芸)		中原 淳行
管理係		
管理係長〔派〕		真田 千春
企画経理担当係長		昌山 誠弘(事務代理)
次席		昌山 誠弘
主任		茂木 大輔
主任		柴田 崇貴
主事		進藤 美恵子
一般事務		福島 昌子
専門技術員		田中 誠一

交流係	
交流係長(学芸)	下倉 久美
主事(学芸)	大内 曜
主事(学芸)	柴田 友里子
主事(学芸)	富永 ももこ

アート・コミュニケーション係	
アート・コミュニケーション係長(学芸)	熊谷 香寿美
主任(学芸)	河野 佑美
主事	藤岡 勇人
主事(学芸)	峰岸 優香

事業係	
事業係長(学芸)	中原 淳行
主任(学芸)	大橋 菜都子
主任(学芸)	小林 明子
主任(学芸)	高城 靖之
主事(学芸)	山田 桂子
広報担当係長	山崎 真理子
主任	佐川 真由美

※〔派〕は東京都派遣職員

主な業務委託先・事業従事者

建物総合管理／都市建物環境サービス協同組合

レストラン・カフェ／株式会社精養軒

ミュージアムショップ／株式会社美術出版エデュケーションナル

美術情報室・佐藤慶太郎記念 アートラウンジ／社会福祉法人埼玉福祉会

展覧会受付・看視／株式会社フクシ・エンタープライズ

託児サービス／株式会社明日香

※公募団体展、学校教育展を除く

2

これまでの実績

企画展示事業年次別一覧

公募団体等の使用団体数の推移

年間観覧者数の推移

企画展示事業年次別一覧

*は自主事業による特別展、企画展、連携展、コレクション展。他は共催による特別展。なお、1994(平成6)年度まで実施されていた取蔵作品展は含まない

年度	展覧会名	開催 日数	入場者数	
			()は1日あたりの人数	
1976	戦前の前衛展*	50	13,328	(267)
(昭和51)	サロン・ドートンス、ポルトガル現代美術展	17	17,375	(1,022)
	ドイツの現代陶芸	20	5,805	(290)
	スペイン名画展	22	29,277	(1,331)
昭和52	「白樺」と大正期の美術*	50	17,146	(343)
	ミュンヘン近代美術展	28	57,266	(2,045)
	ピカソ展	44	379,770	(8,631)
	護光・松本竣介そして戦後美術の出發*	50	18,223	(364)
昭和53	写真と絵画*	50	13,704	(274)
	牧野虎雄展*	50	9,258	(185)
	フランス美術栄光の300年	36	181,052	(5,029)
昭和54	近代日本美術の歩み	26	141,214	(5,431)
	麻生三郎展*	50	17,011	(340)
	胸井哲郎銅版画展*	50	14,616	(292)
1980	現代版画の一断面*	50	11,322	(226)
(昭和55)	世界の現代版画25年展	38	13,012	(342)
昭和56	20世紀のアメリカ美術 描かれたニューヨーク	50	67,557	(1,351)
	現代美術の動向Ⅰ 1950年代-その暗黒と光芒-	50	13,240	(265)
	今日のイギリス美術	38	36,693	(966)
昭和57	プーシェ展	52	142,151	(2,734)
	日本銅版画史展*	51	8,990	(176)
昭和58	韓国現代美術展	26	5,093	(196)
	現代美術の動向Ⅱ 1960年代-多様化への出發-	50	10,105	(202)
	斎藤義重展*	40	6,906	(173)
昭和59	エルミタージュ・プーシキン美術館所蔵作品による 後期印象派から立体派まで	45	133,220	(2,960)
	ナムジュン・バイク展*	40	21,903	(548)
	現代美術の動向Ⅲ	50	8,435	(169)
	1970年以降の美術-その国際性と独自性-			
1985	井上武吉新作展*	40	7,274	(182)
(昭和60)	新館開館10周年記念 現代美術の40年*	50	14,298	(286)
昭和61	ヘンリー・ムーア展	48	70,351	(1,466)
	今村紫紅・速水御舟・松岡映丘・鏑木清方 …日本画の前衛たち*	50	27,657	(553)
昭和62	ポロフスキー展	50	75,879	(1,518)
	布のかたち 糸のかたち*	50	12,091	(242)
昭和63	1920年代・日本展	50	56,492	(1,130)
	ルーヴル美術館所蔵フランスブロンズ名品展	50	20,801	(416)
平成元	日本油彩画の独自性を求めて*	50	26,782	(536)
	リヨン美術館特別展 栄光のフランス近代美術	48	133,344	(2,778)
1990	大英博物館秘蔵 江戸美術展	41	145,592	(3,551)
(平成2)	現代の土*	50	8,840	(177)
平成3	構造と記憶*	50	9,969	(199)
平成4	サンフランシスコ美術館名品展	57	139,287	(2,444)
	北京・故宫博物院展	41	182,256	(4,445)
	語り出す鉄たち*	49	10,792	(220)
平成5	トレチャコフ美術館展	50	122,633	(2,453)
	現代絵画の一断面 -「日本画」を越えて*	50	13,150	(263)
平成6	ニューヨークを生きたアーティストたち	51	83,605	(1,639)
1995	法隆寺金堂壁画展	57	151,633	(2,660)
(平成7)	モデルニテ=パリ・近代の誕生	64	640,537	(10,008)
平成8	オルセー美術館展			
	シルクロード大美術展	68	282,346	(4,152)
	大英博物館 アッシリア大文明展-芸術と帝国-	61	167,249	(2,742)
	砂漠の美術館-永遠なる敦煌-	49	167,522	(3,419)
	毛利元就展-その時代と至宝-	44	144,300	(3,280)
平成9	18世紀フランス絵画のきらめき	75	528,620	(7,048)
	ルーヴル美術館展			
	エイブル・アート'97・東京展 魂の対話	12	8,801	(733)
	京の雅・和歌のころろ 冷泉家の至宝展	38	278,486	(7,329)

年度	展覧会名	開催 日数	入場者数	
			()は1日あたりの人数	
	アンコールワットとクメール美術の1000年展	44	250,334	(5,689)
平成10	英国絵画の殿堂 テート・ギャラリー展	57	410,616	(7,204)
	古代ヨーロッパの至宝-ケルト美術展	74	183,211	(2,476)
	カルメン・コレクション展	50	117,689	(2,354)
	唐の女帝・則天武后とその時代展	50	156,418	(3,128)
	このアートで元気になる-エイブル・アート'99	31	17,762	(573)
平成11	ワシントン・ナショナル・ギャラリー展	74	412,794	(5,578)
	大英博物館 古代エジプト展	50	443,474	(8,869)
	西遊記のシルクロード 三蔵法師の道	50	139,563	(2,791)
	モナ・リザ100の微笑 模写から創造へ	50	109,241	(2,185)
2000	ウィーン美術大学絵画館所蔵	68	166,231	(2,445)
(平成12)	ルーベンスとその時代展			
	世界四大文明 インダス文明展	104	428,263	(4,118)
	唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展	50	413,491	(8,270)
平成13	アール・ヌーヴォー展	69	317,730	(4,605)
	イームズ・デザイン展	45	86,355	(1,919)
	聖徳太子展	50	196,939	(3,938)
	版画家 池田満寿夫の世界展	50	57,032	(1,140)
平成14	黒田コレクションから			
	マルク・シャガール展	69	355,219	(5,148)
	-ボンビドーセンター & シャガール家秘蔵作品			
	飛鳥・藤原京展-古代律令国家の創造-	44	99,200	(2,254)
	生誕400年記念 狩野探幽展	44	98,055	(2,228)
	華麗なる宮廷 ヴェルサイユ展	56	419,261	(7,486)
	-太陽王ルイ14世からマリー・アントワネットまで-			
	栄光の宮廷文化とロシア正教 ロマノフ王朝展	67	181,055	(2,702)
トルコ三大文明展	50	276,867	(5,537)	
	～ヒッタイト帝国・ビザンツ帝国・オスマン帝国～			
	創立250周年記念 大英博物館の至宝展	50	513,208	(10,264)
	パリ/マルモッタン美術館展	54	280,902	(5,202)
平成16	-モネとモリゾ 日本初公開ルアール・コレクション-			
	フェルメール「画家のアトリエ」	71	303,491	(4,275)
	栄光のオランダ・フランドル絵画展			
	よみがえる四川文明～三星堆と金沙遺跡の秘密～	42	43,132	(1,027)
	フィレンツェ-芸術都市の誕生展	50	176,176	(3,524)
	ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 ブラハからパリへ	52	239,401	(4,604)
	華麗なるアール・ヌーヴォーの誕生			
2005	アール・デコ展～きらめくモダンの夢～	63	120,056	(1,906)
(平成17)	～ルーヴル美術館所蔵～古代エジプト展	57	276,727	(4,855)
	プーシキン美術館展	50	378,013	(7,560)
	～シチューキン・モロゾフ・コレクション			
	～日本の美 三千年の輝き～	36	88,572	(2,461)
	ニューヨーク・パーク・コレクション展			
	ブラド美術館展	6	34,973	(5,828)
	～スペインの誇り、巨匠たちの殿堂～			
平成18	ブラド美術館展	81	466,959	(5,765)
	～スペインの誇り、巨匠たちの殿堂～			
	ベルシャ文明展～煌めく7000年の至宝～	54	126,071	(2,335)
	いま甦る巨匠たち400年の記憶	58	308,016	(5,311)
	大エルミタージュ美術館展			
	オルセー美術館展～19世紀 芸術家たちの楽園～	55	417,341	(7,588)
平成19	オルセー美術館展～19世紀 芸術家たちの楽園～	7	61,913	(8,845)
	サンクトペテルブルク 国立ロシア美術館展	63	99,034	(1,572)
	ロシア絵画の神髄			
	トプカプ宮殿の至宝展	48	197,874	(4,122)
	オスマン帝国と時代を彩った女性たち			
	フィラデルフィア美術館展	66	318,273	(4,822)
	印象派と20世紀の美術			
	ルーヴル美術館展 フランス宮廷の美	58	307,849	(5,308)
平成20	ルーヴル美術館展 フランス宮廷の美	6	41,675	(6,946)

年度	展覧会名	開催 日数	入場者数 ()は1日あたりの人数	
平成20	芸術都市パリの100年展 ルノワール、セザンヌ、 ユトリロの生きた街 1830-1930年	64	100,273 (1,567)	
	フェルメール展	118	934,222 (7,917)	
	光の天才画家とデルフトの巨匠たち			
	生活と芸術-アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで	57	122,582 (2,151)	
平成21	生活と芸術-アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで	5	18,113 (3,623)	
	美連協25周年記念 日本の美術館名品展	64	182,199 (2,847)	
	トリノ・エジプト展 イタリアが愛した美の遺産	57	355,176 (6,231)	
	冷泉家 王朝の和歌守展	50	110,068 (2,201)	
	ボルゲーゼ美術館展 ラファエロ《一角獣を抱く貴婦人》	64	165,469 (2,585)	
	2010 (平成22) ボルゲーゼ美術館展 ラファエロ《一角獣を抱く貴婦人》	4	15,890 (3,973)	
注) ・2011(平成23)年度は大規模改修工事のため全面休館				
年度	展覧会名	開催 日数	入場者数 ()は1日あたりの人数	
平成24 (平成24)	公募団体ベストセレクション 美術 2012 *	22	9,634 (438)	
	マウリッツハイス美術館展 オランダ・フランドル絵画の至宝	71	758,266 (10,679)	
	「Arts & Life：生きるための家」展*	68	30,461 (448)	
	東京都美術館ものがたり*	68	82,360 (1,211)	
	都美セレクション グループ展公募 第1回*	73	22,941 (314)	
	メトロポリタン美術館展 大地、海、空-4000年の美への旅	78	328,770 (4,215)	
	TOKYO 書 2013 公募団体の今*	12	8,330 (694)	
	現代の書のあゆみ*	12	6,227 (519)	
	エル・グレコ展	62	253,395 (4,087)	
	都美セレクション 新鋭美術家 2013 *	16	3,046 (190)	
	2013 (平成25)	エル・グレコ展	6	32,370 (5,395)
		ミラノ アンブロジーナー図書館・絵画館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ展—天才の肖像	61	261,819 (4,292)
		ベストセレクション 美術 2013 *	22	9,737 (443)
		ルーヴル美術館展—地中海 四千年のものがたり—	57	291,531 (5,115)
		福田美蘭展*	60	21,211 (354)
		ターナー展	63	290,780 (4,616)
		第2回 都美セレクション グループ展*	68	17,834 (262)
TOKYO 書 2014 公募団体の今*		12	7,057 (588)	
富士をみつめて*		12	4,219 (352)	
日本美術院再興100年 特別展「世紀の日本画」		55	163,615 (2,975)	
都美セレクション 新鋭美術家 2014 *		16	7,061 (441)	
2014 (平成26)		日本美術院再興100年 特別展「世紀の日本画」	1	4,340 (4,340)
		バルテュス展	57	204,014 (3,579)
		公募団体ベストセレクション 美術 2014 *	22	16,721 (760)
		メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神 「楽園としての芸術」展*	58	195,594 (3,372)
		58	24,837 (382)	
		ウフィッツ美術館展 黄金のルネサンス ボッティ チェリからブロンズイーノまで	58	210,671 (3,632)
	第3回 都美セレクション グループ展*	65	16,203 (249)	
	TOKYO 書 2015 公募団体の今*	12	8,522 (710)	
	彩られた紙と現代の書 —東京都美術館コレクションを中心に*	18	6,640 (369)	
	新印象派—光と色のドラマ	56	148,293 (2,648)	
	都美セレクション 新鋭美術家 2015 *	24	12,370 (515)	
	2015 (平成27)	大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史	62	300,436 (4,846)
		公募団体ベストセレクション 美術 2015 *	23	14,888 (647)
		伝説の洋画家たち 二科100年展	44	52,675 (1,197)

年度	展覧会名	開催 日数	入場者数 ()は1日あたりの人数		
	ノルウェーから東京・上野へ! キュッパのびじゅつ かん—みつめて、あつめて、しらべて、ならべて*	69	36,089 (523)		
	マルモクタン・モネ美術館所蔵 モネ展	76	763,512 (10,046)		
	第4回 都美セレクション グループ展 *	61	19,040 (312)		
	TOKYO 書 2016 公募団体の今 *	13	9,497 (731)		
	感じる漢字 —西川寧・青山杉雨・手島右卿を中心に*	19	11,923 (628)		
	ポッティチェリ展	66	283,649 (4,298)		
	都美セレクション 新鋭美術家 2016 *	25	9,810 (392)		
	2016 (平成28)	ポッティチェリ展	3	21,037 (7,012)	
		生誕300年記念 若冲展	31	446,242 (14,395)	
		公募団体ベストセレクション 美術 2016 *	23	21,661 (942)	
		ボンビドゥー・センター傑作展 —ピカソ、マティス、デュシャンからクリストまで—	90	206,462 (2,294)	
		開館90周年記念展 木々との対話—再生をめぐる5つの風景*	61	41,949 (688)	
		ゴッホとゴーギャン展	62	391,721 (6,318)	
		第5回 都美セレクション グループ展 *	53	28,417 (536)	
		TOKYO 書 2017 公募団体の今 *	12	9,832 (819)	
		東京都現代美術館所蔵 「新東京百景—90年前の東京」*	19	10,149 (534)	
		ティツィアーノとヴェネツィア派展	61	156,284 (2,562)	
都美セレクション 新鋭美術家 2017 *		23	10,129 (440)		
2017 (平成29)		ティツィアーノとヴェネツィア派展	2	8,048 (4,024)	
		ボイマンズ美術館所蔵 プリュエーゲル「バベルの塔」展	67	379,527 (5,665)	
		第6回 都美セレクション グループ展 *	63	25,976 (412)	
		ポストン美術館の至宝展	72	313,131 (4,349)	
		企画展「杉戸洋 とんぼ とのりしろ」	68	28,938 (426)	
		ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	66	370,031 (5,607)	
	上野アーティストプロジェクト「現代の写実」*	45	49,355 (1,097)		
	コレクション展「近代の写実」*	45	41,137 (914)		
	プリューゲル展 画家一族150年の系譜	59	168,656 (2,859)		
	2018 (平成30)	プリューゲル展 画家一族150年の系譜	1	4,279 (4,279)	
		ブーシキン美術館展—旅するフランス風景画	75	283,485 (3,778)	
		都美セレクション グループ展 2018 *	22	22,701 (1,032)	
		企画展「BENTO おべんとう展—食べる・集う・ つながるデザイン」*	71	66,146 (918)	
		没後50年 藤田嗣治展	63	301,638 (4,788)	
		ムンク展—共鳴する魂の叫び	75	669,846 (8,931)	
		上野アーティストプロジェクト2018 「見る、知る、感じる—現代の書」*	44	38,272 (870)	
		コレクション展「喜怒哀楽の書」*	32	25,162 (786)	
奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド		44	251,657 (5,719)		
2019 (平成31)		奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド	7	42,881 (6,126)	
		クリムト展 ウィーンと日本1900	73	577,828 (7,915)	
		都美セレクション グループ展 2019 *	21	37,323 (1,777)	
		企画展「伊庭靖子展 まなごしのあわい」*	71	33,038 (465)	
		コートールド美術館展 魅惑の印象派	82	345,940 (4,219)	
		上野アーティストプロジェクト2019 「子どもへのまなごし」*	39	18,768 (481)	
		松本力「記しを憶う」 —東京都写真美術館コレクションを中心に*	39	17,444 (447)	
		ハマスホイとデンマーク絵画	34	72,271 (2,126)	
	2020 (令和2)	The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション	58	68,068 (1,174)	
		都美セレクション グループ展 2020 *	20	11,258 (563)	
		上野アーティストプロジェクト2020 「読み、味わう現代の書」*	43	4,535 (105)	
		東京都美術館コレクション展「読み、味わう昭和の書」*	39	4,468 (115)	
		没後70年 吉田博展	54	68,845 (1,275)	
		2021 (令和3)	イサム・ノグチ 発見の道	82	113,312 (1,382)
			都美セレクション グループ展 2021 *	20	24,035 (1,202)

年度	展覧会名	開催 日数	入場者数 ()は1日あたりの人数		
	企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」*	73	20,904 (286)		
	ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント	78	307,750 (3,946)		
	上野アーティストプロジェクト2021 「Everyday Life：わたしは生まれなおしている」*	35	13,382 (382)		
	東京都美術館コレクション展 「東京都コレクションでたどる(上野)の記録と記憶」*	35	17,417 (498)		
	ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展	44	152,669 (3,470)		
	2022 (令和4)	ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展	3	12,501 (4,167)	
		スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち	65	124,712 (1,919)	
		都美セレクション グループ展 2022 *	20	20,869 (1,043)	
		ポストン美術館展 芸術×力	66	120,095 (1,820)	
		企画展「フィン・ユールとデンマークの椅子」*	72	65,425 (909)	
		展覧会 岡本太郎 上野アーティストプロジェクト2022	62	183,143 (2,954)	
		「美をつむぐ源氏物語—めぐり逢ひける えには深しな—」*	40	23,336 (583)	
		コレクション展「源氏物語と江戸文化」*	40	25,371 (634)	
		レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才	56	203,232 (3,629)	
		2023 (令和5)	レオポルド美術館 エゴン・シーレ展	8	39,061 (4,883)
			マティス展	102	447,900 (4,391)
			都美セレクション グループ展 2023 *	22	37,709 (1,714)
企画展「うえのそこから」ははじまり、ははじまり」 荒木珠奈展」*			70	38,562 (551)	
永遠の都ローマ展 コレクション展			74	153,554 (2,075)	
「動物園にて—東京都コレクションを中心に」*			37	24,488 (662)	
上野アーティストプロジェクト2023 いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間*			37	21,816 (590)	
印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵			58	280,864 (4,842)	

注)
・2019(平成31)年度の「ハマスホイとデンマーク絵画」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会期中途中で閉幕。2月29日から会期最終日(3月26日)まで臨時休室

公募団体等の使用団体数の推移

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

1926(大正15)年度～2010(平成22)年度				
年度	団体数	団体数の内訳		
		継続使用団体	抽選使用団体	
大正15(1926)	10	10	-	-
昭和10(1935)	56	56	-	-
昭和20(1945)	2	2	-	-
昭和25(1950)	60	60	-	-
昭和30(1955)	80	80	-	-
昭和35(1960)	93	93	-	-
昭和40(1965)	108	108	-	-
昭和45(1970)	109	109	-	-
昭和50(1975)	165	165	-	-
昭和51	174	174	-	-
昭和52	174	174	-	-
昭和53	188	188	-	-
昭和54	194	194	-	-
昭和55(1980)	194	194	-	-
昭和56	201	201	-	-
昭和57	203	203	-	-
昭和58	206	206	-	-
昭和59	215	215	-	-
昭和60(1985)	217	217	-	-
昭和61	229	224	5	5
昭和62	229	223	6	6
昭和63	230	223(1)	7	7
平成元	231	222	9	9
平成2(1990)	231	223(1)	8	8
平成3	232	222	10	10
平成4	232	223(1)	9	9
平成5	233	221	12	12
平成6	235	222(1)	13	13
平成7(1995)	238	220	18	18
平成8	236	220(1)	16	16
平成9	237	218	19	19
平成10	238	220(1)	18	18
平成11	236	218	18	18
平成12(2000)	236	216(1)	20	20
平成13	235	214	21	21
平成14	237	215(1)	22	22
平成15	237	214	23	23
平成16	243	215(1)	28	28
平成17(2005)	244	214	30	30
平成18	241	210(1)	31	31
平成19	254	219(1)	35	35
平成20	258	217(1)	41	41
平成21	262	217(1)	45	45
平成22(2010)	9	7	2	2

注)

・継続使用団体の()は、隔年度使用団体で内数

・2011(平成23)年度は大規模改修工事のため全面休館

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

2012(平成24)年度～									
年度	団体数	団体数の内訳							
		学校教育	公募団体	I	II	III	IV		
2012(平成24)	273	14	259	20	85	98	56	56	
2013(平成25)	269	14	255	20	94	114	27	27	
2014(平成26)	270	15	255	21	97	114	23	23	
2015(平成27)	267	14	253	22	97	115	19	19	
2016(平成28)	269	15	254	22	100	114	18	18	
2017(平成29)	264	17	247	26	72	111	38	38	
2018(平成30)	265	17	248	26	72	121	29	29	
2019(平成31)	267	17	250	26	71	125	28	28	
2020(令和2)	265	19	246	27	71	131	17	17	
2021(令和3)	270	19	251	27	70	131	23	23	
2022(令和4)	259	17	242	29	72	108	33	33	
2023(令和5)	257	18	239	30	71	115	23	23	

年間観覧者数の推移

*昭和49年度までは公募展のみ開催。昭和50年からは企画展も開催されている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

1926(大正15)年度～1974(昭和49)年度			
年度	公募展		年間観覧者数(人)
	展覧会数	開館日数	
1926(大正15)	10	-	473,434
昭和2	30	-	702,174
昭和3	29	-	535,333
昭和4	45	-	729,301
1930(昭和5)	35	-	733,154
昭和6	35	-	571,497
昭和7	35	-	573,427
昭和8	36	-	470,918
昭和9	49	-	414,535
1935(昭和10)	56	-	572,362
昭和11	60	-	389,556
昭和12	58	-	461,767
昭和13	59	-	1,252,187
昭和14	73	-	769,456
1940(昭和15)	78	-	735,586
昭和16	81	-	702,408
昭和17	82	-	975,938
昭和18	78	-	898,774
昭和19	40	-	118,905
1945(昭和20)	2	-	79,052
昭和21	33	-	582,210
昭和22	66	-	791,417
昭和23	63	-	492,609
昭和24	60	-	343,719
1950(昭和25)	60	-	403,875
昭和26	71	-	462,808
昭和27	70	-	483,825
昭和28	75	-	543,409
昭和29	75	-	538,358
1955(昭和30)	80	-	572,672
昭和31	80	-	585,557
昭和32	80	-	522,265
昭和33	92	-	594,739
昭和34	92	-	635,296
1960(昭和35)	93	-	585,047
昭和36	102	-	598,165
昭和37	107	-	727,627
昭和38	108	-	675,370
昭和39	108	-	742,432
1965(昭和40)	108	-	916,069
昭和41	108	-	919,772
昭和42	107	-	982,515
昭和43	107	-	1,035,920
昭和44	107	-	1,089,709
1970(昭和45)	109	-	1,169,186
昭和46	109	-	1,281,860
昭和47	108	-	1,239,672
昭和48	109	-	1,320,545
昭和49	107	-	1,419,540

注)

・1938(昭和13)年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に

768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

（注）・1975（昭和50）年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に768,000人余りの観覧者があったため多くなっている

1975(昭和50)年度～2010(平成22)年度							
年度	公募展		企画展等			観覧者数(人)	年間観覧者数合計(人)
	展覧会数	開館日数	展覧会数	開館日数	観覧者数(人)		
1975(昭和50)	164	293	1,799,346	3	115	59,673	1,859,019
昭和51	187	295	1,714,723	7	204	115,227	1,829,950
昭和52	185	293	1,919,216	6	236	506,176	2,425,392
昭和53	203	286	1,929,474	5	185	165,405	2,094,879
昭和54	205	289	2,062,725	4	204	207,389	2,270,114
1980(昭和55)	205	284	2,025,237	4	188	59,443	2,084,680
昭和56	201	289	1,870,176	5	234	148,874	2,019,050
昭和57	203	290	1,986,760	5	203	190,246	2,177,006
昭和58	206	288	2,081,905	5	216	69,129	2,151,034
昭和59	215	291	2,111,644	5	250	213,162	2,324,806
1985(昭和60)	217	319	2,065,752	5	240	103,775	2,169,527
昭和61	229	330	2,059,822	5	253	181,066	2,240,888
昭和62	229	331	2,104,942	5	250	170,050	2,274,992
昭和63	230	330	2,108,587	5	250	153,041	2,261,628
平成元	233	329	2,125,668	5	248	233,492	2,359,160
1990(平成2)	231	329	2,208,726	5	241	247,743	2,456,469
平成3	232	330	2,251,755	4	200	92,376	2,344,131
平成4	232	330	2,181,647	5	245	369,765	2,551,412
平成5	233	330	2,141,031	5	242	234,246	2,375,277
平成6	235	330	2,067,026	2	96	111,102	2,178,128
1995(平成7)	238	330	2,077,541	2	121	792,170	2,869,711
平成8	236	329	2,013,048	4	222	761,417	2,774,465
平成9	237	331	1,978,690	5	226	1,476,857	3,455,547
平成10	238	330	1,913,340	4	205	475,080	2,388,420
平成11	236	331	1,867,686	4	224	1,105,072	2,972,758
2000(平成12)	236	329	1,856,995	3	222	1,007,985	2,864,980
平成13	235	330	1,842,067	4	214	658,056	2,500,123
平成14	237	330	1,868,516	4	213	971,735	2,840,251
平成15	237	332	1,859,252	4	221	1,252,032	3,111,284
平成16	243	330	1,764,786	4	215	762,200	2,526,986
2005(平成17)	244	330	1,793,242	4(5)	212	898,341	2,691,583
平成18	241	330	1,813,631	4	248	1,318,387	3,132,018
平成19	255	334	1,384,833	4(5)	242	984,943	2,369,776
平成20	258	334	1,433,817	3(4)	245	1,198,752	2,632,569
平成21	261	334	1,410,013	4(5)	240	831,025	2,241,038
2010(平成22)	9	4	26,083	1	4	15,890	42,036

注)

・1975年9月に新館が開館。1975(昭和50)年度の数字には、4～8月の旧館での観覧者数も含まれている

・1975(昭和50)年度から1994(平成6)年度の企画展等の数には、共催展・特別展のほか、1994(平成6)年度まで実施されていた取蔵作品展の観覧者数も含まれる

・2010(平成22)年度は大規模工事のため、4日間のみ開館。2011(平成23)年度は全面休館した

2012(平成24)年度～

年度	特別展			企画展等			公募団体展・学校教育展			年間観覧者数 合計(人)	アート・コミュニ ケーション 事業
	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)		
2012(平成24)	3	211	1,340,431	17	271	162,999	273	318	1,329,208	2,832,638	15,320
2013(平成25)	5	242	1,040,115	15	190	86,163	269	316	1,274,161	2,400,439	20,790
2014(平成26)	5	230	762,912	16	249	103,809	270	317	1,283,318	2,150,039	32,011
2015(平成27)	4	248	1,400,272	15	255	123,108	267	320	1,371,143	2,894,523	39,042
2016(平成28)	5	249	1,221,746	15	237	138,467	269	318	1,333,136	2,693,349	40,685
2017(平成29)	5	266	1,239,393	9	221	145,406	247	314	1,263,756	2,648,555	36,097
2018(平成30)	5	258	1,510,905	6	169	152,281	265	311	1,295,016	2,958,202	38,749
2019(平成31)	4	196	1,038,920	6	170	106,573	267	295	1,101,318	2,246,811	27,889
2020(令和2)	2	112	136,913	5	102	20,261	87	231	193,817	350,991	15,365
2021(令和3)	3	204	573,731	6	163	75,738	206	279	497,346	1,146,815	21,300
2022(令和4)	5	252	643,683	6	172	135,001	259	314	861,889	1,640,573	21,000
2023(令和5)	4	242	921,379	6	166	122,575	257	315	960,821	2,004,772	28,703

注)

- ・企画展等は、企画展、コレクション展、上野アーティストプロジェクト、グループ展を含む
(2012(平成24)年度～2016(平成28)年度の企画展等は、企画展、コレクション展、連携展、同人展を含む)
- ・企画展等の開催日数は、展覧会ごとの開催日数を計上したのべ日数
- ・公募団体展、学校教育展の開催日数は、工事整備休室などを除いた会期日数
- ・2022(令和4)年度の公募団体展・学校教育展の観覧者数は、東京都歴史文化財団連携事業797人を含む
- ・2023(令和5)年度の公募団体展・学校教育展の観覧者数は、東京都歴史文化財団連携事業2,491人、江戸東京博物館20,374人、アート・コミュニケーション事業6,773人を含む

資料 1

出品リスト

*特別展、コレクション展、公募展活性化事業(グループ展除く)の開催順に記載

145 <p>ヴァンス礼拝堂内観、双子窓《生命の樹》1951年　ポストカード、撮影：エレース・アダン</p>	148 <p>ヴァンスを背景として北側から見たヴァンス礼拝堂 1951年　写真、撮影：エレース・アダン</p>	152 <p>ヴァンス礼拝堂内観、白の上祭服を着た司祭 1951年ごろ　写真、撮影：エレース・アダン</p>
146 <p>アンリ・マティス、《紫の上祭服》（正面）、切り紙絵 1950-52年　写真、撮影：エレース・アダン</p>	149 <p>窓がある壁の側から見たヴァンス礼拝堂 1951年　写真、撮影：エレース・アダン</p>	153 <p>ヴァンス礼拝堂内のアンリ・マティスとレシギエ修道士 1951年　写真、撮影：エレース・アダン</p>
147 <p>「レジナ」館、アンリ・マティスの切り紙絵による上祭服の試作(1950-52年)マントルピースの上に置かれているのはピカソ作(ヴァロリス風景) (1951年) 1951-52年　写真、撮影：エレース・アダン</p>	150 <p>主祭壇用の磔刑像を制作するアンリ・マティス 1950年　写真、撮影：エレース・アダン</p>	154 <p>上祭服[正面のマケット、実現せず] 1950-52年　切り紙絵(グアッシュで彩色し切り抜いた紙／カンヴァスで裏打ちした紙に糊付け) カトー=カンプレジ・マティス美術館 寄託</p>

アンリ・マティス

アンリ・マティス

アンリ・マティス「レジナ」館、切り紙絵による上祭服の試作(1950-52年)

特別展

永遠の都ローマ展

* 作品番号、作家名、作品名、制作年、素材技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

* 作品番号33、42-45、47、49、50、52-56、63、68-70は、カピトリノー美術館 絵画館蔵。それ以外の所蔵先の記載がない作品は、カピトリノー美術館

I	ローマ建国神話の創造		
1	カピトリノーの牝狼（複製） <p>20世紀(原作は前5世紀)　ブロンズ ローマ市庁舎蔵</p>		
2	ソパトロス <p>負傷した牝犬 前100年頃(原作は前4世紀)　ベンテリカス産大理石 ジョヴァンニ・バッラッコ古代彫刻美術館蔵</p>		
3	『イリアス』の石板(タブラ・イリアカ) <p>前1世紀末　パロンビーノ大理石</p>		
4	L・ユリウス・エウヘメロスの納骨碑 <p>1世紀後半　カッラーラ産ルナ大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
5	豹と猪の群像 <p>1世紀　ベンテリカス産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
6	ティベリウス・クラウディウス・ファウエンティヌスの祭壇、通称カザーリ家の祭壇（複製） <p>1933-37年(原作は祭壇：2世紀後半、銘文：3世紀以後)　雪花石膏 ローマ文明博物館蔵</p>		
7	ヘラクレスと息子テレポス(ラストラ・カンバーナ) <p>2世紀　テラコッタ ローマ文明博物館蔵</p>		
8	ボルセナの鏡 <p>前4世紀　ブロンズ</p>		
9	ドラクマ銀貨：ヘラクレス(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>前265年または以後(共和政期)　銀</p>		
10	デナリウス銀貨：ローマ(表)、牝狼(裏) <p>前77年(共和政期)　銀</p>		
11	アウレウス金貨：ハドリアヌス帝(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>124-25年(ハドリアヌス帝時代)　金</p>		
12	ヌムムス銅貨：ローマ(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>336-37年(コンスタンティヌス1世時代)　ブロンズ</p>		
13	カピトリノーの牝狼 <p>1594-1602年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
II	古代ローマ帝国の栄光		
14	ガイウス・ユリウス・カエサルの肖像 <p>前1世紀　ギリシア島嶼産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
15	イシスとして表わされたプトレマイオス朝皇紀の頭部 <p>前1世紀-後1世紀　パロス島産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
16	アウグストゥスの肖像 <p>1世紀初頭　ギリシア産大理石</p>		
17	リウィアの肖像（複製） <p>制作年不詳(原作は1世紀初頭?)　石膏 アラ・バキス美術館蔵</p>		
III	美術館の誕生からミケランジェロによる広場構想		
30	カミッルス（複製） <p>1930年代(原作は1世紀)　雪花石膏にブロンズ着色(原作はブロンズ) ローマ文明博物館蔵</p>		
31	ローマ派工房 <p>ローマ教会の擬人像　13世紀初頭 モザイク、石とガラスのテッセラ ジョヴァンニ・バッラッコ古代彫刻美術館蔵</p>		
32	教皇グレゴリウス9世の肖像モザイク <p>1227-41年　モザイク、石とガラスのテッセラ ローマ美術館蔵</p>		
33	トスカーナの画家(16世紀) <p>ミケランジェロ・ブオナローティの肖像画 1535年以降　油彩、板</p>		
34	エティエンヌ・デユベラック(パリ)？ <p>1535頃-パリ1604) カンピドリオ広場の眺め 1569年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
35	アゴスティーノ・タッシ(ボンツァーノ・ロマーノ1578-ローマ1644) <p>カンピドリオ広場に立つ五月祭のための宝の木 1631-32年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>		
36	ヨハネス・リングエルバッハ(フランクフルト・アム・マイン1622-アムステルダム1674) <p>カンピドリオの石段(コルドナータ)の情景 1667年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>		
37	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ(ヴェネツィア1720-ローマ1778) <p>カンピドリオとサンタ・マリア・イン・アラチェリ聖堂の眺め(「ローマの景観」より) 1745-78年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
38	「カピトリノー美術館」(第1巻) <p>1750年　書籍</p>		
39	下絵素描：ステファノ・ボッツィ(ローマ1699-1768) <p>版画：ロッコ・ボッツィ(1712-48)に活動) 教皇クレメンス12世の彫像 1740年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
40	フィリッポ・デッラ・ヴァッレ(フィレンツェ1698-ローマ1768) <p>教皇クレメンス12世 1735-40年　テラコッタ ローマ美術館蔵</p>		

41 <p>河神 3世紀半ば　大理石</p>	44 <p>ドメニコ・ティントレット(本名ドメニコ・ロブスティノヴェネツィア1560-1635) キリストの鞭打ち 1590年代　油彩、カンヴァス</p>	45 <p>カヴァリエル・ダルビーノ(本名ジュゼッペ・チェーザリノアルビーノ1568-ローマ1640) 狩人としての女神ディアナ 1600-10年頃　油彩、板</p>
42 <p>ベルナルディーノ・ラニーノ(ヴェルチエリ1512頃-1583) 大カッシアーノ・ダル・ボツォの肖像画 1558年　油彩、板</p>	43 <p>アンニバレ・カラッチ(ポローニャ1560-ローマ1609)の工房 悔悛の聖フランチェスコ 1583年頃　油彩、カンヴァス</p>	44 <p>ドメニコ・ティントレット(本名ドメニコ・ロブスティノヴェネツィア1560-1635) キリストの鞭打ち 1590年代　油彩、カンヴァス</p>
43 <p>カヴァリエル・ダルビーノ(本名ジュゼッペ・チェーザリノアルビーノ1568-ローマ1640) 狩人としての女神ディアナ 1600-10年頃　油彩、板</p>	47 <p>カラヴァッジョ派の画家(17世紀前半) メロンをもつ若者(嗅覚の寓意) 1626-29年　油彩、カンヴァス</p>	49 <p>ガイド・レーニ(ポローニャ1575-ローマ1642) ルクレツィア 1640-42年　油彩、カンヴァス</p>
50 <p>ジョヴァンニ・ランフランコ(バルマ1582-ローマ1647) エルミニアと牧人たち 1633-37年　油彩、カンヴァス</p>	52 <p>ビエトロ・ダ・コルトーナ(本名ピエトロ・ベッレッティーニノコルトーナ1597-ローマ1669) 教皇ウルバヌス8世の肖像 1624-27年頃　油彩、カンヴァス</p>	53 <p>ビエトロ・ダ・コルトーナ(本名ピエト</p>

54 <p>ジョヴァンニ・フランチェスコ・ロマネッリ(ヴィテルボ1608/13頃-ローマ1662) 聖女カエキリア 1640-47年頃　油彩、カンヴァス</p>	55 <p>マッティア・プレーティ(タヴェルナ1613-ヴァレッタ1669) ディオゲネスとプラトン 1649-50年　油彩、カンヴァス</p>	56 <p>カルロ・マラッティ(カメラーノ1625-ローマ1713) 聖家族 1712年　油彩、カンヴァス</p>
57 <p>ダヴィデ・ロレーティ(ファブリアーノ1708-ローマ1768) 教皇ベネダイクトゥス14世の肖像 1740-58年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>	59 <p>トラヤヌス帝記念柱、1/30縮尺模型 1960年代(原作は113年)　雪花石膏 ローマ文明博物館蔵</p>	60 <p>モエシアの艦隊(トラヤヌス帝記念柱からの石膏複製) 1861-62年(原作は113年)　古色加工を施した石膏 ローマ文明博物館蔵</p>
61 <p>デケバルスの自殺(トラヤヌス帝記念柱からの石膏複製) 1861-62年(原作は113年)　古色加工を施した石膏 ローマ文明博物館蔵</p>	65 <p>アモルトプシュケ 18世紀　マイセン製素焼き陶器 カピトリノー美術館 絵画館蔵</p>	66 <p>アントニオ・カノーヴァ(ボッサーニョ1757-ヴェネツィア1822) パイエーケス人の踊り 1806年　石膏による薄肉彫 ヴィラ・トルロニア美術館蔵</p>

62 <p>ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ(ヴェネツィア1720-ローマ1778) 古代アッピア街道とアルデアティーナ街道の交差点(「ローマの古代遺跡」第2巻より) 1756年頃　エッチング、エングレーヴィング ローマ美術館蔵</p>	63 <p>カスパール・ファン・ヴィッテル(アムスフォールト1653-ローマ1736) トル・ディ・ノーナの眺望 1682-88年　水彩、羊皮紙</p>	64 <p>イッポリート・カッフィ(ベッルーノ1809-ヴィス島1866) フォロ・ロマーノ 1841年　油彩、カンヴァスに貼付された紙 ローマ美術館蔵</p>
65 <p>アモルトプシュケ 18世紀　マイセン製素焼き陶器 カピトリノー美術館 絵画館蔵</p>	66 <p>アントニオ・カノーヴァ(ボッサーニョ1757-ヴェネツィア1822) パイエーケス人の踊り 1806年　石膏による薄肉彫 ヴィラ・トルロニア美術館蔵</p>	67 <p>マイナスを表わす浮彫の断片 前1世紀末-後1世紀　ベンテリカス産大理石</p>
68 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803) ロムルスとレムスの発見(ピーテル・パウル・ルーベンスに基づく) 1764-66年　油彩、カンヴァス</p>	69 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803) カミッルスとファレリイの教師(ニコラ・プッサンに基づく) 1764-66年　油彩、カンヴァス</p>	70 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803)</p>

71-1 <p>作者不詳 《羅馬古時集議院ノ残柱》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	71-2 <p>作者不詳 《羅馬古「ボークス」穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	72-1 <p>作者不詳 《羅馬ノ古コロシエム觀場》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
72-2 <p>作者不詳 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	73 <p>伝歌川豊春(版元西村屋与八) 阿蘭陀フランスカノ伽藍之図 1804-18(文化1-15)年頃　紙本色摺 中右コレクション蔵</p>	74 <p>ディオニュソスの頭部 2世紀半ば　大理石</p>

特別展

アンリ・マティス

アンリ・マティス

アンリ・マティス「レジナ」館、切り紙絵による上祭服の試作(1950-52年)

* 作品番号、作家名、作品名、制作年、素材技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

* 作品番号33、42-45、47、49、50、52-56、63、68-70は、カピトリノー美術館 絵画館蔵。それ以外の所蔵先の記載がない作品は、カピトリノー美術館

I	ローマ建国神話の創造		
1	カピトリノーの牝狼（複製） <p>20世紀(原作は前5世紀)　ブロンズ ローマ市庁舎蔵</p>		
2	ソパトロス <p>負傷した牝犬 前100年頃(原作は前4世紀)　ベンテリカス産大理石 ジョヴァンニ・バッラッコ古代彫刻美術館蔵</p>		
3	『イリアス』の石板(タブラ・イリアカ) <p>前1世紀末　パロンビーノ大理石</p>		
4	L・ユリウス・エウヘメロスの納骨碑 <p>1世紀後半　カッラーラ産ルナ大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
5	豹と猪の群像 <p>1世紀　ベンテリカス産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
6	ティベリウス・クラウディウス・ファウエンティヌスの祭壇、通称カザーリ家の祭壇（複製） <p>1933-37年(原作は祭壇：2世紀後半、銘文：3世紀以後)　雪花石膏 ローマ文明博物館蔵</p>		
7	ヘラクレスと息子テレポス(ラストラ・カンバーナ) <p>2世紀　テラコッタ ローマ文明博物館蔵</p>		
8	ボルセナの鏡 <p>前4世紀　ブロンズ</p>		
9	ドラクマ銀貨：ヘラクレス(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>前265年または以後(共和政期)　銀</p>		
10	デナリウス銀貨：ローマ(表)、牝狼(裏) <p>前77年(共和政期)　銀</p>		
11	アウレウス金貨：ハドリアヌス帝(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>124-25年(ハドリアヌス帝時代)　金</p>		
12	ヌムムス銅貨：ローマ(表)、双子に乳を与える牝狼(裏) <p>336-37年(コンスタンティヌス1世時代)　ブロンズ</p>		
13	カピトリノーの牝狼 <p>1594-1602年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
II	古代ローマ帝国の栄光		
14	ガイウス・ユリウス・カエサルの肖像 <p>前1世紀　ギリシア島嶼産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
15	イシスとして表わされたプトレマイオス朝皇紀の頭部 <p>前1世紀-後1世紀　パロス島産大理石 カピトリノー美術館分館 モンテマルティーニ美術館蔵</p>		
16	アウグストゥスの肖像 <p>1世紀初頭　ギリシア産大理石</p>		
17	リウィアの肖像（複製） <p>制作年不詳(原作は1世紀初頭?)　石膏 アラ・バキス美術館蔵</p>		
III	美術館の誕生からミケランジェロによる広場構想		
30	カミッルス（複製） <p>1930年代(原作は1世紀)　雪花石膏にブロンズ着色(原作はブロンズ) ローマ文明博物館蔵</p>		
31	ローマ派工房 <p>ローマ教会の擬人像　13世紀初頭 モザイク、石とガラスのテッセラ ジョヴァンニ・バッラッコ古代彫刻美術館蔵</p>		
32	教皇グレゴリウス9世の肖像モザイク <p>1227-41年　モザイク、石とガラスのテッセラ ローマ美術館蔵</p>		
33	トスカーナの画家(16世紀) <p>ミケランジェロ・ブオナローティの肖像画 1535年以降　油彩、板</p>		
34	エティエンヌ・デユベラック(パリ)？ <p>1535頃-パリ1604) カンピドリオ広場の眺め 1569年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
35	アゴスティーノ・タッシ(ボンツァーノ・ロマーノ1578-ローマ1644) <p>カンピドリオ広場に立つ五月祭のための宝の木 1631-32年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>		
36	ヨハネス・リングエルバッハ(フランクフルト・アム・マイン1622-アムステルダム1674) <p>カンピドリオの石段(コルドナータ)の情景 1667年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>		
37	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ(ヴェネツィア1720-ローマ1778) <p>カンピドリオとサンタ・マリア・イン・アラチェリ聖堂の眺め(「ローマの景観」より) 1745-78年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
38	「カピトリノー美術館」(第1巻) <p>1750年　書籍</p>		
39	下絵素描：ステファノ・ボッツィ(ローマ1699-1768) <p>版画：ロッコ・ボッツィ(1712-48)に活動) 教皇クレメンス12世の彫像 1740年　エッチング ローマ美術館蔵</p>		
40	フィリッポ・デッラ・ヴァッレ(フィレンツェ1698-ローマ1768) <p>教皇クレメンス12世 1735-40年　テラコッタ ローマ美術館蔵</p>		

41 <p>河神 3世紀半ば　大理石</p>	44 <p>ドメニコ・ティントレット(本名ドメニコ・ロブスティノヴェネツィア1560-1635) キリストの鞭打ち 1590年代　油彩、カンヴァス</p>	45 <p>カヴァリエル・ダルビーノ(本名ジュゼッペ・チェーザリノアルビーノ1568-ローマ1640) 狩人としての女神ディアナ 1600-10年頃　油彩、板</p>
42 <p>ベルナルディーノ・ラニーノ(ヴェルチエリ1512頃-1583) 大カッシアーノ・ダル・ボツォの肖像画 1558年　油彩、板</p>	43 <p>アンニバレ・カラッチ(ポローニャ1560-ローマ1609)の工房 悔悛の聖フランチェスコ 1583年頃　油彩、カンヴァス</p>	44 <p>ドメニコ・ティントレット(本名ドメニコ・ロブスティノヴェネツィア1560-1635) キリストの鞭打ち 1590年代　油彩、カンヴァス</p>
43 <p>カヴァリエル・ダルビーノ(本名ジュゼッペ・チェーザリノアルビーノ1568-ローマ1640) 狩人としての女神ディアナ 1600-10年頃　油彩、板</p>	47 <p>カラヴァッジョ派の画家(17世紀前半) メロンをもつ若者(嗅覚の寓意) 1626-29年　油彩、カンヴァス</p>	49 <p>ガイド・レーニ(ポローニャ1575-ローマ1642) ルクレツィア 1640-42年　油彩、カンヴァス</p>
50 <p>ジョヴァンニ・ランフランコ(バルマ1582-ローマ1647) エルミニアと牧人たち 1633-37年　油彩、カンヴァス</p>	52 <p>ビエトロ・ダ・コルトーナ(本名ピエトロ・ベッレッティーニノコルトーナ1597-ローマ1669) 教皇ウルバヌス8世の肖像 1624-27年頃　油彩、カンヴァス</p>	53 <p>ビエトロ・ダ・コルトーナ(本名ピエト</p>

54 <p>ジョヴァンニ・フランチェスコ・ロマネッリ(ヴィテルボ1608/13頃-ローマ1662) 聖女カエキリア 1640-47年頃　油彩、カンヴァス</p>	55 <p>マッティア・プレーティ(タヴェルナ1613-ヴァレッタ1669) ディオゲネスとプラトン 1649-50年　油彩、カンヴァス</p>	56 <p>カルロ・マラッティ(カメラーノ1625-ローマ1713) 聖家族 1712年　油彩、カンヴァス</p>
57 <p>ダヴィデ・ロレーティ(ファブリアーノ1708-ローマ1768) 教皇ベネダイクトゥス14世の肖像 1740-58年　油彩、カンヴァス ローマ美術館蔵</p>	59 <p>トラヤヌス帝記念柱、1/30縮尺模型 1960年代(原作は113年)　雪花石膏 ローマ文明博物館蔵</p>	60 <p>モエシアの艦隊(トラヤヌス帝記念柱からの石膏複製) 1861-62年(原作は113年)　古色加工を施した石膏 ローマ文明博物館蔵</p>
61 <p>デケバルスの自殺(トラヤヌス帝記念柱からの石膏複製) 1861-62年(原作は113年)　古色加工を施した石膏 ローマ文明博物館蔵</p>	65 <p>アモルトプシュケ 18世紀　マイセン製素焼き陶器 カピトリノー美術館 絵画館蔵</p>	66 <p>アントニオ・カノーヴァ(ボッサーニョ1757-ヴェネツィア1822) パイエーケス人の踊り 1806年　石膏による薄肉彫 ヴィラ・トルロニア美術館蔵</p>

62 <p>ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ(ヴェネツィア1720-ローマ1778) 古代アッピア街道とアルデアティーナ街道の交差点(「ローマの古代遺跡」第2巻より) 1756年頃　エッチング、エングレーヴィング ローマ美術館蔵</p>	63 <p>カスパール・ファン・ヴィッテル(アムスフォールト1653-ローマ1736) トル・ディ・ノーナの眺望 1682-88年　水彩、羊皮紙</p>	64 <p>イッポリート・カッフィ(ベッルーノ1809-ヴィス島1866) フォロ・ロマーノ 1841年　油彩、カンヴァスに貼付された紙 ローマ美術館蔵</p>
65 <p>アモルトプシュケ 18世紀　マイセン製素焼き陶器 カピトリノー美術館 絵画館蔵</p>	66 <p>アントニオ・カノーヴァ(ボッサーニョ1757-ヴェネツィア1822) パイエーケス人の踊り 1806年　石膏による薄肉彫 ヴィラ・トルロニア美術館蔵</p>	67 <p>マイナスを表わす浮彫の断片 前1世紀末-後1世紀　ベンテリカス産大理石</p>
68 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803) ロムルスとレムスの発見(ピーテル・パウル・ルーベンスに基づく) 1764-66年　油彩、カンヴァス</p>	69 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803) カミッルスとファレリイの教師(ニコラ・プッサンに基づく) 1764-66年　油彩、カンヴァス</p>	70 <p>ドメニコ・コルヴィ(ヴィテルボ1721-ローマ1803)</p>

71-1 <p>作者不詳 《羅馬古時集議院ノ残柱》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	71-2 <p>作者不詳 《羅馬古「ボークス」穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	72-1 <p>作者不詳 《羅馬ノ古コロシエム觀場》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
72-2 <p>作者不詳 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	73 <p>伝歌川豊春(版元西村屋与八) 阿蘭陀フランスカノ伽藍之図 1804-18(文化1-15)年頃　紙本色摺 中右コレクション蔵</p>	74 <p>ディオニュソスの頭部 2世紀半ば　大理石</p>

75 <p>小栗令裕 欧州婦人アリアンス半身 1879(明治12)年　石膏 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻蔵</p>	76 <p>松岡壽 工部美術学校画学教場 1877-78(明治10-11)年頃　鉛筆、紙 個人蔵</p>	
---	--	--

75 <p>小栗令裕 欧州婦人アリアンス半身 1879(明治12)年　石膏 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻蔵</p>	76 <p>松岡壽 工部美術学校画学教場 1877-78(明治10-11)年頃　鉛筆、紙 個人蔵</p>	
---	--	--

77 <p>久米邦武 《羅馬古時集議院ノ残柱》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	78 <p>久米邦武 《羅馬古「ボークス」穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	79 <p>久米邦武 《羅馬ノ古コロシエム觀場》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
---	--	--

80 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	81 <p>久米邦武 《羅馬ノ古コロシエム觀場》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	82 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

83 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	84 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	85 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

86 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	87 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	88 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

89 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	90 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	91 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

92 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	93 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	94 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

95 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	96 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>	97 <p>久米邦武 《羅馬水道残礎ノ穹門》『米欧回覧実記』 1878(明治11)年頃　挿絵銅版画 久米美術館蔵</p>
--	--	--

13
クロード・モネ
税関吏の小屋・荒れた海
1882年　油彩、カンヴァス
日本テレビ放送網株式会社

14
ポール・セザンヌ
オーヴェールの曲がり道
1873年頃　油彩、カンヴァス
東京富士美術館

15
アルフレッド・シスレー
洗濯場
1876年　油彩、カンヴァス

16
カミーユ・ピサロ
ルーアンのラクロワ島
1883年　油彩、カンヴァス

17
カミーユ・ピサロ
ディエップの船渠デューケースとペリニエ、曇り
1902年　油彩、カンヴァス

18
ベルト・モリゾ
テラスにて
1874年　油彩、カンヴァス
東京富士美術館

19
ピエール=オーギュスト・ルノワール
アラブの女
1882年　油彩、カンヴァス

20
メアリー・カサット
裸の赤ん坊を抱くレース・ルフューヴル(母と子)
1902-03年　油彩、カンヴァス

21
チャイルド・ハッサム
花摘み、フランス式庭園にて
1888年　油彩、カンヴァス

22
ピエール=オーギュスト・ルノワール
闘牛士姿のアンプロワーズ・ヴォラール
1917年　油彩、カンヴァス
日本テレビ放送網株式会社

23
クロード・モネ
睡蓮
1908年　油彩、カンヴァス

3　国際的な広がり

24
ジェームズ・マクニール・ホイッスラー
「バラ色と銀：磁器の国の姫君」のための習作
1863-64年　油彩、ハードボード

25
アルフレッド・ステヴァンス
母
1870年頃　油彩、板

26
ヨゼフ・イスラエルス
砂丘にて
1890年以後　油彩、板

27
アンデシュ・レオナード・ソーン
オパール
1891年　油彩、カンヴァス

28
ジョン・シンガー・サージェント
水を選ぶヴェネツィアの人
1880-82年　油彩、カンヴァス

29
ジョン・シンガー・サージェント
キャサリン・チェイス・ブラット
1890年　油彩、カンヴァス

30
ジョン・シンガー・サージェント
コルフ島のオレンジの木々
1909年頃　油彩、カンヴァス

31
黒田清輝
落葉
1891年(明治24)　油彩、カンヴァス
東京国立近代美術館

32
黒田清輝
草つむ女
1892年(明治25)　油彩、カンヴァス
東京富士美術館

33
久米桂一郎
林檎拾い
1892年(明治25)　油彩、カンヴァス
久米美術館

34
久米桂一郎
秋景
1895年(明治28)　油彩、カンヴァス
久米美術館

35
藤島武二
ティヴォリ、ヴィラ・デステの池
1909年(明治42)　油彩、カンヴァス
東京藝術大学

36
斎藤豊作
風景
1912年(明治45/大正元)頃　油彩、カンヴァス
郡山市立美術館

37
太田喜二郎
風景
1908-13年(明治41-大正2)　油彩、カンヴァス
目黒区美術館

38
太田喜二郎
サン・ピエール寺院
1910-11年(明治43-44)　油彩、カンヴァス
郡山市立美術館

39
児島虎次郎
ルクサンプル公園の噴水
1919-23年頃(大正8-12)　油彩、カンヴァス
府中市美術館

40
中沢弘光
舞子
明治後期　油彩、カンヴァス
府中市美術館

41
山下新太郎
供物
1915年(大正4)　油彩、カンヴァス
石橋財団アーティゾン美術館

4　アメリカの印象派

42
ウィリアム・メリット・チェイス
ウィリアム・クラーク夫人
1915年頃　油彩、カンヴァス

43
フランク・ウェストン・ベンソン
ソリティアをする少女
1909年　油彩、カンヴァス

44
ジョセフ・H・グリーンウッド
リンゴ園
1903年　油彩、カンヴァス

45
ジョセフ・H・グリーンウッド
雪どけ
1918年　油彩、カンヴァス

46
ジョン・ヘンリー・トワックマン
滝
1890年頃　油彩、カンヴァス

47
ウィラード・リロイ・メトカーフ
プレリュード
1909年　油彩、カンヴァス

48
チャイルド・ハッサム
コロンバス大通り、雨の日
1885年　油彩、カンヴァス

49
チャイルド・ハッサム
シルフズ・ロック、アップルドア島
1907年　油彩、カンヴァス

50
チャイルド・ハッサム
朝食室、冬の朝、ニューヨーク
1911年　油彩、カンヴァス

51
ルーサー・エマーソン・ヴァン・ゴーター
公園にて
1894年以前　油彩、カンヴァス

52
エドモンド・チャールズ・ターベル
ヴェネツィアン・ブラインド
1898年　油彩、カンヴァス

53
エドモンド・チャールズ・ターベル
「ヴェネツィアン・ブラインド」のための習作
1898年　油彩、カンヴァス

54
セシリア・ポー
ヘレン・ビグロー・メリマン
1908年　油彩、カンヴァス

5　まだ見ぬ景色を求めて

55
ポール・セザンヌ
「カード遊びをする人々」のための習作
1890-92年　油彩、カンヴァス

56
ポール・シニャック
ゴルフ・ジュアン
1896年　油彩、カンヴァス

57
ジョルジュ・ブラック
オリーブの木々
1907年　油彩、カンヴァス

58
ロヴィイス・コリント
鏡の前
1912年　油彩、カンヴァス

59
マックス・スレーフォークト
自画像、ゴートラムシュタインの庭にて
1910年　油彩、カンヴァス

60
ブルース・クレイン
11月の風景
1895年頃　油彩、カンヴァス

61
ジョージ・イネス
森の池
1892年　油彩、カンヴァス

62
ドワイト・ウィリアム・トライオン
秋の入り日
1908-09年　油彩、板

63
ドワイト・ウィリアム・トライオン
川、日暮れ
1892年　油彩、板

64
アレクサンダー・ヘルウィグ・ワイアント
風景
1860-92年　油彩、カンヴァス

65
ウィラード・リロイ・メトカーフ
街の風景、チュニス
1887年　油彩、カンヴァス

66
フランク・ウェストン・ベンソン
ナタリー
1917年　油彩、カンヴァス

67
デウイット・パーシャル
ハーミット・クリーク・キャニオン
1910-16年　油彩、カンヴァス

68
ジョン・ヘンリー・トワックマン
急流、イエローストーン
1890-99年頃　油彩、カンヴァス

企画展

うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈 展

＊作品番号、タイトル、制作年、技法・材質、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊所蔵先の記載がない作品は、作家蔵

1
はじまり　はじまり
2003　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

2
El viaje(旅)
1996　写真製版、エッチング、雁皮刷り

3
家(赤)
1995　エッチング、アクアチント

4
家(青)
1995　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

5
家(ピンク)
1995　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

6
El sol en la cuidad(街の太陽)
1994　エッチング、アクアチント、リフトグランドエッチング

7
Los arboles en las lanchas(舟に樹々)
1994　エッチング、アクアチント

8
昼
1999　銅版画、銅、木

9
夜
1999　銅版画、銅、木

10
手紙の届く日・灰
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

11
手紙の届く日・青
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

12
手紙の届く日・緑
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

13
手紙の届く日・黄
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

14
浮き雲暮し
2000　エッチング、アクアチント、手彩色

15
La vida
1996　エッチング

16
夜中、知らない国で目が覚めたら月が黄色かった
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

17
夜中、知らない国で目が覚めたら月がピンクだった
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

18
夜中、知らない国で目が覚めたら月が青かった
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

19
El quiete(花芯)
2004　エッチング、アクアチント、リフトグランドエッチング

20
Su faralá(彼女のフリル)
2005　エッチング、アクアチント

21
Las estrellas en el desierto(砂漠の星)
2005　エッチング、アクアチント、スビットバイト

22
道
1995　銅、木、流木、電球、和紙

23
無題
1995　流木、額縁、オルゴール、ペンキ

24
Una marcha de las esqueletos(ガイコツの行進)
2004　エッチング、アクアチント、手彩色

25
La calavera amarilla(黄色いガイコツ)
2005　エッチング、アクアチント、手彩色

26
¿Bairamos?(踊りませんか?)
2005　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

27
¡Piñata!(ピニャータ!)
2005　エッチング、アクアチント

28
Bien venido a Chiapas magico(マジックチアパスへいらっしゃい)
2005　エッチング、アクアチント、手彩色

29
Carlos y Maria(加増呂須と麻梨亜)
2005　エッチング、アクアチント

30
La onda de Hokusaia la Mexicano(北斎の波墨国風)
2005　エッチング、アクアチント、スビットバイト

31
Un descanso(ひとやすみ)
2005　エッチング、アクアチント

32
Caos poetico(詩的な混沌)
2005　紙、セロファン、電球、電線
可変
東京都現代美術館

33
うち
1999　蜜蝋、電球、エッチング、木
可変

34
見えない
2011　竜舌蘭の繊維、染料、寒冷紗
可変

35
呼吸
2011　エッチング

36
地震の後
1995　エッチング、アクアチント

37
スキマ
2011　エッチング

38
降下
2011　ドライポイント

39
人形の劇場
2003　エッチング、アクアチント、スビットバイト、雁皮刷り

40
玉けり
2001　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

41
El circa mas pequena del munda(世界で一番小さいサーカス)
1994　メゾチント

42
曲馬
2001　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

43
玉乗りの娘
2001　エッチング、アクアチント

44
サーカス前夜
2001　エッチング、アクアチント

45
つなわたり
2001　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

46
終幕
2002　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

47
本の中劇場
2009　木、布、紙、針金、電球

48
スカートの底
2002　エッチング、アクアチント

49
Aurora theater
2000　木、鏡、ビーズ
アートプリントジャパン

50
明日咲く
2002　エッチング、アクアチント

51
花たち
2002　エッチング、アクアチント

52
牛レストラン
2001　木、ペンキ、ボルト

53
Lluvia del jaguar(ジャガーの雨)
2008　エッチング、アクチント、手彩色

54
うさぎの月夜
2008　木版

55
毛ものの山
2006　ドライポイント

56
愛づる
2002　リフトグランドエッチング、アクアチント、ドライポイント、雁皮刷り

57
満ちる
2007　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

58
豚の中身
1999　エッチング、アクアチント、ドライポイント

59
最後の一匹
2007　エッチング、アクアチント

60
旅人のみた虹
2007　エッチング、アクアチント

61
虹蛇(部分)
2005　アクアチント、手彩色

62
Sueña de malinalco(マリナルコの夢)
2005　エッチング

63
虹をのむ
2007　エッチング、アクアチント

64
虹に入る
2005　エッチング、アクアチント

65
思い出ボウル
1999　エッチング、アクアチント

66
Una nache del pueblo(村の夜)
1994　メゾチント

67
波間に眠る
2009　エッチング・アクアチント

68
Lluvia lejana(遠くの雨)
1994　エッチング、アクアチント

69
通り道
1999　エッチング、アクアチント、雁皮刷り

70
花散らしの雨
2000　エッチング、アクアチント、雁皮刷り、手彩色

71
Una lancha en el lago(湖に一そうの舟)
1994　エッチング、アクアチント

72 <div>La lluvia de aguamiel (アグアミエルの雨) 2005 エッチング、アクアチント、リフトグラウンドエッチング</div>	84 <div>100Wの光り 何故だか懐かしく心惹かれるのは 遠くで 揺れているのを 眺めているからだろうか 詩・小松未季 1998 ドライポイント</div>	93 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵4 2011 アクリル絵具、紙</div>	106 <div>《記憶のそこ》ドローイング2 2021 紙、アクリル絵具、マーカー、鏡</div>
73 <div>温い雨 1999 ドライポイント</div>	85 <div>ツルリとした菌触りで口を含むと冷んやりとした魂の叫び 詩・小松未季 1998 ドライポイント</div>	94 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵5 2011 アクリル絵具、紙</div>	107 <div>Days 2021 エッチング、アクアチント、スピットバイト</div>
74 <div>雨見 2000 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、手彩色</div>	86 <div>一番最初に道なき道を歩いて行った人の—どこへでも続く道があって— 詩・小松未季 1998 エッチング、アクアチント、雁皮刷り</div>	95 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵6 2011 アクリル絵具、紙</div>	108 <div>《記憶のそこ》のためのドローイング 2023 インクジェットプリント、ペン、コラージュ</div>
75 <div>湖のよる 2000 エッチング、アクアチント</div>	87 <div>私の目からこぼれ落ちる夕陽で涙の河を作った どこへ行くどこへ行く？ 光の跡をこえて 訳・小松未季 1998 エッチング、アクアチント</div>	96 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵7 2011 アクリル絵具、紙</div>	110 <div>むかし、むかし… 2022 パルプ、木、電球 可変</div>
76 <div>夜の芯 2006 エッチング、アクアチント</div>	88 <div>遠野物語 2007 和紙、木、絵の具、ニス、電球、文庫本</div>	97 <div>迷惑なココロテ 2007 ビデオ23分 ぬいぐるみ、木、布、電球、陶器 可変</div>	111 <div>そこで見上げる 2023 アクアチント、シルクスクリーン、鏡</div>
77 <div>La planeta(惑星) 1994 エッチング、アクアチント、ソフトグラウンドエッチング</div>	89 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–試作版 2011 再生紙、インクジェットプリント、布</div>	98 <div>cocoon・赤 2018 エッチング 町田市立国際版画美術館</div>	112 <div>《記憶のそこ》アイデアドローイング1 2022 紙、鉛筆</div>
78 <div>始まりの航海 2007 エッチング、アクアチント</div>	90 <div>NeNe So l– 末っ子の太陽–挿絵1 2011 アクリル絵具、紙</div>	99 <div>cocoon・白 2018 エッチング、雁皮刷り 町田市立国際版画美術館</div>	113 <div>《記憶のそこ》アイデアドローイング2 2022 紙、鉛筆マーカー</div>
79 <div>太隔 1999 ドライポイント、雁皮刷り</div>	91 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵2 2011 アクリル絵具、紙</div>	100 <div>蝶の道 2019 色鉛筆、水彩</div>	114 <div>《記憶のそこ》アイデアドローイング3 2022 紙、鉛筆</div>
80 <div>花 1999 ドライポイント、雁皮刷り</div>	92 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵3 2011 アクリル絵具、紙</div>	101 <div>Refuge 1 2021 粘土、紙、蜜蝋、木</div>	115 <div>ドローイング202305_1 2023 紙、アクリル絵具、マーカー、鏡</div>
81 <div>三つのみ 2007 エッチング、アクアチント、雁皮刷り</div>	93 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵1 2011 アクリル絵具、紙</div>	102 <div>Refuge 3 2021 粘土、紙、木、LED</div>	116 <div>ドローイング202305_2 2023 紙、アクリル絵具、マーカー</div>
82 <div>永久凍土が溶けぬように 2000 木、電球、フェイクファー、カラーコピー</div>	94 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵2 2011 アクリル絵具、紙</div>	103 <div>Refuge 2021 エッチング、アクチント</div>	117 <div>ドローイング202305_3 2023 紙、アクリル絵具、マーカー、鏡</div>
83 <div>背骨を見た 辣い油 テーブルの滲み外は雪 詩・小松未季 1998 エッチング、アクアチント</div>	95 <div>NeNe Sol – 末っ子の太陽–挿絵3 2011 アクリル絵具、紙</div>	104 <div>新作のためのドローイング 2022 色鉛筆、水彩、マーカー、白黒コピー</div>	118 <div>記憶のそこ 2023 木、FRP、塗料、ビデオ、樹脂ミラー、ワイヤー、カーボン、鉄、電球、金網、石膏ガーゼ 可変</div>
	96 <div>《記憶のそこ》ドローイング1 2022 紙、アクリル絵具、マーカー</div>		

コレクション展

動物園にて 東京都コレクションを中心に

* 出品番号、資料名、作者・出版者等、制作年、技法材料、所蔵、展示期間(展示替がある資料のみ、前期：11月16日～12月17日、後期：12月19日～1月8日)の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

プロローグ 「動物園」へ			
001 <div>上野動物園 昭和11年頃 8mmフィルム映像をデジタル化 14分18秒 生活工房蔵</div>	前期(後期は複製展示)	東京都江戸東京博物館蔵 前期(後期は複製展示)	田中芳男／選、最上幸吉／画 明治10年 紙、印刷 東京国立博物館蔵
002 <div>上野動物公園 昭和35年 8mmフィルム映像をデジタル化 4分26秒 生活工房蔵</div>	004 <div>浅草観音境内ニ於テ興行仕候 仏蘭西曲馬 歌川国輝(2代) 明治前期 紙、木版 東京都江戸東京博物館蔵 後期(前期は複製展示)</div>	007 <div>動物カルワザ双六 〔幼年男子の友〕7巻1号付録) 清水勘一 大正13年 紙、印刷 東京都江戸東京博物館蔵 後期(前期は複製展示)</div>	010 <div>「博物館写生図」タスキ 服部雪斎 明治14年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>
第1章 動物を集める・見る	005 <div>浅草公園花やしき大象 明治時代 紙、印刷 東京都江戸東京博物館蔵 後期(前期は複製展示)</div>	008 <div>博覧会諸人群集之図 元昌平坂ニ於テ 昇斎一景 明治5年 紙、木版3枚続 東京都江戸東京博物館蔵 前期(後期は複製展示)</div>	011 <div>「博物館写生図」カンガルー 中島仰山 明治15年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>
003 <div>虎の見世物 歌川広景 万延元年 紙、木版 東京都江戸東京博物館蔵</div>	006 <div>浅草公園花屋敷及十二階之真景 浦野銀次郎 大正13年 紙、石版</div>	009 <div>博物館列品図録 動物部 第一</div>	参考出品 「博物館獣譜」ラットセイ(複製) 服部雪斎 明治8年

東京国立博物館蔵	明治14年 国立公文書館蔵
参考出品 「博物館獣譜」水牛児(複製) 服部雪斎 明治7年 東京国立博物館蔵	014 <div>第二回内国勲業博覧会 歌川国利 明治14年 紙、木版 東京都江戸東京博物館蔵 後期</div>
参考出品 「博物館獣譜」スイギウ(複製) 中島仰山 明治11年 東京国立博物館蔵	015 <div>第2回内国勲業博覧会之図 橋本周延 明治14年 紙、木版3枚続 東京都江戸東京博物館蔵 前期(後期は複製展示)</div>

012 <div>「博物館禽譜」シロカラス (はしぶとがらす) 服部雪斎 明治5年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>	第2章 「動物園」を描く・写す 一明治期～昭和初期の写生・宣伝美術
013 <div>「博物館禽譜」カルカモ 中島仰山 明治9年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>	参考出品 〔上野動物園正門〕(複製) 明治中期 東京動物園協会蔵

参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」牛渡島国亀田群七重県試験場 青毛 牡 一歳五ヶ月(複製) 中島仰山 明治10年 東京国立博物館蔵	参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」牛陸奥国北郡百石村字谷地頭野 斑栗毛 牡 四歳(複製) 中島仰山 明治10年 東京国立博物館蔵
---	--

016 <div>「博物館写生図」シマフクロウ 中島仰山 明治18年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>	017 <div>「博物館写生図」ワシカモメ (おおみずなぎどり) 中島仰山 明治18年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>
--	--

018 <div>東京真画名所図解 上野動物園 井上安治 明治前期 紙、木版 東京都江戸東京博物館蔵 前期(後期は複製展示)</div>	019 <div>動物園入場券 明治時代 紙、印刷 4点2組 東京国立博物館蔵</div>
--	---

020 <div>動物園双六 明治前期 紙、印刷 東京都江戸東京博物館蔵 前期(後期は複製展示)</div>	021 <div>動物園入場券 明治時代 紙、印刷 4点2組 東京国立博物館蔵</div>
--	---

参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」ラバ 東京四ツ谷内藤勸農局試験場ニテ当十年三月二十九日出生 ミイル 鹿毛 牡(複製) 中島仰山 明治10年 東京国立博物館蔵	参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」島根県より出品せし良牛也(複製) 中島仰山 明治14年 東京国立博物館蔵
---	---

参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」馬 陸前国栗原郡鬼首村産 栗毛 牡五歳(複製) 中島仰山 明治10年 東京国立博物館蔵	参考出品 「内国勲業博覧会出品動物類写生」馬 陸前国栗原郡鬼首村産 栗毛 牡五歳(複製) 中島仰山 明治10年 東京国立博物館蔵
--	--

010 <div>「博物館写生図」タスキ 服部雪斎 明治14年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>	011 <div>「博物館写生図」カンガルー 中島仰山 明治15年 紙本着色 東京国立博物館蔵</div>
---	---

参考出品 「博物館獣譜」ラットセイ(複製) 服部雪斎 明治8年	参考出品 「博物館獣譜」ラットセイ(複製) 服部雪斎 明治8年
---------------------------------	---------------------------------

参考出品 第二回内国勲業博覧会場全図「第二回(明治十四年)内国勲業博覧会場案内」(複製) 内国勲業博覧会事務局	022 <div>明治二十八年六月予備課程学年試業写生成績 明治28年 紙本着色 東京藝術大学大学美術館蔵</div>
---	---

024 <div>課題画 猿写生 建部政治 明治29年頃 紙本着色 茨城県天心記念五浦美術館蔵</div>	東京動物園協会蔵
025 <div>課題画 猿写生 長愛之 明治29年頃 紙本着色 茨城県天心記念五浦美術館蔵</div>	参考出品 軍馬並軍用動物感謝のタポスター(複製) 昭和14年 東京動物園協会蔵
026 <div>課題画 猿写生 河野亨 明治29年頃 紙本着色 茨城県天心記念五浦美術館蔵</div>	037 <div>「動物園見物」 〔講談社の絵本〕第4巻第6号) 大日本雄弁会講談社／発行 昭和16年3月1日 漫画資料室MORI蔵</div>

027 <div>課題画 猿写生 移川三郎 明治29年 紙本着色 茨城県天心記念五浦美術館蔵</div>	038 <div>『家庭絵本 ハルガキタ』 博文館／発行 昭和16年5月30日 漫画資料室MORI蔵</div>
028 <div>『自明治四十四年一月至大正五年十二月 授業関係書類 教務掛』 明治44年 東京藝術大学近現代美術史・大学史研究センター蔵</div>	039 <div>『朝日新聞縮刷版 昭和十八年九月号』 朝日新聞社／発行 昭和18年10月1日 漫画資料室MORI蔵</div>

029 <div>博物館動物園観覧証、博物館動物園各種展覧会観覧心得 〔明治四十四年以降諸印刷物 教務掛〕 大正7年 東京藝術大学近現代美術史・大学史研究センター蔵</div>	参考出品 慰靈祭(複製) 昭和18年9月4日 東京動物園協会蔵
--	---------------------------------

030 <div>動物園観覧証交付者調 〔自大正九年一月至昭和五年十二月 教務雑書綴〕 大正14年 東京藝術大学近現代美術史・大学史研究センター蔵</div>	040 <div>飼料で支払う入場料 上野動物園 台東区小柳次一 昭和23年 セラチン・シルバー・プリント 日本カメラ博物館蔵</div>
---	---

031 <div>動物園行楽(卒業制作) 三浦文治 昭和6年 絹本着色 東京藝術大学大学美術館蔵</div>	041 <div>剥製になった猛獣 上野動物園 台東区小柳次一 昭和23年 セラチン・シルバー・プリント 日本カメラ博物館蔵</div>
--	--

032 <div>秋日(卒業制作) 田村基 昭和10年 紙本着色 四曲屏風 東京藝術大学大学美術館蔵</div>	042 <div>『花子よ永遠に―』(『りぼん』8月号〔第14巻第10号〕付録) さわかえ／作、吉森みきお／画、集英社／発行 昭和43年8月1日 漫画資料室MORI蔵</div>
--	---

033 <div>キリン 加山又造 昭和35年 紙本着色 東京都現代美術館蔵</div>	043 <div>「ドラえもん」第5巻 藤子・F・不二雄／作、小学館／発行 昭和49年12月1日初版第1刷 昭和55年2月10日第52刷 漫画資料室MORI蔵</div>
--	---

034 <div>田井正忠氏旧蔵東京市動物園関係資料一括 昭和初期 個人蔵</div>	044 <div>動物園 長谷川利行 制作年不詳 水彩、パステル、紙 東京都現代美術館蔵</div>
---	--

035 <div>上野動物園Ⅰ(宮城／ズタイン) 「バラレル・ライフゾルゲを中心とする国際課報団密会場所」より 米田知子 2008 セラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵</div>	045 <div>猿 大久保好六 昭和11年以前 プロムオイル印画 東京都写真美術館蔵</div>
--	---

036 <div>上野動物園Ⅱ(宮城／ズタイン) 「バラレル・ライフゾルゲを中心とする国際課報団密会場所」より 米田知子 2008 セラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵</div>	046 <div>動物園(1) マレーバク 東松照明 昭和31年 インクジェット・プリント 東京都写真美術館蔵</div>
--	---

037 <div>上野動物園Ⅲ(宮城／ズタイン) 「バラレル・ライフゾルゲを中心とする国際課報団密会場所」より 米田知子 2008 セラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵</div>	047 <div>動物園(2) オランウータン 東松照明</div>
--	------------------------------------

参考出品 軍馬並軍用動物感謝週間ポスター(複製) 昭和14年	
--------------------------------	--

122
いわしゃじん
万花譜 9-84
1945年8月20日
紙、墨、油彩

123
しばやなぎ
万花譜 2-111
1946年4月11日
紙、墨、油彩

124
かもがや
万花譜 6-29
1948年6月3日
紙、墨、油彩

125
いぬりんご
万花譜 3-113
1949年4月29日
紙、墨、油彩

126
みつがしわ
万花譜 3-114
1950年4月29日
紙、墨、油彩

127
はんかいそう
万花譜 6-10
1950年6月8日
紙、墨、油彩

128
うりくさ
万花譜 8-87
1950年7月30日
紙、墨、油彩

129
まゆみ
万花譜 11-112
1952年11月7日
紙、墨、油彩

130
未詳
1957年6月4日
紙、墨、油彩

131
未詳
1959年8月8日
紙、墨、油彩

132
つばめおもと
1960年6月5日
紙、墨、油彩

133
ささゆり
1962年6月19日
紙、墨、油彩

134
無花果畑
1912年
カンヴァス、油彩

135
牧場にて
1914年
カンヴァス、油彩

内山春雄

136
イワヒバリ
2021年
チュベロ材を彫りアクリル絵の具彩色

137
ホシガラス
2021年
チュベロ材を彫りアクリル絵の具彩色

138
ライチョウ(夏)
2022年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

139
ライチョウ(冬)
2022年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

140
ヤンバルクイナ
2020年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

141
ヤイロチョウ
2021年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

142
アホウドリ
2000年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

143
ナベツル
2001年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

144
クロツラヘラサギ
2003年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

145
トキ
2006年
FRPで型抜きアクリル絵の具彩色

146
タッチカービング
2023年
木型からシリコンゴムで型取りしジュエモナイトで型抜き

(1)
ウグイス
(2)
オオルリ
(3)
オオルリ飛翔
(4)
カッコウ
(5)
コマドリ
(6)
シジュウカラ
(7)
スズメ
(8)
キビタキ
(9)
コノハズク
(10)
ハシボソガラス
(11)
ハシブトガラス
(12)
モズ
(13)
ウソ
(14)
ノゴマ
(15)
ハクセキレイ
(16)
ツバメ
(17)
ルリビタキ
(18)
メジロ
(19)
ホトトギス
(20)
対称
ミンサザイ
(21)
ヤブサメ
(22)
カワセミ
(23)
カワセミ飛翔
(24)
カワガラス
(25)
バン
(26)
オオバン
(27)
カルガモ
(28)
カイツブリ
(29)
インホヨドリ

(30)
キアシシギ
(31)
チュウシャクシギ
(32)
シロチドリ
(33)
ヘラシギ
(34)
イワヒバリ
(35)
ホシガラス
(36)
ライチョウ
(37)
イワヒバリ
(38)
ヤンバルクイナ
(39)
ワンダーチキン

今井壽恵

147
仲間
ガラス絵の牧場
1972年
銀色素漂白方式印画

148
光る雪
ガラス絵の牧場
1973年
銀色素漂白方式印画

149
水しぶきをあげて
ガラス絵の牧場
1974年
銀色素漂白方式印画

150
晩秋
ガラス絵の牧場
1974年
銀色素漂白方式印画

151
柵を越えて
ガラス絵の牧場
1974年
銀色素漂白方式印画

152
沈黙を破って
ガラス絵の牧場
1980年
銀色素漂白方式印画

153
午後の或る日
ガラス絵の牧場
1982年
銀色素漂白方式印画

154
花と戯れて
ガラス絵の牧場
1985年頃
銀色素漂白方式印画

155
暮れがたの水辺
ガラス絵の牧場
1986年
銀色素漂白方式印画

156
対称
ガラス絵の牧場
1986年
銀色素漂白方式印画

157
雪しぶき
ガラス絵の牧場
1986年
銀色素漂白方式印画

158
たくみに駆ける
ガラス絵の牧場
1988年
銀色素漂白方式印画

159
独走
ガラス絵の牧場
1975年
銀色素漂白方式印画

160
熱い走り
ガラス絵の牧場
1986年
銀色素漂白方式印画

161
ニジンスキー 英ダービー優勝余韻
名馬の肖像
1970年
銀色素漂白方式印画

162
シンザン 谷川牧場にて
名馬の肖像
1973年
銀色素漂白方式印画

163
テンポイント 有馬記念
名馬の肖像
1977年
銀色素漂白方式印画

164
ノーザンダンサー 回想のウインドフィールズ・ファーム
名馬の肖像
1978年
銀色素漂白方式印画

165
アフファームド トリプルクラウン達成のあと
名馬の肖像
1978年
銀色素漂白方式印画

166
ミスターシービー 泥んこの勝利・皐月賞
名馬の肖像
1983年
銀色素漂白方式印画

167
シンボリルドルフ 天皇賞のあと
名馬の肖像
1985年
銀色素漂白方式印画

168
ミスターシービー&シンボリルドルフ 天皇賞(春)
名馬の肖像
1985年
銀色素漂白方式印画

169
シャンティの森
名馬の肖像
1986年
銀色素漂白方式印画

170
スレエフ 孤高 ウォルマック・インターナショナル
名馬の肖像
1988年
銀色素漂白方式印画

171
サドラーズウェルズ クールモア・スタッド放牧中
名馬の肖像
1989年
銀色素漂白方式印画

172
ロイヤルアスコットの女王陛下
名馬の肖像
1992年
銀色素漂白方式印画

173
オグリキャップ 黄色い光の中で
名馬の肖像
1991年
銀色素漂白方式印画

174
メジロマックイーン 優雅に立つ
名馬の肖像
1993年
銀色素漂白方式印画

175
トウカイテイオー 放牧中
名馬の肖像
1994年
銀色素漂白方式印画

176
トウカイテイオー 引退式
名馬の肖像
1994年
銀色素漂白方式印画

183
1177
2017年
板目木版画

184
1620
2022年
板目木版画

185
915 II
2022年
板目木版画

186
701 全身図
2018年
板目木版画

187
904 全身図
2020年
板目木版画

188
1554
2023年
板目木版画

189
891 全身図
2023年
板目木版画

阿部知暁

190
座るブルブル
1994年
カンヴァス、油彩

191
ブルブル
1999年
カンヴァス、油彩

192
スノーフレーク
2000年
カンヴァス、油彩

193
サルタン
2019年
カンヴァス、油彩

194
ジノ
2008年
カンヴァス、油彩

195
ムル
2013年
カンヴァス、油彩

196
ハオコ・コモモ・モモカ
2016年
カンヴァス、油彩

197
シャパーニ
2021年
カンヴァス、油彩

198
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画①
2011年
カンヴァスボード、油彩

199
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画②
2011年
カンヴァスボード、油彩

200
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画③
2011年
カンヴァスボード、油彩

201
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画④
2011年
カンヴァスボード、油彩

202
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑤
2011年
カンヴァスボード、油彩

203
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑥
2011年
カンヴァスボード、油彩

204
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑦
2011年
カンヴァスボード、油彩

205
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑧
2011年
カンヴァスボード、油彩

206
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑨
2011年
カンヴァスボード、油彩

207
『ゴリラが胸をたたくわけ』原画⑩
2011年
カンヴァスボード、油彩

資料 2

東京都美術館条例

東京都美術館条例施行規則

東京都美術館運営要綱

東京都美術館利用料金要綱

東京都美術館ユニークベニュー事業実施要綱

東京都美術館映画等撮影取扱要綱

フロアマップ

施設概要

利用案内

東京都美術館条例

昭和39年3月31日 条例第117号 東京都美術館条例を公布する。
○東京都美術館条例
(設置)
第1条　都民のための美術の振興を図るため、東京都美術館(以下「館」という。)を東京都台東区上野公園8番36号に設置する。(昭42条例8・昭49条例134・昭53条例65・一部改正)
(事業)
第2条　館は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 <div> <div>1　美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)の収集、保管、展示及び利用に関すること。</div> <div>2　美術に関する調査及び研究に関すること。</div> <div>3　美術に関する図書の収集、保管及び利用に関すること。</div> <div>4　美術に関する講演会、講習会等の主催及び援助に関すること。</div> <div>5　館の使用に関すること。</div> <div>6　前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業</div> </div> (昭49条例134・一部改正)

(使用の承認)
第3条　文化の振興に資する展覧会、講演会、講習会、研究会及び美術の創作等のために、館の施設及び附帯設備(以下「施設等」という。)を使用しようとする者は、東京都規則(以下「規則」という。)に定めるところにより申請し、知事の承認を受けなければならない。 <div> <div>2　知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の使用の承認をしないことができる。 <div> <div>1　館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。</div> <div>2　館の管理上支障があると認められるとき。</div> <div>3　申請に係る施設等を知事が必要と認める事業に使用するとき。</div> <div>4　前3号に掲げるもののほか、知事が不相当と認めるとき。</div> </div> </div> </div> (平14条例51・全改)

(利用料金等)
第4条　前条第一項の承認を受けた者(以下「使用者」という。)は、指定管理者(第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下この条から第6条までにおいて同じ。)に、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を前納しなければならない。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、後納することができる。 <div> <div>2　利用料金の額は、別表に定める額の範囲内において、あらかじめ知事の承認を得て、指定管理者が定めるものとする。</div> <div>3　利用料金は、指定管理者の取入とする。</div> <div>4　指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ知事の承認を得て、利用に係る予納金(以下「利用予納金」という。)を取受することができる。</div> <div>5　利用予納金は、利用料金に充当するものとする。</div> </div> (平14条例51・全改、平16条例41・平17条例29・一部改正)

(利用料金の減額又は免除)
第5条　指定管理者は、規則で定めるときその他指定管理者が特別の理由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。(平14条例51・全改、平17条例29・一部改正)
(利用料金の不還付)
第6条　指定管理者は、既納の利用料金又は利用予納金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、正当な理由があるときその他特に必要があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。(平14条例51・追加、平17条例29・一部改正)

(使用権の譲渡禁止)
第7条　使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。(平14条例51・旧第6条繰下・一部改正)

(施設等の変更禁止)
第8条　使用者は、施設等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ知事の承認を受けたときは、この限りでない。(平14条例51・旧第7条繰下・一部改正)
(使用の取消し等)
第9条　次の各号のいずれかに該当するときは、知事は使用の承認を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することができる。 <div> <div>1　使用の目的に違反したとき。</div> <div>2　この条例又は知事の指示に違反したとき。</div> <div>3　善良の風俗を害するおそれがあると認めたととき。</div> <div>4　災害その他の事故により館の使用ができなくなつたとき。</div> <div>5　工事その他の都合により、知事が特に必要と認めたととき。</div> </div> (平14条例51・一部改正)

(原状回復の義務)
第10条　使用者は、使用を終了したときは、使用した施設等を原状に回復しなければならない。前条の規定により使用の承認を取り消され、又は使用を停止されたときも、同様とする。(平14条例51・一部改正)
(賠償)
第11条　館に損害を与えた者は、その損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、やむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。(昭49条例134・全改、平14条例51・一部改正)

(入館の制限及び退館)
第12条　次の各号のいずれかに該当するときは、知事は、入館を禁じ、又は退館をさせることができる。 <div> <div>1　他人に迷惑をかけ、又は展示品若しくは施設設備等を損壊するおそれがあると認めたととき。</div> <div>2　前号のほか、管理上支障があると認めたととき。</div> </div> (昭49条例134・追加、平14条例51・一部改正)

(指定管理者による管理)
第13条　知事は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に、館の管理運営に関する業務のうち、次に掲げるものを行わせることができる。 <div> <div>1　第2条各号に掲げる事業に関する業務</div> <div>2　館の施設、設備及び物品の維持管理に関する業務</div> <div>3　前2号に掲げるもののほか、知事が特に必要と認める業務</div> </div> <div> <div>2　知事は、次に掲げる業務を指定管理者に行わせることができる。 <div> <div>1　第3条第1項の規定により、施設等の使用の承認をすること又は同条第2項の規定により、同項第1号若しくは第2号に該当するとき、施設等を必要と認める事業に使用するとき、その他使用を不相当と認めるときに、使用の承認をしないこと。</div> <div>2　第8条ただし書の規定により、施設等に特別の設備をし、又は変更を加えることについて承認をすること。</div> <div>3　第9条の規定により、同条第1号若しくは第4号に該当するとき、同条第3号に該当すると認めたととき、使用者がこの条例若しくは指定管理者の指示に違反したとき、又は工事その他の都合により特に必要と認めたとときに、使用の承認を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止すること。</div> <div>4　第12条の規定により、同条各号に該当すると認めて、入館を禁じ、又は退館をさせること。</div> </div> </div> </div> <div> <div>3　前項第1号の業務を指定管理者が行う場合において、申請に係る施設等を知事が必要と認める事業に使用するときは、指定管理者は、使用の承認をしないことができる。(平17条例29・全改)</div> </div>

(指定管理者の指定)
第14条　指定管理者としての指定を受けようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請しなければならない。 <div> <div>2　知事は、前項の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により最も適切に館の管理運営を行うことができると認める者を指定管理者に指定するものとする。</div> </div>

<div> <div>1　前条第1項各号に掲げる業務について相当の知識及び経験を有する者を当該業務に従事させることができること。</div> <div>2　安定的な経営基盤を有していること。</div> <div>3　館の効用を最大限に発揮するとともに、効率的な管理運営ができること。</div> <div>4　利用者のサービス向上を図ることができること。</div> <div>5　関係法令及び条例の規定を遵守し、適正な管理運営ができること。</div> <div>6　前各号に掲げるもののほか、規則で定める基準</div> </div>
<div> <div>3　知事は、前項の規定による指定をするときは、効率的な管理運営を考慮し、指定の期間を定めるものとする。(平17条例29・追加)</div> </div>

(知事の調査及び指示)
第15条　知事は、館の管理運営の適正を期するため、指定管理者に対して、当該管理運営の業務又は経理の状況に関し定期的に、若しくは必要に応じて臨時に報告を求め、実地について調査し、又は必要な指示をすることができる。(平17条例29・追加)

(指定管理者の指定の取消し等)
第16条　知事は、指定管理者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第2項の規定による指定を取り消し、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。 <div> <div>1　管理運営の業務又は経理の状況に関する知事の指示に従わないとき。</div> <div>2　第14条第2項各号に掲げる基準を満たさなくなつたと認めるとき。</div> <div>3　第18条第1項各号に掲げる管理運営の基準を遵守しないとき。</div> <div>4　前3号に掲げるもののほか、当該指定管理者による管理運営を継続することが適当でないと認めるとき。</div> </div> <div> <div>2　前項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部(利用料金の取受を含む場合に限る。)の停止を命じた場合等で、知事が臨時に館の管理運営を行うときに限り、新たに指定管理者を指定し、又は当該停止の期間が終了するまでの間、知事は、別表に定める額の範囲内において、知事が定める使用料を徴収する。</div> <div>3　前項の場合にあつては、第4条第1項、第4項及び第5項、第5条並びに第6条の規定を準用する。この場合において、第4条第1項中「指定管理者(第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下この条から第6条までにおいて同じ。)」とあるのは「知事」と、「その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)」とあるのは「使用料」と、「指定管理者が」とあるのは「知事が」と、同条第4項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「あらかじめ知事の承認を得て、利用に係る予納金(以下「利用予納金」という。)」とあるのは「予納金」と、「取受する」とあるのは「徴収する」と、同条第5項中「利用予納金は、利用料金」とあるのは「予納金は、使用料」と、第5条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、第6条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金又は利用予納金」とあるのは「使用料又は予納金」と読み替えるものとする。(平17条例29・追加)</div> </div>

(指定管理者の公表)
第17条　知事は、指定管理者を指定し、若しくは指定を取り消したとき、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、遅滞なくその旨を告示するものとする。(平17条例29・追加)

(管理運営の基準等)
第18条　指定管理者は、次に掲げる基準により、館の管理運営に関する業務を行わなければならない。 <div> <div>1　関係法令及び条例の規定を遵守し、適正な管理運営を行うこと。</div> <div>2　都民の平等な利用を確保すること。</div> <div>3　利用者に対して適切なサービスの提供を行うこと。</div> <div>4　館の施設、設備及び物品の維持管理を適切に行うこと。</div> <div>5　業務に関連して取得した利用者の個人に関する情報を適切に取り扱うこと。</div> <div>6　前各号に掲げるもののほか、別途知事が定める管理運営に関する基準を満たすこと。</div> </div> <div> <div>2　知事は、次に掲げる事項について、指定管理者と協定を締結するものとする。 <div> <div>1　前項各号に掲げる基準に関し必要な事項</div> <div>2　業務の実施に関する事項</div> </div> </div></div>

<div> <div>3　事業の実績報告に関する事項</div> <div>4　前3号に掲げるもののほか、館の管理運営に関し必要な事項</div> </div> (平17条例29・追加)
(委任)
第19条　この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。(昭49条例134・旧第13条繰下、平8条例33・旧第16条繰下、平14条例51・旧第17条繰上・一部改正、平17条例29・旧第14条繰下)

附則
<div> <div>1　この条例は、昭和39年4月1日から施行する。</div> <div>2　東京都美術館使用条例(昭和21年10月東京都規則第42号)は、廃止する。</div> <div>3　この条例施行の際、現に使用の承認を受けている者については、この条例による承認を受けたものとみなす。</div> <div>4　従前の東京都美術館は、この条例による東京都美術館となり、同一性をもつて存続するものとする。</div> </div>
附則(昭和42年条例第8号)
この条例は、公布の日から施行する。

附則(昭和49年条例第134号)
<div> <div>1　この条例は、昭和50年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例による改正前の東京都美術館条例第1条に定める位置に所在する東京都美術館は、この条例による改正後の東京都美術館条例の規定にかかわらず、従前の例により、昭和50年9月10日まで利用に供するものとする。</div> </div>

附則(昭和53年条例第65号)
この条例は、公布の日から施行する。

附則(昭和53年条例第104号)
<div> <div>1　この条例は、昭和54年2月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(昭和57年条例第32号)
<div> <div>1　この条例は、昭和57年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(昭和60年条例第26号)
<div> <div>1　この条例は、昭和60年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(平成元年条例第51号)
<div> <div>1　この条例は、平成元年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(平成4年条例第56号)
<div> <div>1　この条例は、平成4年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(平成8年条例第33号)
<div> <div>1　この条例は、平成8年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。</div> </div>

附則(平成10年条例第125号)
<div> <div>1　この条例は、平成11年4月1日から施行する。</div> <div>2　この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既</div> </div>

東京都美術館条例施行規則

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

東京都美術館の正面入り口

に施設の使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成14年条例第51号)

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成16年条例第41号)

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年条例第29号)

- この条例は、公布の日から施行する。
- この条例による改正前の東京都美術館条例第4条、第5条及び第13条の規定は、平成18年9月1日(同日前にこの条例による改正後の東京都美術館条例第14条第2項の規定により指定管理者の指定をした場合にあつては、当該指定の日)までの間は、なおその効力を有する。
- この条例の施行の日から前項に規定する日までの間、この条例による改正後の東京都美術館条例第6条の規定中「指定管理者」とあるのは「東京都美術館条例の一部を改正する条例(平成17年東京都条例第29号)附則第2項の規定により、なお効力を有することとされる同条例による改正前の東京都美術館条例第13条第1項の規定により委託を受けた管理受託者」とする。

附則(平成22年条例第33号)

この条例は、平成22年4月5日から施行する。

別表(第4条、第16条関係)

(平14条例51・追加、平16条例41・旧別表第1・一部改正、平17条例29・一部改正、平22条例33・一部改正)

区分	単位	金額	
施設	公募展示室	全階全室1日 <p>1室1日</p>	912,000円 <p>76,000円</p>
	企画展示室	1日	196,880円
ギャラリー	全室1日	118,450円	
	1室1日	41,220円	
搬入出審査室	全室1日	270,000円	
	1室1日	67,500円	
搬入出倉庫	全室1日	11,700円	
	1室1日	3,900円	
展覧会事務室	全室1日	49,990円	
	1室1日	4,900円	
作品収納室	全室1日	40,500円	
	1室1日	4,500円	
講堂	1日	35,200円	
スタジオ	全室1日	35,240円	
	1室1日	15,260円	
ロビー、エントランスホール	1㎡1日	100円	
その他の施設(規則で定める施設又は部分を除く。)			
附帯設備	1台、1組、一式又は1KW1日	6,400円	

平成14年3月29日

規則第109号
東京都美術館条例施行規則を公布する。
東京都美術館条例施行規則

○東京都美術館条例施行規則

○東京都美術館条例施行規則

○東京都美術館条例施行規則

○東京都美術館条例施行規則

(休館日)

- 館の休館日は、次のとおりとする。
 - 毎月第1及び第3月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その翌日)
 - 1月1日から同月3日まで
 - 12月29日から同月31日まで
- 館の図書室は、前項各号に掲げるもののほか、整理期間(1年のうち15日以内)を休館日とする。
- 知事は、特に必要があると認めるときは、前2項に定める休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。
- 第1項の規定にかかわらず、指定管理者(東京都美術館条例(昭和39年東京都条例第117号。以下「条例」という。))第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、利用者の利便の向上を図るため必要があり、かつ、前項の規定により知事が行う休館日の変更を待ついとまがないと認めるときは、第1項に定める休館日に館を臨時に開館することができる。
- 指定管理者は、前項の規定により館を臨時に開館したときは、速やかに知事に報告しなければならない。

(平16規則67・平17規則36・一部改正、平22規則39・一部改正)

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、次のとおりとする。

- 金曜日以外は、午前9時30分から午後5時30分までとする。ただし、図書室は、午前10時から午後5時までとする。
- 金曜日は、午前9時30分から午後8時までとする。ただし、公募展示室、ギャラリー、搬入出審査室、搬入出倉庫、展覧会事務室、作品収納室、講堂及びスタジオは午前9時30分から午後5時30分までとし、図書室は午前10時から午後5時までとする。
- 知事は、特に必要があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
- 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、利用者の利便の向上を図るため必要があり、かつ、前項の規定により知事が行う開館時間の変更を待ついとまがないと認めるときは、第1項に定める館の開館時間を臨時に延長することができる。
- 指定管理者は、前項の規定により館の開館時間を臨時に延長したときは、速やかに知事に報告しなければならない。

(平16規則67・平17規則36・一部改正、平22規則39・一部改正)

(使用の申請等)

- 第3条 条例第3条第1項の規定により施設等を使用しようとする者は、使用申請書を別表に定める期間内に知事に提出し、その承認を受けなければならない。
- 条例別表第1に規定する規則で定める施設又は部分とは、次に掲げるものをいう。
 - 事務室
 - 館長室
 - 収蔵庫
 - 機械室
 - 電気室
 - 前各号に掲げるもののほか、使用させることにより館の管理運営に支障が生じると知事が認めるもの

(平17規則36・一部改正)

(使用の承認)

- 第4条 前条第1項の規定により使用の承認をしたときは、知事は、使用承認書を交付するものとする。
- 前項に規定する使用承認書は、施設等を使用するときこれを係員に提示しなければならない。

(利用料金の承認の申請)

(利用予納金)

(利用料金の減免)

(指定管理者の申請)

(臨時の館の管理運営に関する準用)

(委任)

(利用料金の承認の申請)

- 第5条 指定管理者は、条例第4条第2項に規定する利用料金の額を定めるときは、利用料金承認申請書(別記第1号様式)を知事に提出し、その承認を受けなければならない。
- 指定管理者は、前項の承認を受けたときは、当該承認に係る利用料金の額を周知しなければならない。

(平17規則36・一部改正)

(利用予納金)

- 第6条 指定管理者は、条例第4条第4項の規定により利用予納金を取受しようとするときは、利用予納金承認申請書(別記第2号様式)を知事に提出し、その承認を受けなければならない。

(平17規則36・一部改正)

(利用料金の減免)

- 第7条 条例第5条に規定する規則で定める利用料金を減額することができる場合及びその減額の割合又は免除することができる場合は、次に定めるとおりとする。
 - 若手芸術家として知事が別に定める芸術家の創造活動又は伝統文化活動を支援する事業で知事が指定する事業を実施するために施設等を使用するとき。 免除
 - 都内の小学校、中学校及び高等学校並びにこれらに準ずるものが、児童又は生徒のための事業を実施するために施設を使用するとき。 5割
 - 官公署が施設を使用するとき。 2割5分

(平16規則67・一部改正)

(指定管理者の申請)

- 第8条 条例第14条第1項の規定による申請は、指定管理者指定申請書(別記第3号様式)に次に掲げる書類を添付して行うものとする。
 - 事業計画書
 - 文化施設又はこれに類する施設の管理運営に関する業務実績を記載した書類
 - 定款、寄附行為、規約又はこれらに類するもの
 - 法人の登記事項証明書(法人の場合に限る。)
 - 貸借対照表及び損益計算書又はこれらに類するもの
 - 団体の組織、沿革その他事業の概要を記載した書類
 - 前各号に掲げるもののほか、知事が必要と認める書類

(平17規則36・全改)

(指定管理者の指定の基準)

- 第9条 条例第14条第2項第6号の規則で定める基準は、次に掲げるものとする。
 - 都の文化施策及び文化施設運営の方針にのっとり、都と密接に連携して管理運営を行うことができること。
 - 文化施設又はこれに類する施設における良好な管理運営の実績を有すること。
 - 文化施設の管理運営に係る技術及び能力の指導育成体制が整備されていること。
 - 前3号に掲げるもののほか、館の適正な管理運営を行うために知事が定める基準

(平17規則36・追加)

(指定管理者に関する読替え)

- 第10条 条例第13条の規定により指定管理者が館の管理運営に関する業務を行う場合についての第3条第1項及び第4条第1項の規定の適用については、これらの規定中「知事」とあるのは「指定管理者」とする。

(平17規則36・追加)

(臨時の館の管理運営に関する準用)

- 第11条 第7条の規定は、条例第16条第2項の規定により知事が使用料を徴収する場合について準用する。この場合において、第7条中「利用料金」とあるのは「使用料」と読み替えるものとする。

(平17規則36・追加)

(委任)

- 第12条 この規則の施行について必要な事項は、東京都生活文化局長が定める。

(平17規則36・旧第9条継下、平19規則147・一部改正、平22規則163・一部改正)

(利用料金の承認の申請)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。
附則(平成16年規則第67号)
この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年規則第36号)

- この規則は、公布の日から施行する。
- この規則による改正前の東京都美術館条例施行規則第1条第4項及び第5項、第2条第3項及び第4項、第3条第1項、第5条、第6条、第8条並びに別記第1号様式及び第2号様式の規定は、平成18年9月1日(同日前に東京都美術館条例の一部を改正する条例(平成17年東京都条例第29号)による改正後の東京都美術館条例(昭和39年東京都条例第117号)第14条第2項の規定により指定管理者の指定をした場合にあつては、当該指定の日)までの間は、なおその効力を有する。

附則(平成19年規則第147号)

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成22年規則第39号)

この規則は、平成22年4月5日から施行する。

附則(平成22年規則第263号)

この規則は、平成22年7月16日から施行する。

別表(第3条関係)

(平22規則39・一部改正)

区分	提出期間
企画展示室	使用月の属する年度の前々年度の6月1日から使用日の前日まで
公募展示室	使用月の属する年度の前々年度の4月1日から使用日の前日まで
ギャラリー	
搬入出審査室	公募展示室又はギャラリーを使用する月の6月前の月の
搬入出倉庫	初日から使用日の前日まで
展覧会事務室	
作品収納室	
講堂	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
スタジオ	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って講堂を使用する場合に限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)
ロビー	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
エントランスホール	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って使用する場合に
その他の施設	限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)
附帯設備	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って使用する場合に限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)

<別記様式 省略>

東京都美術館利用料金要綱

<p>平成14年4月1日 理事長決定</p>	
<p>（趣旨）</p> <p>第1　この要綱は、東京都美術館(以下「館」という。)の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)の額、後納、減額、免除及び還付の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。</p>	

<p>（定義）</p> <p>第2　この要綱に規定する利用料金は、東京都美術館条例第4条別表に規定する館の施設及び附帯設備の利用料金をいう。</p>	
<p>（料金の額）</p> <p>第3　利用料金は、別表「東京都美術館利用料金表」のとおりとする。</p>	
<p>（後納の事由）</p> <p>第4　利用料金を後納できる場合は、次の場合をいう。 (1)官公署等が、その会計制度上前渡金で処理できないとき。 (2)その他、正当な理由により館長が特に必要と認めるとき。</p>	

<p>（減免の事由）</p> <p>第5　利用料金については、次の事由に該当する場合に減免することができる。 (1)若手芸術家として知事が別に定める芸術家の創造活動又は伝統文化活動を支援する事業で知事が指定する事業を実施するために施設等を使用するとき。 免除 (2)都内の小学校、中学校及び高等学校並びにこれらに準ずるものが、児童又は生徒のための事業を実施するために施設を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。 50%減額 (3)官公署が施設を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。 25%減額 (4)公益財団法人東京都歴史文化財団が主催又は共催する事業に施設を使用する場合、館の振興のために特に必要があると認められるとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。 50%減額 (5)展示室又はギャラリー使用期間中、展示に関する事業のため、講堂を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。 25%減額 (6)上記のほか、次の事由に該当し、館長が特に必要と認めるとき。</p> <ol style="list-style-type: none">後援、協賛等の名義の使用を承認するなど館の振興に寄与することが明確であるとき。 減額 その他、実施事業が館の運営方針と合致し、特段の配慮が必要であると認めるとき。 減額又は免除	
--	--

<p>（還付の事由）</p> <p>第6　利用料金を還付できる場合は以下の場合をいう。 (1)条例第9条第3号から第5号の規定により、使用の承認を取り消されたとき。 (2)その他、正当な理由により館長が特に必要と認めるとき。</p>	
<p>（申請）</p> <p>第7　利用料金の後納、減免、還付の取扱いを受けようとする者から以下に定める申請書を徴する。</p> <p>(1)第4の規定により施設等使用料の後納を申請する者 施設利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の1) 附帯設備利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の2) (2)第5の規定により施設等使用料の減額及び免除を受けようとする者 施設利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の1) 附帯設備利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の2) (3)第6の規定により施設等使用料の還付を受けようとする者 施設利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の1) 附帯設備利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の2)</p>	

<p>(4)申請者は、(3)の場合を除き、原則として施設の使用申請書の提出のときに(1)と(2)に定める申請書を提出するものとする。</p>	
<p>（承認）</p> <p>第8　利用料金の後納、減免、還付を承認したときは、館長は以下に定める承認書を交付するものとする。</p> <p>(1)第4の規定により施設等使用料の後納を承認したとき。 施設利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の1) 附帯設備利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の2) (2)第5の規定により施設等使用料の減額及び免除を承認したとき。 施設利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の1) 附帯設備利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の2) (3)第6の規定により施設等使用料の還付を承認したとき。 施設利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の1) 附帯設備利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の2)</p>	

<p>附則</p> <p>この要綱は、平成14年4月1日から施行する。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、平成17年4月1日から施行する。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、平成18年4月1日から施行する。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、平成21年4月1日から施行する。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、平成22年4月1日から施行する。ただし、改正後の第5(5)及び別表の規定は、同年4月4日までは、なお従前の例による。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、平成29年4月1日から施行する。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、令和2年1月1日から施行する。ただし、改正前の東京都美術館利用料金要綱の別記様式による用紙(令和元年12月31日以前に提出されたものに限る。)については、承認書の交付に当たり、なお使用することができる。</p> <p>附則</p> <p>この要綱は、令和3年4月1日から施行する。</p>	
---	--

<p>別記</p> <p>第1号様式の1(第4関係)施設利用料後納申請書兼承認書 第1号様式の2(第4関係)附帯設備利用料後納申請書兼承認書 第2号様式の1(第5関係)施設利用料減免申請書兼承認書 第2号様式の2(第5関係)附帯設備利用料減免申請書兼承認書 第3号様式の1(第6関係)施設利用料還付申請書兼承認書 第3号様式の2(第6関係)附帯設備利用料還付申請書兼承認書</p>	
<p><別記様式　省略></p>	

<p>東京都美術館利用料金表</p> <p>展示室等</p> <table> <tbody><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>金額</th></tr> <tr><td>展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 公募展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全展示室</td><td>全室1日</td><td>684,000円</td></tr> <tr><td> 地階第一展示室</td><td>各室1室1日</td><td>57,000円</td></tr> <tr><td> 地階第二展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 地階第三展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 地階第四展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階第一展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階第二展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階第三展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階第四展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階第一展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階第二展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階第三展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階第四展示室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 企画展示室</td><td>全室1日</td><td>147,700円</td></tr> <tr><td>ギャラリー</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全ギャラリー</td><td>全室1日</td><td>64,000円</td></tr> <tr><td> ギャラリーA</td><td>各室1室1日</td><td>22,300円</td></tr> <tr><td> ギャラリーB</td><td></td><td>16,300円</td></tr> <tr><td> ギャラリーC</td><td></td><td>25,400円</td></tr> <tr><td>搬入出作業室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全作業室</td><td>全室1日</td><td>90,700円</td></tr> <tr><td> 第一作業室A</td><td>各室1室1日</td><td>10,000円</td></tr> <tr><td> 第一作業室B</td><td></td><td>8,300円</td></tr> <tr><td> 第二作業室A</td><td></td><td>14,300円</td></tr> <tr><td> 第二作業室B</td><td></td><td>8,300円</td></tr> <tr><td> 第三作業室A</td><td></td><td>12,300円</td></tr> <tr><td> 第三作業室B</td><td></td><td>8,300円</td></tr> <tr><td> 第四作業室A</td><td></td><td>12,300円</td></tr> <tr><td> 第四作業室B</td><td></td><td>16,900円</td></tr> <tr><td>作品審査室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全審査室</td><td>全室1日</td><td>49,700円</td></tr> <tr><td> 第一審査室</td><td>各室1室1日</td><td>7,100円</td></tr> <tr><td> 第二審査室A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第二審査室B</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第三審査室A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第三審査室B</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第四審査室A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第四審査室B</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>搬入出倉庫</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全倉庫</td><td>全室1日</td><td>7,300円</td></tr> <tr><td> 第一倉庫</td><td>各室1室1日</td><td>2,900円</td></tr> <tr><td> 第二倉庫</td><td></td><td>1,500円</td></tr> <tr><td> 第三倉庫</td><td></td><td>2,900円</td></tr> <tr><td>作品収納室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全収納室</td><td>全室1日</td><td>30,600円</td></tr> <tr><td> 地階収納室A</td><td>各室1室1日</td><td>3,400円</td></tr> <tr><td> 地階収納室C</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階収納室A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階収納室C</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階収納室A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階収納室C</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 地階収納室B 1</td><td>各室1室1日</td><td>1,700円</td></tr> <tr><td> 地階収納室B 2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階収納室B 1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 一階収納室B 2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階収納室B 1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 二階収納室B 2</td><td></td><td></td></tr> </tbody></table>	区分	単位	金額	展示室			公募展示室			全展示室	全室1日	684,000円	地階第一展示室	各室1室1日	57,000円	地階第二展示室			地階第三展示室			地階第四展示室			一階第一展示室			一階第二展示室			一階第三展示室			一階第四展示室			二階第一展示室			二階第二展示室			二階第三展示室			二階第四展示室			企画展示室	全室1日	147,700円	ギャラリー			全ギャラリー	全室1日	64,000円	ギャラリーA	各室1室1日	22,300円	ギャラリーB		16,300円	ギャラリーC		25,400円	搬入出作業室			全作業室	全室1日	90,700円	第一作業室A	各室1室1日	10,000円	第一作業室B		8,300円	第二作業室A		14,300円	第二作業室B		8,300円	第三作業室A		12,300円	第三作業室B		8,300円	第四作業室A		12,300円	第四作業室B		16,900円	作品審査室			全審査室	全室1日	49,700円	第一審査室	各室1室1日	7,100円	第二審査室A			第二審査室B			第三審査室A			第三審査室B			第四審査室A			第四審査室B			搬入出倉庫			全倉庫	全室1日	7,300円	第一倉庫	各室1室1日	2,900円	第二倉庫		1,500円	第三倉庫		2,900円	作品収納室			全収納室	全室1日	30,600円	地階収納室A	各室1室1日	3,400円	地階収納室C			一階収納室A			一階収納室C			二階収納室A			二階収納室C			地階収納室B 1	各室1室1日	1,700円	地階収納室B 2			一階収納室B 1			一階収納室B 2			二階収納室B 1			二階収納室B 2			
区分	単位	金額																																																																																																																																																																																			
展示室																																																																																																																																																																																					
公募展示室																																																																																																																																																																																					
全展示室	全室1日	684,000円																																																																																																																																																																																			
地階第一展示室	各室1室1日	57,000円																																																																																																																																																																																			
地階第二展示室																																																																																																																																																																																					
地階第三展示室																																																																																																																																																																																					
地階第四展示室																																																																																																																																																																																					
一階第一展示室																																																																																																																																																																																					
一階第二展示室																																																																																																																																																																																					
一階第三展示室																																																																																																																																																																																					
一階第四展示室																																																																																																																																																																																					
二階第一展示室																																																																																																																																																																																					
二階第二展示室																																																																																																																																																																																					
二階第三展示室																																																																																																																																																																																					
二階第四展示室																																																																																																																																																																																					
企画展示室	全室1日	147,700円																																																																																																																																																																																			
ギャラリー																																																																																																																																																																																					
全ギャラリー	全室1日	64,000円																																																																																																																																																																																			
ギャラリーA	各室1室1日	22,300円																																																																																																																																																																																			
ギャラリーB		16,300円																																																																																																																																																																																			
ギャラリーC		25,400円																																																																																																																																																																																			
搬入出作業室																																																																																																																																																																																					
全作業室	全室1日	90,700円																																																																																																																																																																																			
第一作業室A	各室1室1日	10,000円																																																																																																																																																																																			
第一作業室B		8,300円																																																																																																																																																																																			
第二作業室A		14,300円																																																																																																																																																																																			
第二作業室B		8,300円																																																																																																																																																																																			
第三作業室A		12,300円																																																																																																																																																																																			
第三作業室B		8,300円																																																																																																																																																																																			
第四作業室A		12,300円																																																																																																																																																																																			
第四作業室B		16,900円																																																																																																																																																																																			
作品審査室																																																																																																																																																																																					
全審査室	全室1日	49,700円																																																																																																																																																																																			
第一審査室	各室1室1日	7,100円																																																																																																																																																																																			
第二審査室A																																																																																																																																																																																					
第二審査室B																																																																																																																																																																																					
第三審査室A																																																																																																																																																																																					
第三審査室B																																																																																																																																																																																					
第四審査室A																																																																																																																																																																																					
第四審査室B																																																																																																																																																																																					
搬入出倉庫																																																																																																																																																																																					
全倉庫	全室1日	7,300円																																																																																																																																																																																			
第一倉庫	各室1室1日	2,900円																																																																																																																																																																																			
第二倉庫		1,500円																																																																																																																																																																																			
第三倉庫		2,900円																																																																																																																																																																																			
作品収納室																																																																																																																																																																																					
全収納室	全室1日	30,600円																																																																																																																																																																																			
地階収納室A	各室1室1日	3,400円																																																																																																																																																																																			
地階収納室C																																																																																																																																																																																					
一階収納室A																																																																																																																																																																																					
一階収納室C																																																																																																																																																																																					
二階収納室A																																																																																																																																																																																					
二階収納室C																																																																																																																																																																																					
地階収納室B 1	各室1室1日	1,700円																																																																																																																																																																																			
地階収納室B 2																																																																																																																																																																																					
一階収納室B 1																																																																																																																																																																																					
一階収納室B 2																																																																																																																																																																																					
二階収納室B 1																																																																																																																																																																																					
二階収納室B 2																																																																																																																																																																																					

<p>展示室等</p> <table> <tbody><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>金額</th></tr> <tr><td>展示会事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全事務室</td><td>全室1日</td><td>28,800円</td></tr> <tr><td> 第一事務室</td><td>各室1室1日</td><td>2,400円</td></tr> <tr><td> 第二事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第三事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第四事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第五事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第六事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第七事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第八事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第九事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第十事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第十一事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 第十二事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ギャラリー事務室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 全事務室</td><td>全室1日</td><td>6,200円</td></tr> <tr><td> ギャラリーA</td><td>各室1室1日</td><td>2,000円</td></tr> <tr><td> ギャラリーB</td><td></td><td>2,600円</td></tr> <tr><td> ギャラリーC</td><td></td><td>1,600円</td></tr> </tbody></table>	区分	単位	金額	展示会事務室			全事務室	全室1日	28,800円	第一事務室	各室1室1日	2,400円	第二事務室			第三事務室			第四事務室			第五事務室			第六事務室			第七事務室			第八事務室			第九事務室			第十事務室			第十一事務室			第十二事務室			ギャラリー事務室			全事務室	全室1日	6,200円	ギャラリーA	各室1室1日	2,000円	ギャラリーB		2,600円	ギャラリーC		1,600円	
区分	単位	金額																																																											
展示会事務室																																																													
全事務室	全室1日	28,800円																																																											
第一事務室	各室1室1日	2,400円																																																											
第二事務室																																																													
第三事務室																																																													
第四事務室																																																													
第五事務室																																																													
第六事務室																																																													
第七事務室																																																													
第八事務室																																																													
第九事務室																																																													
第十事務室																																																													
第十一事務室																																																													
第十二事務室																																																													
ギャラリー事務室																																																													
全事務室	全室1日	6,200円																																																											
ギャラリーA	各室1室1日	2,000円																																																											
ギャラリーB		2,600円																																																											
ギャラリーC		1,600円																																																											

<p>講堂・スタジオ等</p> <table> <tbody><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>金額</th></tr> <tr><td>講堂</td><td>1室</td><td>全日 午前 午後 12,200円</td></tr> <tr><td>スタジオ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> スタジオ1</td><td>各室1室</td><td>全日 午前 午後 7,200円 3,600円 3,600円</td></tr> <tr><td> スタジオ2</td><td></td><td>全日 午前 午後 6,900円 3,500円 3,500円</td></tr> <tr><td> スタジオ3</td><td></td><td>全日 午前 午後 2,500円 1,300円 1,300円</td></tr> <tr><td>ロビー・エントランス</td><td>1㎡</td><td>75円</td></tr> </tbody></table>	区分	単位	金額	講堂	1室	全日 午前 午後 12,200円	スタジオ			スタジオ1	各室1室	全日 午前 午後 7,200円 3,600円 3,600円	スタジオ2		全日 午前 午後 6,900円 3,500円 3,500円	スタジオ3		全日 午前 午後 2,500円 1,300円 1,300円	ロビー・エントランス	1㎡	75円	
区分	単位	金額																				
講堂	1室	全日 午前 午後 12,200円																				
スタジオ																						
スタジオ1	各室1室	全日 午前 午後 7,200円 3,600円 3,600円																				
スタジオ2		全日 午前 午後 6,900円 3,500円 3,500円																				
スタジオ3		全日 午前 午後 2,500円 1,300円 1,300円																				
ロビー・エントランス	1㎡	75円																				

<p>付帯設備</p> <table> <tbody><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>(新)金額</th></tr> <tr><td>展示設備</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 陳列ケース</td><td>各設備1台1日</td><td>800円</td></tr> <tr><td> 審査台</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> フォークリフト</td><td>1台1時間</td><td>1,600円</td></tr> <tr><td>映写機</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> プロジェクター</td><td>1台</td><td>全日 午前 午後 1,600円 800円 800円</td></tr> <tr><td>音響設備</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> マイクセット</td><td>1組</td><td>全日 午前 午後 1,600円 800円 800円</td></tr> <tr><td>持ち込み機材使用電気料</td><td>1KW／h</td><td>40円</td></tr> </tbody></table>	区分	単位	(新)金額	展示設備			陳列ケース	各設備1台1日	800円	審査台			フォークリフト	1台1時間	1,600円	映写機			プロジェクター	1台	全日 午前 午後 1,600円 800円 800円	音響設備			マイクセット	1組	全日 午前 午後 1,600円 800円 800円	持ち込み機材使用電気料	1KW／h	40円	
区分	単位	(新)金額																													
展示設備																															
陳列ケース	各設備1台1日	800円																													
審査台																															
フォークリフト	1台1時間	1,600円																													
映写機																															
プロジェクター	1台	全日 午前 午後 1,600円 800円 800円																													
音響設備																															
マイクセット	1組	全日 午前 午後 1,600円 800円 800円																													
持ち込み機材使用電気料	1KW／h	40円																													

フロアマップ

【M3階(中3階)】
公募展第9、10、11、12事務室

【2階】
公募展示室2階第1、2、3、4
レストラン「RESTAURANT MUSE」
プロジェクトルーム
スタジオ
アートスタディールーム
企画展示室

公募展第5、6、7、8事務室
公募展示室1階第1、2、3、4
カフェ「cafe Art」
佐藤慶太郎記念 アートラウンジ
レストラン「RESTAURANT salon」
美術情報室
企画展示室

【MB階(中1階)】
公募展第1、2、3、4事務室

【LB階】
公募展示室LB階第1、2、3、4
事務室
救護室
授乳室
ミュージアムショップ
講堂
企画展示室

【地下2階】
ギャラリーC

【地下3階】
ギャラリーA
ギャラリーB



施設概要

住所 東京都台東区上野公園8番36号
地域・地区 第1種中高層住居専用地域
準防火地域/第1種文教地区/第2種風致地区/第3種高度地区
建ぺい率 40%
容積率 300%

敷地面積 16,638.84㎡
建築面積 7,999.47㎡
延床面積 37,748.81㎡
鉄筋コンクリート造/鉄骨鉄筋コンクリート造(一部)/鉄骨造(一部)

高さ 最高高さ17.4m/軒高15.6m
*風致地区の高さ制限や公園法により、エントランスロビーを含むメインフロアはLB階(地下1階)に設定されている。

【企画棟】
企画展示室
LB階 709㎡(倉庫55㎡、展示ケース82㎡を含む)
1階 713㎡(倉庫55㎡、展示ケース83㎡を含む)
2階 714㎡(倉庫57㎡を含む)
*天井高4.5m

【公募棟】
ギャラリー
A(地下3階) 412㎡、天井高9.9m
B(地下3階) 303㎡、天井高3m
C(地下2階) 470㎡、天井高2.4m/5.8m

公募展示室
LB階 第1、第2、第3、第4 3,040㎡
1階 第1、第2、第3、第4 3,040㎡
2階 第1、第2、第3、第4 3,040㎡
*各3室、全12室、天井高4.8m
*1室平均面積760㎡、ロビー全面積445㎡
*1室平均壁長271m、全室壁長3,256m

【中央棟】
ミュージアムショップ(LB階) 127㎡
佐藤慶太郎記念アートラウンジ(1階) 391㎡(52席)
カフェ「cafe Art(カフェアート)」(1階) 103㎡(50席)
レストラン「RESTAURANT MUSE(レストラン ミューズ)」(2階) 481㎡(200席)

【交流棟】
講堂(LB階) 284㎡
(客席254㎡[固定225席+車椅子スペース5席]、舞台30㎡)
美術情報室(1階) 88㎡(14席)
レストラン「RESTAURANT salon(レストラン サロン)」(1階) 249㎡(客席50席)
スタジオ(2階) 146㎡
アートスタディールーム(2階) 153㎡

利用案内

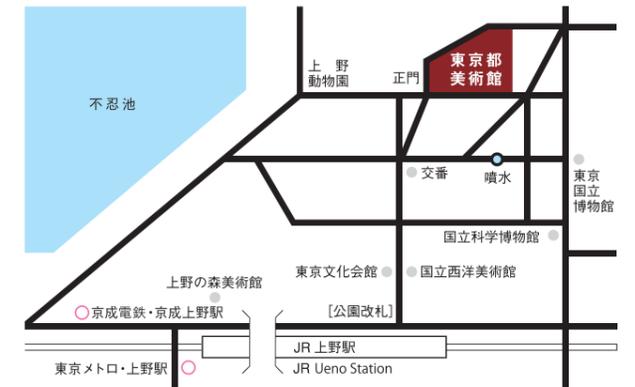
【開館時間】
9:30～17:30(特別展開催中の金曜日は9:30～20:00)
※いずれも入館は閉館時間の30分前まで

【休室日】
特別展・企画展
毎週月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)
上記以外の展覧会
第1・第3月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)

【全館休館日】
毎月第1・第3月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)
整備休館
年末年始
12月29日～1月3日

【アメニティ施設】
○美術情報室(交流棟1階) 10:00～17:00 ※整備休室あり
○ミュージアムショップ(中央棟LB階) 9:30～17:30*
○レストラン「RESTAURANT MUSE」(中央棟2階) 11:00～17:30*
○レストラン「RESTAURANT salon」(交流棟1階) 11:00～17:30*
○カフェ「cafe Art」(中央棟1階) 9:30～17:30*
*特別展開催中の金曜日のみ20:00まで
※いずれも休日は美術館の全館休館日に準ずる

【アクセス】
・JR上野駅 公園改札より徒歩7分
・東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅7番出口より徒歩10分
・京成電鉄 京成上野駅より徒歩10分
※駐車場はございませんので、車のご来館はご遠慮ください。



東京都美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
TEL 03-3823-6921(代表)
FAX 03-3823-6920

ホームページ <https://www.tobikan.jp>
ツイッター https://x.com/tobikan_jp
フェイスブック <https://www.facebook.com/TokyoMetropolitanArtMuseum>
インスタグラム <https://www.instagram.com/tokyometropolitanartmuseum>

令和5年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2023

発行日／令和6年10月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921 (代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum

